

7th Asia Pacific Deaf Games 2012 26 May – 2 June, Seoul, KOREA

第7回アジア太平洋ろう者競技大会 本部報告書



12年ぶりの開催となった今大会はアジア太平洋地域から25の国と地域が参加した。

財団法人全日本ろうあ連盟

開会式



日本入場



外の様子



中の様子

組織委員会・本部



大会組織委員会



JPC からの視察



本部事務局



TD会議スケジュール

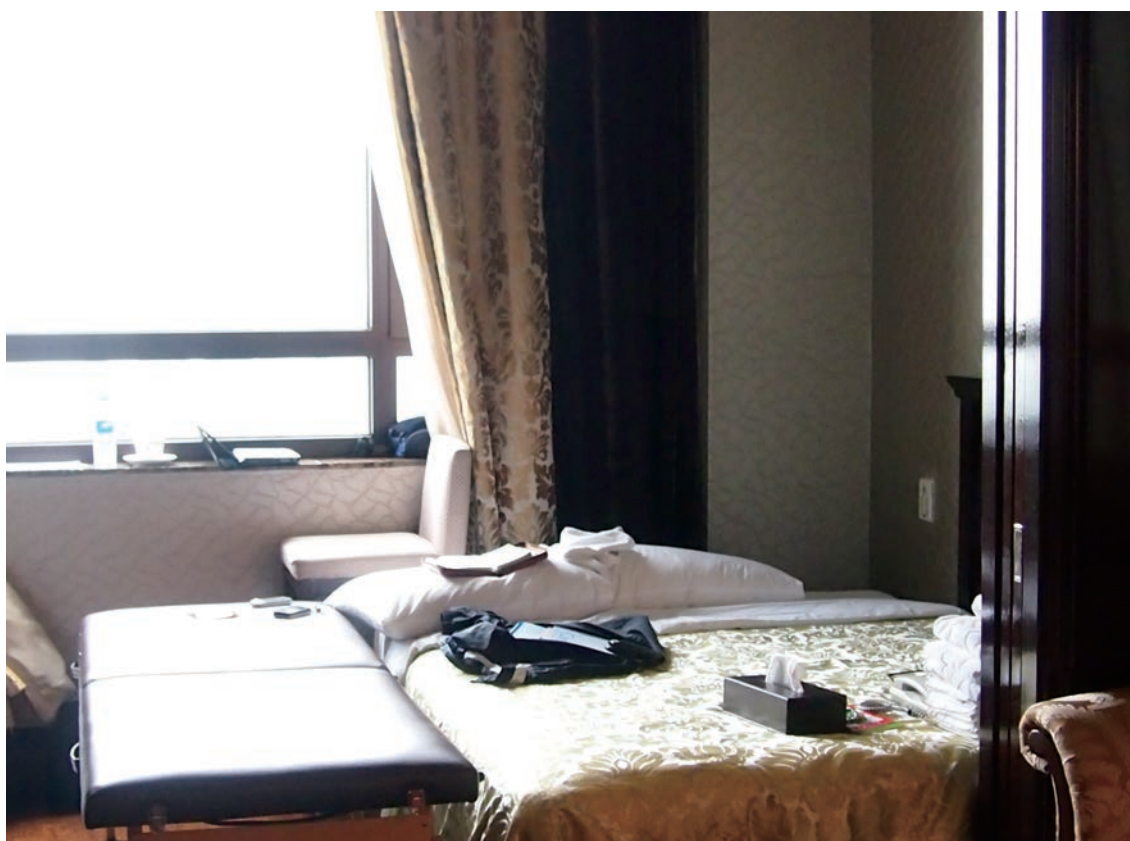


競技スケジュール

メディカル



診察室入口



診察室

メディカル



診察室薬置き場



診察資料

メディカル



医師の診断



トレーナーの診断

選手の活躍



バドミントン



野球



バスケットボール



ボウリング



自転車



サッカー

選手の活躍



フットサル



柔道



水泳



卓球



テニス



バレーボール

閉会式



会場



舞台手話通訳設営



日本入場



閉会式は屋外で行われた

目 次

◆大会概要	1
○現地本部名簿および参加競技団体一覧	2
◆成績一覧	
○メダリスト	3
○国別メダル獲得ランキング	5
○競技別成績	6
◆報告	
○本部	17
○競技団体	25
◆資料	
○聴力検査表	43
○健康調査	44
○診療記録	48
○現地速報	50

ソウル2012 大会概要

- 1 大会名称 第7回アジア太平洋ろう者競技大会（通称：ソウル2012）
- 2 開催期間 2012年5月26日（土）開会式
～2012年6月2日（土）閉会式【8日間】
※渡航日程 2012年5月24日（木）～6月3日（日）予定
※サッカー競技は2012年5月23日（水）～6月3日（日）
- 3 開催国・都市 大韓民国・ソウル市
- 4 運営主体 アジア太平洋ろう者スポーツ連合
（Asia Pacific Deaf Sports Confederation）
2012ソウルアジア太平洋ろう者競技大会組織委員会
（The 2012 Seoul Asia Deaf Pacific Games Organizing Committee）
- 5 参加国・地域数 25ヶ国・地域（2012年6月現在）
- 6 参加人数 1,246人（2012年6月現在）
- 7 実施競技 陸上、バドミントン、野球（硬式*デモ）*、バスケットボール（男子のみ）、ボウリング、自転車（男子のみ）*、サッカー（男子のみ）、フットサル（男子のみ）*、柔道、水泳、テコンドー*、卓球、テニス、バレーボール（女子のみ）、<14競技>
・アンダーラインは日本選手が参加予定の競技（12競技）
・*-野球、自転車、フットサル、テコンドーは新規競技

なお、本大会は2013年に開催される、第22回夏季デフリンピックのアジア・太平洋地域予選会を兼ねており、団体競技（バレー女子、バスケットボール男子、サッカー男子）はこの大会で以下の出場枠内に入る成績をおさめることでデフリンピックへの出場権を得ることになります。

競技名	男子出場枠	女子出場枠
バレーボール	3	2
バスケットボール	3	3
サッカー	5	2

- 8 日本選手団 選手123名、競技役員スタッフ71名（2012年4月現在）、
評議員2名 総計196名
（うち派遣数 選手123名、競技役員スタッフ59名、
スポーツ委員会現地本部：14名）

<(財)全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 現地本部名簿>

2012年5月26日現在

No	役 職	名 前	性別	年齢	備 考
1	本部長	山根 昭治	男	56	社団法人北海道ろうあ連盟
2	副本部長	太田 陽介	男	53	社会福祉法人福岡県聴覚障害者協会
3	副本部長	粟野 達人	男	55	社団法人東京都聴覚障害者連盟
4	総務	内藤 ひろみ	女	37	健聴者
5	総務	加茂下 和子	女	40	健聴者
6	医者（外科）	立石 智彦	男	44	健聴者
7	医者（内科）	羽森 貫	男	36	健聴者
8	アスレティックトレーナー	中島 幸則	男	49	健聴者
9	看護師	宮坂 良子	女	49	健聴者
10	手話通訳士	梅本 悦子	女	64	健聴者
11	手話通訳士	長崎 千佳恵	女	44	健聴者
12	輸送	林 孝雄	男	62	健聴者
13	輸送	白坂 篤志	男	35	健聴者
14	現地語通訳	桑原 絵美	女	31	ろう者（韓国在住）
					合計 14 名

<競技団体／選手・スタッフ数>

No	競技名	男 子	女 子	スタッフ	備 考
1	バドミントン	4	4	2	
2	野球	15	0	3	監督兼スタッフ含
3	バスケットボール（男子）	12	0	5	
4	ボウリング	6	0	2	監督兼スタッフ含
5	自転車	5	0	9	
6	サッカー（男子）	22	0	8	
7	フットサル	9	0	3	
8	柔道	5	0	3	
9	水泳	8	5	4	
10	卓球	4	4	9	
11	テニス	4	4	5	
12	バレーボール（女子）	0	12	6	
		94	29	59	合計 182 名

<日本人TD※ APSDCより召集>

No	競技名	男 子	女 子		備 考
1	サッカー（男子）	1	0		
2	バレーボール（女子）	1	0		
		2	0	0	合計 2 名

成績一覽

メダリスト

No.	種 目		氏 名								メダル
1	バドミントン	女子ダブルス	樋渡美香 品田千紘								銅メダル
2	野球	男子団体	高木伸英 三秋和郎 室谷 智 小笠原宏 神藤智仁 石井利和 石川卓也 池田和明 塚田和宏 藤澤康博 馬場功一郎 野呂義光 六倉忠亮 工藤 努 坂口健二								金メダル
3	バスケットボール	男子団体	早川倫夫 石川友正 中山朋人 榎並泰徳 丹沢佑輔 吉良悠祐 小立哲也 辻 朋大 下山田俊介 小沼功治 大平良龍 竹本圭祐								銀メダル
4	サッカー	男子団体	松本卓巳 千葉駿介 菱岡敬彰 野呂 啓 細見尚史 毛塚丈博 村田 繁 唐橋 翼 水本博司 桐生聖明 中島正行 吉野勇樹 伊東高志 古島啓太 塩田知弘 綿貫俊基 松本 弘 河野 翔 渡邊亮平 野間三夫 古 隆喜 大熊浩之								金メダル
5	フットサル	男子団体	高橋恭平 植松隼人 船越弘幸 木根淵慶彦 東海林直広 曽根靖裕 野島康博 山本高大 折橋正紀								銅メダル
6	柔 道	男子-60kg級	吉良暁生								金メダル
7		男子-66kg級	東岸林太郎								銅メダル
8		男子-73kg級	木ノ下寿								金メダル
9		男子-81kg級	宮下真弥								銀メダル
10		男子-100kg級	山田光穂								銀メダル
11	水泳（男子）	男子50M自由形	茨隆太郎								銀メダル
12		男子100M自由形									銀メダル
13		男子50M背泳ぎ									銀メダル
14		男子100M背泳ぎ									銀メダル
15		男子200M背泳ぎ									銀メダル
16		男子200M個人メドレー	金持義和								金メダル
17		男子400M個人メドレー									金メダル
18		男子50M平泳ぎ									銀メダル
19		男子50M背泳ぎ									金メダル
20		男子100M背泳ぎ									金メダル
21		男子200M背泳ぎ									金メダル
22		男子200M自由形	藤原 慧								金メダル
23		男子400M自由形									金メダル
24		男子1500M自由形									金メダル
25		男子200Mバタフライ									銀メダル
26		男子400M自由形	山本 駿								銅メダル
27		男子1500M自由形									銀メダル
28		男子50Mバタフライ									銅メダル
29		男子100Mバタフライ									銀メダル
30		男子400M個人メドレー	小塩宗文								銅メダル
31		男子4×100Mドレーリレー	茨隆太郎 金持義和 藤原 慧 山本 駿								銀メダル
32		男子400Mリレー									金メダル
33		男子4×200リレー									金メダル
34	水泳（女子）	女子50M自由形	今村可奈								銀メダル
35		女子100M自由形									金メダル
36		女子200M自由形									金メダル
37		女子400M自由形									金メダル
38		女子50M背泳ぎ									銀メダル
39		女子100M背泳ぎ									銀メダル
40		女子100Mバタフライ	藤川彩夏								銅メダル
41		女子50M背泳ぎ									銅メダル
42		女子100M背泳ぎ									金メダル

No,	種 目	氏 名	メダル
43	水泳（女子）	女子200M背泳ぎ	金メダル
44		女子50Mバタフライ	金メダル
45		女子100Mバタフライ 藤川彩夏	銀メダル
46		女子200M個人メドレー	銀メダル
47		女子400M個人メドレー	金メダル
48		女子50M自由形	銅メダル
49		女子100M平泳ぎ 高瀬理恵	銀メダル
50		女子200M平泳ぎ	銀メダル
51		女子200M自由形	銀メダル
52		女子400M自由形	銀メダル
53		女子100M平泳ぎ 久保 南	金メダル
54		女子200M平泳ぎ	金メダル
55		女子200M個人メドレー	銅メダル
56	卓球	男子団体 梅村正樹 望月翔太 有馬欽生 上江洲光彦	銅メダル
57		女子団体 上田 萌 佐藤理穂 有馬千寿子 牧山洋子	金メダル
58		女子シングルス 上田 萌	金メダル
59		佐藤理穂	銀メダル
60		男子ダブルス 梅村正樹 有馬欽生	銅メダル
61		女子ダブルス 上田 萌 佐藤理穂	金メダル
62		混合ダブルス 梅村正樹 上田 萌	銀メダル
63		望月翔太 佐藤理穂	銅メダル
64	テニス	男子シングルス 松下哲也	銅メダル
65		男子ダブルス 芦野正樹 梶野耕祐	銀メダル
66		女子ダブルス 辻岡瑞恵 豊田恵子	銅メダル
67		飯塚由美子 尾形滋子	銅メダル
68		混合ダブルス 松下哲也 豊田恵子	金メダル
69		高濱哲郎 辻岡瑞恵	銅メダル
70	バレーボール	女子団体 柳川奈美子 宇賀郡早紀 菅谷美穂 長澤みゆき 畠奈々子 工門千紘 島尻真鈴 河尻奈美 高良美樹 西内瑛里 安積梨絵 安積千夏	金メダル

獲得メダル数	金メダル	28
	銀メダル	25
	銅メダル	17
	合 計	70

国別メダル獲得ランキング

順位	国 名	金	銀	銅	計
1	 日本	28	25	17	70
2	 中国	25	12	18	55
3	 大韓民国	20	28	24	72
4	 チャイニーズタイペイ	11	21	22	54
5	 イラン	10	8	10	28
6	 オーストラリア	3	3	1	7
7	 マカオ	3	0	2	5
8	 インドネシア	2	3	2	7
9	 カザフスタン	1	1	7	9
10	 タイ	1	1	0	2
11	 イラク	0	1	1	2
11	 ウズベキスタン	0	1	1	2
13	 香港	0	0	2	2
13	 キルギス	0	0	2	2
15	 マレーシア	0	0	1	1
15	 フィリピン	0	0	1	1
15	 バーレーン王国	0	0	1	1
18	 サウジアラビア	0	0	0	0
18	 モンゴル	0	0	0	0
18	 ネパール	0	0	0	0
18	 パキスタン	0	0	0	0
18	 シンガポール	0	0	0	0
18	 東ティモール	0	0	0	0
18	 アラブ首長国連邦	0	0	0	0
18	 イエメン	0	0	0	0

競技別成績

【バドミントン】

○団体戦○

選手名	出場数	ラウンド	勝敗	対戦相手	マッチ	セットポイント					成績
				(選手名・国)		1	2	3	4	5	
日本チーム	7	トーナメント	負	中国	0-2	1-2	0-2	0-2			初戦敗退

○男子シングルス○

選手名	出場数	ラウンド	勝敗	対戦相手		マッチ	成績
				(選手名・国)			
千田 泰輔	32	トーナメント	勝	Kan San Wong	マカオ	2-0	ベスト 16
			負	H.Shin	大韓民国	0-2	
勝			Chaiyapan Panlerd	タイ	2-0	ベスト 16	
負			M.Erwinsyah	インドネシア	1-2		
永石 泰寛			負	Jisoo Woo	大韓民国	0-2	ベスト 32
勝田 健			勝	Sunho Jung	大韓民国	2-0	4 位
			勝	Cheng-I Huang	チャイニーズタイペイ	2-0	
			勝	Zhengchun. Zha	中国	2-0	
			負	Siriwat Mattayanumat	タイ	0-2	
			負	Guangyao Lu	中国	0-2	

○女子シングルス○

選手名	出場数	ラウンド	勝敗	対戦相手		マッチ	成績
				(選手名・国)			
中井 智子	22	トーナメント	勝	Mantana Ruelom	タイ	2-0	ベスト 16
			負	Yan-Ru Shen	チャイニーズタイペイ	0-2	
勝			Arum Joung	大韓民国	2-0	ベスト 16	
負			Meng Wang	中国	0-2		
中西 朋実			勝	Wai Yi Lee	香港	2-0	ベスト 16
			負	Soyoung Lee (韓国)	大韓民国	0-2	
樋渡 美香			勝	Ting-Yi Chuang	チャイニーズタイペイ	2-0	ベスト 8
			負	Seonhwa Jeoung	大韓民国	0-2	ベスト 8

○男子ダブルス○

選手名	出場数	ラウンド	勝敗	対戦相手		マッチ	成績
				(選手名・国)			
千田・太田	16	トーナメント	勝	Chaw Ming Lee&Haymasuthanumat	マレーシア	不戦勝	ベスト 8
			負	Guangyao Lu & Zhengchun Zha	中国	1-2	
勝田・永石			負	Sunho Jung&Kyungduk Skin	大韓民国	0-2	ベスト 16

○女子ダブルス○

選手名	出場数	ラウンド	勝敗	対戦相手		マッチ	成績
				(選手名・国)			
樋渡・品田	9	トーナメント	勝	Arum Joung & Soyoung Lee	大韓民国	2-0	銅メダル
			負	Jialei Jinag&Meng Wang	中国	0-2	
			勝	Ting-Yi Chuang & Yan-Ru Shen	チャイニーズタイペイ	2-0	
中井・中西			負	Seonhwa Jeong & Eunkyung Yu	大韓民国	0-2	ベスト8

○混合ダブルス○

選手名	出場数	ラウンド	勝敗	対戦相手		マッチ	成績
				(選手名・国)			
千田・中井	21	トーナメント	勝	Kan For Mau&Yung Hin Cheung	香港	2-0	ベスト 8
			勝	Chaw Mink Lee&Amira Amni Abu Seri	マレーシア	不戦勝	
負			Chung-I Chen&Jung-Yu Fan	チャイニーズタイペイ	0-2		
太田・中西			負	Guangyao Lu&Jialei Jinag	中国	0-2	ベスト 32
勝田・樋渡			勝	Muhammand Erwisyah&Suni Venatalla	インドネシア	2-0	ベスト 8
			勝	Narong Horyen&Mantana Ruelom	タイ	2-0	
			負	Jisoo Woo & Soyoung lee	大韓民国	0-2	
永石・品田			勝	Cheang Hock Teh&Chia Ling Teoh	マレーシア	2-1	ベスト 16
			負	Zhengchun. Zha&Meng Wang	中国	0-2	

■【団体戦】

順位	国名
1	中国
2	大韓民国
3	チャイニーズタイペイ
4	タイ

【野球】

■リーグ戦

チーム	日本	大韓民国	チャイニーズタイペイ	勝敗
日本		○	○	2勝
大韓民国	○		×	1勝1敗
チャイニーズタイペイ	×	×		2敗

1 試合目（5月30日）

チーム	1 Inning	2 Inning	3 Inning	4 Inning	5 Inning	6 Inning	7 Inning	計
日本	6	0	6	0	0	0	7	19
大韓民国	1	2	0	1	3	0	1	8

◎工藤－高木

2 試合目（5月31日）

チーム	1 Inning	2 Inning	3 Inning	4 Inning	5 Inning	6 Inning	7 Inning	計
チャイニーズタイペイ	0	0	0	1	0			1
韓国	1	0	5	5	13			24

3 試合目（6月1日）

チーム	1 Inning	2 Inning	3 Inning	4 Inning	5 Inning	6 Inning	7 Inning	計
チャイニーズタイペイ	0	4	1	0	0	4		9
日本	2	0	1	2	7	5		17

◎工藤－藤澤－高木

■決勝戦（6月1日）

チーム	1 Inning	2 Inning	3 Inning	4 Inning	5 Inning	6 Inning	7 Inning	計
大韓民国	0	2	0	0	5	2	0	9
日本	2	1	0	0	4	0	3	10

◎室谷－高木

■結果

1位－日本 2位－大韓民国 3位－チャイニーズタイペイ

【バスケットボール 男子】

プログラム	対戦国	勝敗	スコア	成績
リーグ戦	オーストラリア	勝	89-88	2勝1敗
	チャイニーズタイペイ	負	50-78	
	大韓民国	勝	122-37	
決勝戦	チャイニーズタイペイ	負	65-72	準優勝

順位	国名	
1	チャイニーズタイペイ	デフリンピック出場権獲得
2	日本	
3	オーストラリア	
4	大韓民国	

【ボウリング（男子）】

＜男子シングルス＞

順位	選手名	国 名	G1	G2	G3	G4	G5	G6	Total	EVE
1	SEO Youngchun	大韓民国	229	235	265	197	246	200	1372	228.7
2	HAM Jonghoon	大韓民国	210	258	258	204	203	208	1341	223.5
3	AWANG Mohd Zaidi	大韓民国	196	234	177	248	209	247	1311	218.5
⋮										
14	新垣 匡史	日本	155	205	158	181	199	243	1141	190.2
15	馬場 新二	日本	221	167	172	176	188	214	1138	189.7
総合16位以上がマスターズ戦出場										
⋮										
29	数見 満	日本	168	172	151	158	179	213	1041	173.5
40	笹木 光明	日本	166	144	140	175	178	152	955	159.2
41	後藤 盛勝	日本	158	164	174	172	135	151	954	159
⋮										
48	MATAR	アラブ首長国連邦	145	100	166	167	184	143	905	150.8

＜男子ダブルス＞

順位	選手名	国 名
1	AN Seongjo / HAM Jonghoon	大韓民国
2	CHOI Taein / YEO Youngwook	大韓民国
3	HSIEH Sheng-Fu / CHANG Li-Hsiao	チャイニーズタイペイ
⋮		
4	新垣匡史 / 馬場新二	日本
10	後藤盛勝 / 笹木光明	日本
12	数見 満 / 中村洋三	日本

＜男子団体戦＞

順位	選手名	国 名
1	An Seongjo CHOI Taein SEO Youngchun YEO Youngwook HAM Jonghoon KIM Youngho	大韓民国
2	HSIEH Sheng-Fu KUO Kuan-Ming CHIU Ching-Ling WENG Chung-Ming CHANG Li-Hsiao CHEN Chien-Hao	チャイニーズタイペイ
3	MUSTAFA HASAN MOHAMMEDQAED FADHEL ALI MAKI KADHEM SAYED MOOSA HUSAIN MAHDIALALAWI ABDULNASERABDULLAABDULLAAB DULRAHMAN NEDHALL JUMA HAMADMEHAIZA ABDULMONEM ABDULHUSAINJASIM MOHAMED	バーレーン王国
⋮		
6	数見 満 中村洋三 馬場新二 後藤盛勝 新垣匡史	日本

＜男子トリオ＞

順位	選手名	国 名
1	AN Seongjo・ SEO Youngchun・ HAM Jonghoon	大韓民国
2	CHOI Taein・ KIM Younho・ YEO Youngwook	大韓民国
3	HSIEH Sheng-Fu・ KUO Kuan-Ming・ CHANG Li-Hsiao	チャイニーズタイペイ
⋮		
5	新垣匡史・中村洋三・馬場新二	日本
8	数見 満・後藤盛勝・笹木光明	日本

＜マスター戦及び総合結果＞

順位	選手名	国 名
1	KIM YOUNHO	大韓民国
2	AN SEONGJO	大韓民国
3	CHOI TAEIN	大韓民国
⋮		
14	馬場 新二	日本
15	新垣 匡史	日本
⋮		
19	中村 洋三	日本
24	笹木 光明	日本
25	数見 満	日本
30	後藤 盛勝	日本

【自転車】

■スプリント (1000m) 5月28日 (月) 10:00 ~ 13:00

スタート	選手名	ゼッケン (国名)	タイム	順位
10:00	今村 信也	8 (日本)	13'30	5
:01	Cheng Huai	2 (チャイニーズタイペイ)	12'79	2
:02	Kim Jae Bum	14 (大韓民国)	13'66	7
:03	Reece Emerson	1 (オーストラリア)	13'28	4
:04	宮田 大	11 (日本)	14'66	9
:05	Mou Bo Cheng	3 (チャイニーズタイペイ)	14'95	10
:06	Kim Myeong Hoe	15 (大韓民国)	12'92	3
:07	徳利 雄介	9 (日本)	DNS	-
:08	Khurram Imran	17 (パキスタン)	DNS	-
:09	Mazaheri Darzi	6 (イラン)	DNS	-
:10	箭内 秀平	10 (日本)	13'99	8
:11	Ko Byung Wook	16 (大韓民国)	12'47	1
:12	Sun Yi Feng	5 (チャイニーズタイペイ)	13'64	6
:13	Ali Zafar Mahboob	18 (パキスタン)	DNS	-
:14	Kamkar Mazrac Ali	7 (イラン)	15'15	11
:15	一条 厚	12 (日本)	15'40	12

■個人ロードレース (35km) 5月29日 (火) 10:00 ~ 13:00

スタート	選手名	ゼッケン (国名)	タイム	順位
10:00	Kim Myeong Hoe	15 (大韓民国)	51'49"50	3
:02	一条 厚	12 (日本)	58'53"93	9
:04	Mou Bo Cheng	3 (チャイニーズタイペイ)	1'03'37"45	12
:06	Mazaheri Darzi	6 (イラン)	55'35"29	7
:08	KIM JAE BeuM	14 (大韓民国)	53'55"17	5
:10	箭内 秀平	10 (日本)	59'22"14	10
:12	SUN YI FENG	5 (チャイニーズタイペイ)	55'48"48	8
:14	KO BYUNG WOOK	16 (大韓民国)	52'46"99	4
:16	Kammar Mazrac	7 (イラン)	58'53"74	9
:18	宮田 大	11 (日本)	1'01'14"27	11
:20	CHENG HUAI	2 (チャイニーズタイペイ)	51'28"63	2
:22	今村 信也	8 (日本)	54'14"70	6
:24	REECE EMERSON	1 (オーストラリア)	49'37"14	1

■個人ロードレース (100km) 5月30日 (水) 10:00 ~ 13:00

順位	選手名	ゼッケン (国名)	タイム
1	Sun Yi Feng	5 (チャイニーズタイペイ)	2'43'13"43
2	Reece Emerson	1 (オーストラリア)	2'43'13"43
3	Ceng Huai	2 (チャイニーズタイペイ)	2'43'30"85
4	今村 信也	8 (日本)	2'43'30"85
5	Ko Byoung Wook	16 (大韓民国)	2'43'30"85
6	Kim Jae Beum	14 (大韓民国)	2'43'30"85
7	Kim Myeong Hoe	15 (大韓民国)	2'43'56"29
8	箭内 秀平	10 (日本)	2'43'56"29
-	Mou Bo Cheng	3 (チャイニーズタイペイ)	DNF
-	Mazaheri Darzi Mahallch	6 (イラン)	DNF
-	宮田 大	11 (日本)	DNF
-	一条 厚	12 (日本)	DNF

■個人ポイントレース（50km）5月31日（木）10:00～13:00

順位	選手名	ゼッケン（国名）	ポイント
1	Cheng Huai	2（チャイニーズタイペイ）	114
2	Reece Emerson	1（オーストラリア）	109
3	Ko Byung Wook	16（大韓民国）	47
4	Ezzatollah Mazaheri Darzi	6（イラン）	25
5	Kim Myeong Hoe	15（大韓民国）	7
6	Sun Yi Feng	5（チャイニーズタイペイ）	6
7	今村 信也	8（日本）	6
8	箭内 秀平	10（日本）	0
9	Kim Jae Beum	14（大韓民国）	0
10	宮田 大	11（日本）	0
11	一条 厚	12（J 日本）	0
12	Ali Kamkar Mazrae	7（イラン）	0
-	Mou Bo Cheng	3（チャイニーズタイペイ）	DNF (Crashes)

【サッカー 男子】

プログラム	対戦国	勝敗	スコア	PK	勝敗
予選リーグ	カザフスタン	勝	6-1		3 勝 1 引
	イラン	引	2-2		
	香港	勝	26-0		
	マレーシア	勝	3-0		
順位決定戦 / 準決勝	サウジアラビア	勝	3-1		優勝
順位決定戦 / 決勝	イラン	勝	1-0		

■最終結果

順位	国名	順位	国名	順位	国名
1	日本	5	イラク	9	タイ
2	イラン	6	カザフスタン	10	香港
3	大韓民国	7	ウズベキスタン	デフリンピック出場権獲得	
4	サウジアラビア	8	マレーシア		

【フットサル 男子】

プログラム	対戦国	勝敗	スコア	PK	勝敗
予選リーグ	大韓民国	勝	10-0		2 勝 0 敗
	モンゴル	勝	15-0		
順位決定戦 / 準決勝	タイ	負	2-6		3位 / 7チーム
順位決定戦 / 3 位決定戦	大韓民国	勝	5-1		

■最終結果

順位	国名	順位	国名
1	イラン	5	カザフスタン
2	タイ	6	モンゴル
3	日本	7	イエメン
4	大韓民国		

【柔 道】

男子60kg以下 吉良 暁生 成績 3勝0敗→金メダル

出場数	ラウンド
4	リーグ戦

	リーグ1回戦	リーグ2回戦	リーグ3回戦
相手名	Salshour GOL, Khani Ali	LAW WAI LAM	HAN Myeongjin
国 名	イラン	香港	大韓民国
内 容	1本勝ち	1本勝ち	1本勝ち
決まり技	背負投げ	巴投げ	背負投げ

男子60-66kg 東岸 林太郎 成績 1勝2敗→銅メダル

出場数	ラウンド
4	リーグ戦

	リーグ1回戦	リーグ2回戦	リーグ3回戦
相手名	Asiabi Shafiei Mohammad	BYEON Jinsub	BEISHENKULOV MAKSAT
国 名	イラン	大韓民国	カザフスタン
内 容	技有り負け	有効負け	1本勝ち
決まり技	掬い投げ	背負投げ	大内刈り

男子66-73kg 木下 寿 成績 3勝0敗→金メダル

出場数	ラウンド
4	リーグ戦

	1回戦	リーグ2回戦	リーグ3回戦
相手名	AKHAR RASOOL	Dehghan Ghourdarand Ali	JUNG Jinwoong
国 名	パキスタン	イラン	大韓民国
内 容	不戦勝	1本勝ち	1本勝ち
決まり技	—	背負投げ	背負投げ

男子74-81kg 宮下 真弥 成績 1勝1敗→銀メダル

出場数	ラウンド
3	リーグ戦

	リーグ1回戦	リーグ2回戦
相手名	Hosseini	JEONG WooHyun
国 名	イラン	大韓民国
内 容	有効負け	一本勝ち
決まり技	背負投げ	背負投げ

男子90-100kg 山田 光穂 成績 1勝1敗→銀メダル

出場数	ラウンド
3	リーグ戦

	リーグ1回戦	リーグ2回戦
相手名	Seidi Mehrdad	KANALBEK UULUILGIZ
国 名	イラン	大韓民国
内 容	技有り負け	一本勝ち
決まり技	払い腰	背負投げ

【水泳】

選手名	種目	出場数	ラウンド	組数	順位	記録	成績
茨 隆太郎	男子50m フリースタイル	22	予選	3	3	00'26"41	決勝進出
			決勝		2/8	00'25"34	銀メダル
	男子100m フリースタイル	21	予選	3	3	00'59"66	決勝進出
			決勝		2/8	00'55"46	銀メダル
	男子50m 背泳ぎ	14	予選	2	2	00'29"99	決勝進出
			決勝		2/8	00'28"77	銀メダル
	男子100m 背泳ぎ	13	予選	2	2	01'05"88	決勝進出
			決勝		2/8	01'01"26	銀メダル
	男子200m 背泳ぎ	10	予選	2	—	—	棄権により8名になった為決勝へ
			決勝		2/8	02'18"05	銀メダル
金持 義和	200m個人メドレー	11	予選	2	1	02'26"26	決勝進出
			決勝		1/8	02'12"44	金メダル
	男子400m 個人メドレー	5	決勝	1	1/5	04'45"24	金メダル
	100m平泳ぎ	—	—			棄権	
	男子50m 平泳ぎ	12	予選	2	4	00'34"22	決勝進出
			決勝		2/8	00'33"20	銀メダル
	男子50m 背泳ぎ	14	予選	2	3	00'30"34	決勝進出
			決勝		1/8	00'28"65	金メダル
	男子100m 背泳ぎ	13	予選	2	1	01'03"03	決勝進出
			決勝		1/8	01'01"08	金メダル
藤原 慧	男子200m 背泳ぎ	10	予選	2	—	—	棄権により8名になった為決勝へ
			決勝		1/8	02'11"71	金メダル
	男子200m フリースタイル	15	予選	2	1	02'04"58	決勝進出
			決勝		1/8	01'57"39	金メダル
	男子400m フリースタイル	11	タイムレース	2	1	04'06"22	金メダル
	男子1500m フリースタイル	6	決勝	1	1/6	15'57"57	金メダル
	男子200m バタフライ	5	決勝	1	2/5	02'07"76	銀メダル
	男子50m フリースタイル	22	予選	3	7	00'27"05	決勝進出
			決勝		5/8	00'26"28	5位入賞
山本 駿	男子100m フリースタイル	21	予選	7	6	00'59"91	決勝進出
			決勝		8/8	01'03"28	8位
	男子200m フリースタイル	15	予選	2	3	02'07"86	決勝進出
			決勝		4/8	02'05"73	4位入賞
	男子400m フリースタイル	11	タイムレース	2	3	04'23"46	銅メダル
	男子1500m フリースタイル	6	決勝	1	2/6	17'37"78	銀メダル
	男子50m バタフライ	14	予選	2	2	00'27"69	決勝進出
			決勝		3/8	00'27"29	銅メダル
	男子100m バタフライ	8	決勝	1	2/8	01'01"74	銀メダル
藤井 陽	男子100m フリースタイル	21	予選	7	4	00'59"70	決勝進出
			決勝		7/8	01'01"64	7位
	男子50m バタフライ	14	予選	2	5	00'28"47	決勝進出
			決勝		6/8	00'28"57	6位入賞
	男子100m バタフライ	8	決勝	1	6/8	01'05"19	6位入賞
	男子200m 平泳ぎ	11	予選	2	8	02'50"44	決勝進出
			決勝		8/8	02'47"98	8位
	男子200m フリースタイル	—	—			棄権	
	男子200m 個人メドレー	—	—			失格	
中川 裕介	男子50m フリースタイル	22	予選	3	8	00'27"06	決勝進出
			決勝		7/8	00'27"46	7位
	男子50m 平泳ぎ	12	予選	2	7	00'34"57	決勝進出
			決勝		7/8	00'34"33	7位
	男子100m 平泳ぎ	15	予選	2	5	01'14"52	決勝進出
			決勝		7/8	01'14"59	7位
	男子200m 平泳ぎ	11	予選	2	7	02'47"83	決勝進出
			決勝		6/8	02'45"61	6位入賞
上田 雄二	男子50m 背泳ぎ	14	予選	2	8	00'32"78	決勝進出
			決勝		8/8	00'33"05	8位
	男子50m バタフライ	14	予選	2	7	00'29"09	決勝進出
			決勝		6/8	00'28"57	6位入賞
	男子100m バタフライ	8	決勝	1	5/8	01'04"99	5位入賞

選手名	種目	出場数	ラウンド	組数	順位	記録	成績
小塩 宗文	男子400m フリースタイル	11	タイムレース	2	6/8	04'38"78	6位入賞
	男子1500m フリースタイル	6	決勝	1	4/6	17'52"34	4位入賞
	男子200m 個人メドレー	11	予選	2	5	02'27"72	決勝進出
			決勝		4/8	02'27"62	4位入賞
	男子400m 個人メドレー	5	決勝	1	3/5	05'14"72	銅メダル
今村 可奈	女子50m フリースタイル	9	予選	2	—	—	棄権により8名になった為決勝へ
			決勝		2/8	00'29"82	銀メダル
	女子100m フリースタイル	11	予選	2	1	01'05"64	決勝進出
			決勝		1/8	01'03"50	金メダル
	女子200m フリースタイル	9	予選	2	—	—	棄権により8名になった為決勝へ
			決勝		1/8	02'14"83	金メダル
	女子400m フリースタイル	9	タイムレース	2	1	04'49"22	金メダル
	女子50m 背泳ぎ	8	決勝	1	2/8	00'34"68	銀メダル
藤川 彩夏	女子100m 背泳ぎ	8	決勝	1	2/8	01'16"01	銀メダル
	女子100m バタフライ	7	決勝	1	3/7	01'09"31	銅メダル
	女子50m 背泳ぎ	8	決勝	1	3/8	00'35"00	銅メダル
	女子100m 背泳ぎ	8	決勝	1	1/8	01'14"79	金メダル
	女子200m 背泳ぎ	4	決勝	1	1/4	02'37"98	金メダル
	女子50m バタフライ	5	決勝	1	1/5	00'30"46	金メダル
	女子100m バタフライ	7	決勝	1	2/7	01'06"75	銀メダル
	女子200m 個人メドレー	8	決勝	1	2/8	02'36"29	銀メダル
高瀬 理恵	女子400m 個人メドレー	5	決勝	1	1/5	05'28"72	金メダル
	女子50m フリースタイル	9	予選	1	—	—	棄権により8名になった為決勝へ
			決勝		3/8	00'30"00	銅メダル
	女子100m 平泳ぎ	7	決勝	1	2/7	01'20"48	銀メダル
	女子200m 平泳ぎ	6	決勝	1	2/6	02'55"33	銀メダル
久保 南	女子100m フリースタイル	11	予選	2	5	01'09"73	決勝進出
			決勝		4/8	01'06"14	4位入賞
	女子200m フリースタイル	9	予選	2	—	—	棄権により8名になった為決勝へ
			決勝		2/8	02'24"80	銀メダル
	女子400m フリースタイル	9	タイムレース	2	2	05'09"70	銀メダル
	女子100m 平泳ぎ	7	決勝	1	1/7	01'20"41	金メダル
	女子200m 平泳ぎ	6	決勝	1	1/6	02'51"33	金メダル
	女子200m 個人メドレー	8	予選	1	3/8	02'41"29	銅メダル
久賀 愛美	女子50m フリースタイル	9	予選	2	—	—	棄権により8名になった為決勝へ
			決勝		4/8	00'30"88	4位入賞
	女子100m フリースタイル	11	予選	2	4/8	01'09"72	決勝進出
			決勝		8/8	01'10"40	8位
	女子50m 背泳ぎ	8	決勝	1	5/8	00'35"90	5位
	女子100m 背泳ぎ	8	決勝	1	5/8	01'21"48	5位
茨・金時・ 藤原・山本	男子4×100m メドレーリレー	5	決勝	1	2/5	04'08"71	銀メダル
	男子400m フリースタイル リレー	5	決勝	1	1/5	03'41"86	金メダル
	男子4×200m フリースタイル リレー	5	決勝	1	1/5	08'02"18	金メダル

☆オープン戦☆

今村 可奈	女子800m フリースタイル	7	オープン戦	1	1/8	09'48"36	
今村 可奈	女子200m バタフライ	6	オープン戦	1	2/6	02'25"32	
藤川 彩夏					3/6	02'34"08	
高瀬 理恵	女子50m 平泳ぎ	5	オープン戦	2	1/5	00'35"57	
久保 南					2/5	00'36"41	

【卓球】

選手名	種目	出場数	ラウンド	組数	勝敗	対戦相手	マッチ	予選成績			成績
						(選手名・国)		順位	勝	負	

○団体戦○

日本チーム	男子団体戦	10	予選リーグ	3	勝	カザフスタン	3-0	1/4	3	0	予選通過
					勝	マカオ	3-0				
					勝	ウズベキスタン	3-0				
		4	決勝トーナメント	-	勝	香港	3-1	3/4	2	1	銅メダル
					負	チャイニーズタイペイ	0-3				
					勝	カザフスタン	3-0				
日本チーム	女子団体戦	5	総当たりリーグ	1	勝	大韓民国	3-1	1/5	4	0	金メダル
					勝	キルギス	3-0				
					勝	カザフスタン	3-0				
					勝	イラン	3-0				

○男子シングルス○

梅村 正樹	男子シングルス	41	予選リーグ	12	勝	WAN	香港	3-0	1	2	0	予選通過
					勝	KHAN	パキスタン	3-0				
					勝	MICHAEL	オーストラリア	4-1				
			決勝トーナメント	-	負	WANG	チャイニーズタイペイ	0-4	8	1	1	ベスト8
					勝	ISMATULLAEV	ウズベキスタン	3-1				
					勝	JUNAID	パキスタン	3-0				
有馬 歓生	男子シングルス	41	予選リーグ	12	勝	AL	イエメン	3-0	1	3	0	予選通過
					勝	GHORBANIVALIKCHALI	イラン	4-3				
					負	CHERNYAK Ihor	チャイニーズタイペイ	0-4				
			決勝トーナメント	-	勝	OH	大韓民国	3-1	1	2	0	予選通過
					勝	KONG	香港	3-0				
					負	WANG	チャイニーズタイペイ	0-4				
上江洲光彦	男子シングルス	41	予選リーグ	12	勝	KANAT	カザフスタン	3-0	2	2	1	予選通過
					負	LEE	大韓民国	0-3				
					勝	NG	香港	3-0				
			決勝トーナメント	-	勝	WAN	香港	4-0	16	1	1	ベスト16
					負	PARK	韓国	1-4				

○女子シングルス○

上田 萌	女子シングルス	20	予選リーグ	5	勝	IMANALIEVA	キルギス	3-0	1/4	3	0	予選通過
					勝	FALAH	イラン	3-0				
					勝	MARINA	カザフスタン	3-0				
			決勝トーナメント	-	勝	MO	大韓民国	4-0	1	3	0	金メダル
					勝	LEE	大韓民国	4-1				
					勝	佐藤 理穂	日本	4-0				
佐藤 理穂	女子シングルス	20	予選リーグ	5	勝	AZARSINA	イラン	3-0	1	3	0	予選通過
					勝	NATALYA	カザフスタン	3-0				
					勝	JUNG	大韓民国	3-0				
			決勝トーナメント	-	勝	JUNG	大韓民国	4-0	2	2	1	銀メダル
					勝	KIM	大韓民国	4-1				
					負	上田 萌	日本	0-4				
有馬千寿子	女子シングルス	20	予選リーグ	5	勝	TOKBAEVA	キルギス	3-0	2	2	1	予選通過
					勝	BAHMANI	イラン	3-0				
					負	NESTLER Anke	大韓民国	1-3				
			決勝トーナメント	-	負	LEE	大韓民国	0-4	8	0	1	ベスト8
					勝	HABIBIB	イラン	3-0				
					勝	MADINA	カザフスタン	3-0				
牧山 洋子	女子シングルス	20	予選リーグ	5	勝	MO	大韓民国	3-0	1	3	0	予選通過
					勝	KIM	大韓民国	0-4				
					勝	KIM	大韓民国	0-4				

選手名	種目	出場数	ラウンド	組数	勝敗	対戦相手		マッチ	予選成績			成績
						(選手名・国)			順位	勝	負	
○男子ダブルス○												
梅村・有馬	男子ダブルス	17	予選リーグ	5	勝	MA/NG	マカオ	3-0	1	2	0	予選通過
					勝	NG/WAN	香港	3-0				
			決勝トーナメント	-	勝	AL/AHMED	イエメン	4-0	3	2	1	銅メダル
					負	WEN/YANG	チャイニーズタイペイ	0-4				
					勝	WANG/KUO	チャイニーズタイペイ	4-3				
望月・上江洲	男子ダブルス	17	予選リーグ	5	勝	OH/HWANG	大韓民国	3-2	1	3	0	予選通過
					勝	KANT/DANIYAR	カザフスタン	3-1				
					勝	JUNAID/KHAN	パキスタン	3-0				
			決勝トーナメント	-	負	LEE/PARK	大韓民国	0-4	8	0	1	ベスト8

○女子ダブルス○

上田・佐藤	女子ダブルス	9	予選リーグ	3	勝	KIM/JUNG	大韓民国	3-0	1	2	0	予選通過
					勝	AZARSINA/BAHMANI	イラン	3-0				
			決勝トーナメント	-	勝	有馬/牧山	日本	4-0	1	2	0	金メダル
					勝	KIM/JUNG	大韓民国	4-1				
有馬・牧山	女子ダブルス	9	予選リーグ	3	勝	TOKBAEVA/BEKTEMIROVA	キルギス	3-0	1	2	0	予選通過
					勝	MADINA/KULZHAMILA	カザフスタン	3-0				
			決勝トーナメント	-	勝	HABIBI/FALAH	イラン	4-0	4	1	2	4位
					負	上田/佐藤	日本	0-4				
					負	LEE/MO	大韓民国	0-4				

○混合ダブルス○

梅村・上田	混合ダブルス	12	予選リーグ	4	負	LEE/JRNG	大韓民国	1-3	2	1	1	予選通過
					勝	YERLAN/KULZHAMILA	カザフスタン	3-0				
			決勝トーナメント	-	勝	PARK/LEE	大韓民国	4-0	2	2	1	銀メダル
					勝	望月/佐藤	日本	4-0				
望月・佐藤	混合ダブルス	12	予選リーグ	4	負	LEE/JRNG	大韓民国	1-4	1	2	0	予選通過
					勝	KANAT/NATALYA	カザフスタン	3-0				
			決勝トーナメント	-	勝	OH/MO	大韓民国	3-0	3	2	1	銅メダル
					勝	HWANG/KIM	大韓民国	4-0				
有馬・有馬	混合ダブルス	12	予選リーグ	4	負	梅村/上田	日本	0-4	4	1	2	4位
					勝	有馬/有馬	日本	4-0				
			決勝トーナメント	-	勝	HWANG/KIM	大韓民国	3-0	1	2	0	予選通過
					勝	DANIYAR/MARINA	カザフスタン	3-0				
上江洲・牧山	混合ダブルス	12	予選リーグ	4	勝	OH/MO	大韓民国	4-0	4	1	2	4位
					負	LEE/JRNG	大韓民国	0-4				
			決勝トーナメント	-	負	WANG Cong /SHI Ce	中国	1-4	2	1	1	予選通過
					勝	PARK/LEE	大韓民国	0-3				
					勝	AALIEV/TOKBAEVA	キルギス	3-0	8	0	1	ベスト8
					負	LEE/JRNG	大韓民国	1-4				

※団体戦・シングルス戦は予選リーグあり。

○女子団体戦○最終結果

順位	国名
1	日本
2	大韓民国
3	イラン
4	カザフスタン
5	キルギス

○男子団体戦○最終結果

順位	国名
1	チャイニーズタイペイ
2	大韓民国
3	日本
4	カザフスタン
5	オーストラリア
6	香港
7	ウズベキスタン
8	イエメン
9	マカオ
10	パキスタン

【テニス】

種目	出場数	ラウンド	選手名	勝敗	対戦相手		マッチ	セットポイント			成績			成績	
					(選手名・国)			1	2	3	順位	勝	負		
男子シングルス	12	トーナメント	松下 哲也	勝	VERDIAL Remegio	東ティモール	2-0	6-0	6-0		3/12	2	1	銅メダル	
				勝	LIN Chun-Jan	チャイニーズタイペイ	2-0	6-0	6-0						
				負	FLINDELL Glen	オーストラリア	1-2	6-2	0-6	2-6					
			高濱 哲郎	負	YANG Zengbao	中国	0-2	3-6	2-6		-	0	1	1回戦敗退	
				芦野 正樹	勝	KIM sunghwan	大韓民国	2-0	6-0	6-2		-	1	1	2回戦敗退
					負	FLINDELL Glen	オーストラリア	0-2	0-6	1-6					
女子シングルス	9	トーナメント	梶野 耕佑	負	Lul John	オーストラリア	0-2	2-6	2-6		-	0	1	1回戦敗退	
				辻岡 瑞恵	負	LIN Chia-Wen	チャイニーズタイペイ	1-2	6-3	2-6	2-6	-	0	1	1回戦敗退
					勝	DA SILVA Durvalina Martins	東ティモール	2-0	6-1	6-0		-	1	1	2回戦敗退
			負	WANG Yuling	中国	0-2	5-7	3-6							
			尾形 滋子	負	SHA Te-Chiun	チャイニーズタイペイ	1-2	2-6	6-2	1-3(RET)	-	0	1	1回戦敗退	
				豊田 恵子	負	HO Chiu-Mei	チャイニーズタイペイ	0-2	0-6	1-6		-	0	1	1回戦敗退
男子ダブルス	5	トーナメント	松下・高濱	負	FLINDELL /Lul	オーストラリア	0-2	4-6	2-6		-	0	1	1回戦敗退	
				勝	KIM/ YEO	大韓民国	2-0	6-1	6-1		2/5	1	1	銀メダル	
			負	FLINDELL, LUI	オーストラリア	0-2	2-6	2-6							
女子ダブルス	4	トーナメント	辻岡・豊田	負	HO Chiu Hsiang/HO Chiu Mei	チャイニーズタイペイ	0-2	3-6	0-6		3/4	0	2	銅メダル	
			飯塚・尾形	負	LIN/SHA	チャイニーズタイペイ	0-2	4-0	2-6		3/4	0	1	銅メダル	
混合ダブルス	8	トーナメント	松下・豊田	勝	CHIN, LIN	中国	2-0	6-2	6-2		1/8	3	0	金メダル	
				勝	高濱, 辻岡	日本	2-0	6-2	7-6						
				勝	HO, LIN	チャイニーズタイペイ	2-0	6-4	4-6	10-6					
			高濱・辻岡	勝	DURVALINA, REMEGIO	東ティモール	2-0	6-0	6-0		3/8	1	1	銅メダル	
				負	松下, 豊田	日本	0-2	2-6	6-7						
			芦野・飯塚	負	HO/LIN	チャイニーズタイペイ	0-2	4-6	2-6		-	0	1	1回戦敗退	
梶野・尾形	負	WANG, YANG		中国	0-2	1-6	2-6		-	0	1	1回戦敗退			

【バレーボール 女子】

ラウンド	対戦国	勝敗	マッチ	セットポイント			予選成績			成績
				1	2	3	順位	勝	負	
リーグ	イラン	勝	3-0	25-10	25-10	25-6	1	2	0	1位
	ウズベキスタン	勝	3-0	25-17	25-16	25-19				

■最終結果

順位	国名	
1	日本	デフリンピック出場権獲得
2	ウズベキスタン	
3	イラン	

報告

本部長 山根 昭治

①担当した内容について

メディカル全般の総責任者、有事への対応、速報の作成

②今後の派遣で改善が必要な点について（今回の課題点）

今回のアジア太平洋ろう者競技大会は、各競技団体による派遣が主体だったため、各競技団体の宿泊が点在していました。選手のベストサポートになるよう複数個所での滞在受診が困難になる事も想定し、臨機応変に対応するよう体制を整えることができました。今後、このような場合は、各競技団体にメディカル本部に近いところで宿泊するよう勧めるべきだったと思います。

③反省・まとめなど

毎晩21:00よりメディカル関係者と本部スタッフの合同ミーティングを行い、当日医療業務と翌日の行動予定を確認しました。本部スタッフは、基本的にメディカル関係者が動きやすいように配慮し、私は各チームの状況確認と、速報作成をするためにメディカル関係者に同行しました。

日々メディカル関係者と同行し、手話通訳者を通してコミュニケーションをスムーズに図ることができました。また医師と看護師は手話をはじめデフリンピックや聴覚障害を持つ選手に対し、深い関心が寄せられたことを非常に嬉しく思いました。

選手や関係者スタッフの全員の協力により、大きな急病や怪我もなく、大会を無事に終えることができ感謝しています。日本の選手の予想以上の活躍で、金メダルランキング第1位になったことも誇りに思います。

今後、聴覚障害者を取り巻く国際的競技や手話等を習得する医師や看護師を育成することが求められています。その為にも（公財）日本障害者スポーツ協会と連携を図りながら、全日本ろうあ連盟デフリンピック派遣委員会の中に、医学委員会の設置が必要ではないかと個人的に感じています。

また、本大会には、ロンドンパラリンピック前の時期にもかかわらず、（公財）日本障害者スポーツ協会・日本パラリンピック委員会より、大久保技術美術技術委員長及び事務局の仲前氏に視察をいただきました。今回の視察を通じ、デフスポーツへの理解が一層進むことを願っています。

副本部長 太田 陽介

①日本選手を支援する現地本部設置

日本パラリンピック委員会（JPC）の強化費等を活用して大会派遣をするにあたり、競技団体がホテル手配を各自で行っていたこともあり、ホテルがかなり散在していました。

そのため、本部は各競技団体と現地での連絡が迅速にできるように、点在するホテルの中心にあるホテルを手配しました。そして現地入り後すぐに、現地本部を設置し、主として各競技団体の選手たちを医療面から支援するメディカルチームを編成し、各競技場への派遣支援計画を調整、競技スケジュールの情報を確保して各競技団体への情報提供などの業務を徹底して行いました。

各競技団体との連絡方法としては、パソコンによるEメールでの連絡を主にし、重要なことがあれば訪問する方法をとっていました。

ホテルを手配する際は、特にインターネット環境を整え、連

絡体制を確保できることが絶対条件となります。

しかし、メールによる連絡方法は、文章作成の手間を取られたり、連絡を受け取った相手がきちんと文章内容を理解できなかったりするような問題も出ました。各競技団体と本部が同一ホテルへ宿泊していれば、手話による対面のコミュニケーションが出来たため、手話による意思疎通・伝達が重要な役割であることを改めて痛感しました。

他に、大会の現況を取材して大会速報を作成し、全日本ろうあ連盟本部事務所にパソコンで添付して送信、47都道府県の加盟団体へ大会情報を提供するように取り組みました。

②アジア太平洋ろう者スポーツ連合会（APSDC）評議員会の出席

評議員会が2日間開催され、アジア太平洋地域から21ヶ国の評議員が出席しました。競技大会に伴う評議員会開催は、2000年台北大会の時から12年ぶりです。

事業報告、会計決算、予算、事業計画などの報告を審議し、すべて承認されました。

次の第8回アジア太平洋ろう者競技大会の開催立候補は中華台北のみであり、評議員が開催地予定の桃園市の行政関係者、スポーツ団体関係者とともに開催地のプレゼンを行った結果、満場一致で承認されました。また、任期満了に伴って2012年～2015年のAPDSC執行委員選挙が行われ、次の通り選出されました。

・会長 ビョン・スンイル（韓国）

・事務局長 デニス・タン（シンガポール）

・財務担当役員 リム・トゥック・ヘン（マレーシア）

・執行委員 デイビット・ピーターズ（オーストラリア）、

なお、もう一人の執行委員候補者は新執行委員会で協議の上、決定されます。

出席した評議員の各国現状を見ると、下記の理由により、各国との情報共有が十分にできないという課題があります。

1）公的な支援の有無やスポーツ団体の事務的处理力などから生じる格差が激しいこと

2）評議員の一部が国際手話などの手話による国際的コミュニケーションを十分に駆使できないこと

最後になりますが、ろう者国際スポーツとして史上最高であるメダル70個を獲得できました。金メダルランキングでも日本がトップとなり、メダルを手にした選手たちが以前より成長していることを確信しました。

2013デフリンピックでの選手の活躍に期待をしています。多大なご支援をいただいたメディカルチームをはじめ、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

副本部長 栗野 達人

①担当した内容について

今回は台北デフリンピックの時のように「派遣団」を作らず、競技団体ごとに渡航、宿泊の手配を行った結果、日本からの参加選手・スタッフ総人数は200余名になりました。

競技団体からの要望もあり、現地に本部を設けて主に医療を中心としたサポート体制を設ける事になり、副本部長を担当しました。

私はサッカー予選リーグが先に始まる為、先発し、派遣期間は5月22日～6月3日でした。

1) 事前準備

事前準備として2011年夏から全日本ろうあ連盟スポーツ委員会事務局と共にアジア大会予備エントリー、最終エントリー、実施競技リストを常に再確認、競技団体に説明会を開いてアンチドーピング、健康診断書提出など指導しました。

2) 本部設立準備

本部滞滞在ホテルで本部、メディカルルーム、トレーナールームを用意し、緊急連絡、広報活動が出来るよう、インターネット環境を整え、携帯電話なども事務局とともに準備しました。そして競技団体に必要な情報を伝え、診察など受け入れられるよう準備し、毎日、夜、あるいは朝に本部スタッフで打ち合わせも行いました。

3) アジア大会組織委員会で情報収集

競技会場、開会式などの場所、IDカード発行、プログラムについて正しい情報を収集する為に、ほとんど毎日組織委員会本部へ通いました。情報収集し、開会式、閉会式の場所、日程、集合時間などを日本本部から各競技団体に伝えました。競技団体から組織委員会へTD会議などについて質問する際は、英語が出来なかったり国際手話が不十分で意思疎通が不足している団体があったため、国際手話でサポートを行いました。

4) 競技期間中の行動

開会式では全競技から選手代表を集め、開会式行進方法説明、マナーなどを指導し、選手たちを誘導しながら開会式に出席しました。

試合が始まってからは医療・トレーナーチームをメインとして共に行動し、各競技団体へのサポートおよび広報活動を行いました。会場がいくつかに分かれ、また離れていたため、車、電車、バスなどを使用して毎日外出しました。

5月24日～25日	サッカー
5月26日	開会式
5月27日	サッカー、テニス
5月28日	水泳、卓球、柔道、テニス
5月29日	バドミントン、ボウリング、自転車
5月30日	フットサル、卓球
5月31日	バレーボール決勝、ボウリング、水泳
6月1日	ボウリング、野球決勝、バスケット決勝
6月2日	サッカー決勝、閉会式

②今後の派遣で改善が必要な点について（今回の課題点）

現地入りする前に本部準備の為にメディカルメンバー全員とメールで打ち合わせた事もあってスムーズに出来たが、現地で健聴者のいない競技団体へなかなか連絡が取りにくかった。もっと早めに競技団体で携帯電話連絡体制などを説明会で打ち合わせすればよかったと思っています。

競技団体をみると、国際大会への参加に慣れてきている様子が見受けられる一方で、英語もしくは国際手話に対する不安がある団体もあり、競技団体にもっと国際手話など指導していく必要があると思いました。

③反省・まとめなど

韓国組織委員会から十分な情報が得られず、競技会場、スケジュールもよく変わったため、本当に準備万端で挑めるかどうかと不安や苦勞もありました。今回のアジア大会では初めてデフリンピック並の競技種目数が実施され、韓国組織委員会も運営が大変だったろうと感じました。

日本は競技への参加者数やメダル獲得数が他国と比較して群を抜いており、アジアNo1となれたので、サポートをしてきた

我々本部としても大変嬉しく思っています。メディカルチームの医師、看護師、手話通訳、トレーナー全員で12日間行動を共にしましたが、良いチームワークだったと思っています。皆さん、色々とお世話になり、本当にありがとうございました。

総務 内藤 ひろみ

今回の大会はアジア地域で実に12年ぶりの開催となりました。直近のクウェートでの大会では延期と直前のキャンセルという事態となったため、今回の韓国での開催も、ソウル市との相談によって本来の開催年から1年遅れでの開催となりました。

更に、開催自体のアナウンスがありながらも、大会の詳細（スケジュールや会場、指定ホテルなど）情報が大会開催直前まで入ってこないため、関係者の不安も大変大きかったのではないかと思います。問い合わせに対しても、先方の大会実行委員会に英語ができる職員が1名しかいないということもあり、事前の問い合わせでも詳細な情報の入手が困難な状況がありました。

このため、関係団体・特に競技団体からは出発まで強い不安の声が出されていました。折しも2011年にスロバキアデフリンピックが大会直前での中止となったことも影響していますが、事前の情報が入手できないことにより、各方面にご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、このような不安定な状況でありながらも派遣に尽力をいただいた皆様にお礼を申し上げます。

①担当した内容について

アジア大会では主に総務を担当し、以下の調整を行いました。

1) 競技団体との調整

本大会では各競技団体は強化費を使用しての参加となり、本部で一括の宿泊予約などは行いませんでした。そのため、各競技団体の大会参加スケジュール等と合わせ、各チームの情報の入手、現地での行動範囲の確認などを行いました。

また、旅行者とともに、最終的に確定した会場の情報と各チームの宿泊先を突き合わせし、大会周辺情報のマップを作成、日本チームの行動範囲を把握するようにしました。

今回は競技会場の情報が直前まで二転三転し、大会組織委員会の本部すら現地に行かなければわからない状態であったため、現地入りをして真っ先に行った業務がこれらの確認業務となりました。

2) 通訳者の確保

手話通訳については、一般社団法人全国手話通訳問題研究会へ依頼し、英語⇄手話の通訳の手配が可能となりました。今回メイン業務はメディカルチーム付き通訳でしたが、派遣期間のうち、開会式が始まるまでは、連日組織委員会に通わざるを得なかったため、日英通訳が可能な手話通訳の存在は心強いものがありました。

日韓通訳については、現地在住の日本人の聴覚障害者の協力を得ました。依頼者が日頃より大会組織委員会関係者とも知り合いであったこともあり、情報の収集に大きな力を発揮しました。また彼女を通じて日韓ボランティアも手配が可能となりました。

3) JPC協力によるメディカルチームの編成

今回大会本部を立ち上げるにあたって、(公財)日本障害者スポーツ協会医学委員会と相談をし、メディカル体制をどのようにしていくか協議を続けました。

デフスポーツの場合、特にメディカル部分の基盤が弱く、い

かに継続してサポート状況を確保できるかが大きな課題となっています。2011年の冬季デフリンピックの派遣に際しては前述の医学委員会委員長とも面談をさせていただいており、今回もその際に教授いただいた内容を踏まえ、JPC事務局とも相談の結果、医師2名（内科・外科）、看護師1名、本部付きのアスレティックトレーナー1名、薬剤師（現地へは帯同しないが、後方支援として）1名の体制としました。なお、薬剤師については聴覚障害者であり、スポーツファーマシストの資格を有する薬剤師に依頼を行いました。

更に今回はメディカル情報を共有するメーリングリストのほかに、現地へ出向くアスレティックトレーナーと本部ドクター・アスレティックトレーナーとの連携を図るメーリングリストを別に作成、各チームからの情報と、ドクターで共有する情報を分けて活用を行いました。

アスレティックトレーナー MLは今回初の試みでしたが、毎日各チームの健康状況の報告に活用し、チームの健康状況の把握や相談に効果がありました。

また、携行医薬品については、計画当初は医学委員会から借用することとしていましたが、最終的に全日本ろうあ連盟スポーツ委員会が調達することとなりました。医材・薬剤の手配については帯同医師とも相談をしましたが、実際問題として医薬品の手配が難しく、薬剤師に選定を依頼し一部OTC医薬品を手配しました。また医師の指示により、経口補水液の手配を行いました。携行医薬品の手配については今後も課題となるかと思えます。

4) 選手・スタッフの健康診断書の提出

上記メディカル体制を構築する際に、一番時間を割いた点はこの点になります。デフスポーツでは、今までは「デフリンピック」へ派遣が決定された選手・スタッフ以外は健康診断書類の提出は行っていませんでした。今回、医学委員会の協力を得るに当たり、帯同する医師へ選手・スタッフの健康状況をどのように提供してもらうかが大きな課題となりました。これについては競技団体へも説明会などを通じ、以下の3点を徹底してもらうようにしました。

- ・選手は所定様式の健康診断書を提出
- ・選手は「受診に際してのコミュニケーション方法」についての質問票も提出
- ・スタッフは会社等で受けている健康診断書のコピーを提出

上記3点の資料を事前に帯同医師へ送付・確認をいただき、メディカルチーム内で健康状態の把握に努めました。ややもすれば「自分は健康なので、健康診断書などは不要」と思われがちなのですが、健康診断書の意味を繰り返し説明することで、最終的に競技団体にもこの条件について理解を得ることができました。

今回の場合、「選手団」としての派遣ではないこともあり、本部と競技団体との間でのこういった通達事項がスムーズにいかない面もありましたが、現地での有事に備えることは危機管理上必要であることを、機会あるごとに説明をしていくようにしたいと思います。

5) アンチドーピング

上記同様、競技団体に対して、選手全員に服薬状況の確認を依頼し、アンチドーピング部会などを通じドーピングチェックを済ませるよう徹底しました。また、ドーピングチェックの控えを競技団体から提出してもらい、帯同医師への情報提供を行いました。

2008年から世界選手権大会がデフスポーツでも開催されるようになり、競技団体もアンチドーピングに対する知識・理解

が以前と比較すると進んできています。特に現地での服薬に関しては、ほとんどの団体が事前に必ず医師へ問い合わせをすることができました。

競技団体によっては、医師処方薬をチームとして持参しているところもありましたが、現地での自己判断による医薬品の服薬は時として大きな問題を引き起こすことがあるので、今後も引き続き競技団体とも連携しつつアンチドーピングの普及啓発を行う必要性を感じました。

6) 現地での情報収集、記録の整理（速報の発信）

大会期間中は毎日役員と通訳を組織委員会本部へ派遣・交渉や要求を行いました（大会プログラムが入手できない等のクレーム、輸送に関する情報、大会記録についてなど）。

現地組織委員会には英語のできるスタッフは1名しかおらず、組織委員会の主要役員は韓国手話・韓国語のみであったため、日本本部の韓国語通訳・ボランティアに協力してもらい、組織委員会への同行・必要な電話通訳などを依頼しました。

本大会の公用語は英語と国際手話になっていますが、現地大会運営にかかわるスタッフの多くが英語での対応が難しいことが多く、現地語通訳（韓国語・韓国手話）の存在は重要でした。

他、現地での情報を本部役員が収集し、毎日速報を作成・日本へ発信するとともにHPでも現地の情報を発信しました。今回、競技団体も独自で情報の発信を行っていたので、それらともリンクするとともに組織委員会のHPも確認をし、情報の齟齬がないよう努めました。

②今後の派遣で改善が必要な点について（今回の課題点）

今回、各方面の方々の協力を得ることで、帯同いただくメディカルスタッフの確保が可能となりました。今大会に限らず、選手団本部が立ち上がるような大会の場合、メディカルスタッフの確保が最重要課題となっています。これらを踏まえ、いかにして自己組織内にメディカルにかかる組織もしくは相談体制を構築していけるかが今後の課題になるかと思えます。

特に大会参加にかかる聴力検査については、病院との連携が必要不可欠です。アンチドーピングについての知識共有や、聴覚障害者にも対応できるアスレティックトレーナーとのネットワーク構築など、スポーツ委員会内で恒常的に医学的な問題にどのように対応していくかは今後のデフスポーツの発展を考えると必要な議論だと考えます。

③反省・まとめなど

大会期間中は、本部スタッフのみならず、競技スタッフの皆さんにも多大な協力をいただくことで、大きな問題もなく大会を終えることができました。本大会での本部の派遣決定に至るまでは、多くの問題がありましたが、JPC及び競技団体からの理解を得ることで本部の派遣をなしえたことに感謝申し上げます。

また、派遣前に本部スタッフ全員の顔合わせがかなわなかったのですが、皆が「選手のベストコンディションのために」という1つの目標に向かえたことは、事務局として本当にありがたいものがありました。

今回縁あってご協力を頂いた皆様と、今後も継続したネットワークを構築していけるよう、スポーツ委員会内でも意識を高めていけるようにしていきたいと思えます。

総務補佐 加茂下 和子

①担当内容について

大会前の準備、現地業務、大会終了後の事務処理

②反省・まとめ等

1) 大会前の準備について

実行委員会から情報がなかなか各国に入らなかったため、こちらから何度も質問をメールで繰り返すという方法で大会に向けて準備を進めました。

今大会は選手選考や宿泊などの手配は競技団体が責任を持って行い、我々は登録業務等、APDSCや韓国実行委員会と直接連絡を取るような業務を担いました。

◇聴力検査◇

選手123名中、聴力検査表をICSDに提出しなければならない者は58名いました。

提出〆切までの時間は長めに取っていましたが、業務の都合でなかなか検査を受けられず、〆切ギリギリで提出をしてくる者もいました。

また検査漏れや記載漏れなどがあり、何度も検査をやり直すことが必要となる選手もいました。

これは選手本人が何のために何の検査をしなければならないのか理解不足によるものと、病院側に何の検査を受けたいのかが伝わっていないためおこなうことが多く、手話通訳が設置されている病院で検査を受けた選手の場合は、記載漏れなどはありませんでした。

本人の自覚を促すことと同時にこのような病院が増えていくよう、啓発していくことが大事だと感じました。

◇薬物調査◇

競技団体で選手の薬服用のあるなしを調査し、該当者について（公財）日本障害者スポーツ協会アンチドーピング部会にてチェックしてもらいました。

◇健康診断◇

選手には指定様式で、スタッフにはそれぞれが1年以内に受診した健康診断書を提出してもらいました。

やはり聴力検査同様、なかなか提出しない者も多くおり、何度も催促をするといった根気強い作業が必要でした。

大会前までに、帯同医2人に全員分の診断書と薬物調書をチェックしてもらい、懸念される者については、再検査をうけてもらうようにしました。

また、健康診断書の提出依頼の際に、医師とのコミュニケーション方法についてアンケートを行いました。回答はまちまちでしたが、若い選手ほど手話通訳は必要としない、相手と顔を見合わせ、医師の口徑を見て何を話しているか読み取る、筆談を希望するという回答が多い結果となりました。これは手話通訳制度を使った経験がないことが反映していると思います。

◇実行委員会との連絡およびエントリー◇

聴覚障害者団体の場合、相手先に手話通訳がいなくて電話がつかえないので、メールやFAXが連絡手段となりますが、実行委員会から返信がなかなか来ないので進捗状況が分からず業務が滞る時がありました。

韓国と日本は時差もないので大事な要件はスカイプを活用し、直接顔を見ながら国際手話を使って話すことが出来ました。事務局では国際手話を流暢には使いこなすことが困難でしたので、連盟内の職員に協力してもらい話をしました。（日本人ろう⇔韓国人ろうが国際手話で確認し、内容を日本手話で教えてもらう。）

エントリー用紙、ID用の写真などの提出はメール添付で実行委員会へ提出をしました。日本は参加国の中で一番人数が多く、現地に行ってIDを作ろうとしたところ実行委員会のファイルフォルダーに保存されておらず、再度、韓国の本部から実行委員会へ提出をするハプニングが起きたり、エントリー用紙に記載のスベルとID番号登録されているスベルが違うために確認作業が必要になったりと2度手間の作業がありました。

◇本部体制◇

競技団体へ本部に求めることは何かを尋ねたところ「メディカル関連の充実」を求められたので、本部はメディカルを中心とした体制を作りました。

医師は（公財）日本障害者スポーツ協会医学委員会の協力により内科医と看護師が各1名帯同の協力をいただけることになりましたが、外科医はなかなか見つかりませんでした。幸い、帯同アスレティックトレーナーの知り合いの外科医が帯同を快く引き受けてくださり、医師を2名派遣することが出来ました。

また、アスレティックトレーナーは台北デフリンピック時の帯同トレーナーが、今回も快く引き受けてくださいました。

手話通訳は一般財団法人全国手話通訳問題研究会に選定依頼を行い、海外派遣なので国際部より2名の協力をいただくことが出来ました。

このほか、現地語通訳は、現地在住の日本人聴覚障害者をお願いをし、役員・事務局員含め合計14人で本部を編成しました。

2) 現地業務について

現地で情報を正確に入手するためには現地語が分かることが必要です。今回の現地語通訳者は、聴覚障害者ですが軽度難聴者であり、韓国語・日本語の書き読み言葉だけでなく、話すことが出来ました。

また韓国手話もできるので、実行委員会と日本本部のパイプ役として活躍してくれました。実行委員会本部に毎日のように一緒に出掛けてもらい情報収集を行いました。また、現地語通訳の友人（韓国人で韓国語、日本語、韓国手話が可能）がボランティア協力してくれました。そのおかげで我々は他国に比べ比較的スムーズに情報を得ることが出来たのではないかと思います。

韓国では各競技の宿泊ホテルがバラバラだったため、MLを駆使し、選手の状況や試合結果などを報告してもらうようにしました。

大会前半は医師と手話通訳で組み、1組は競技場を回り、残りの1組はホテルで待機をする方法をとりました。しかし、会場が離れていたり、日中はホテルにはそれほど病人が来ないのでメディカル班で翌日のスケジュールを組み立て、動いてもらうようにしました。現場に医師が行くことで、早期に治療ができ、また選手も安心して試合に臨むことができとても良い環境をつくることが出来ました。また、大きな怪我も病気もありませんでした。

ただ、大会が終了に近づき、日本本部内でも具合の悪い者が出ました。私もその1人でした。忙しい中でも自己管理はしなければならないのですが、本部は交代するほどの人数を派遣できないので、本部にとってもメディカル体制や体力が必要なのだと痛感させられました。

本部の皆さんのフットワークの軽さと、柔軟な対応力、そして聴覚障害者を理解しようとする強い姿勢があったからこそ、競技団体が本部に求めた「メディカル関連の充実」が達成できたのだと感じております。

ご協力くださった皆様に心よりお礼を申し上げます。

医師 立石 智彦

大会を終えて

本部のドクターとして依頼を受けさせていただきました、立石です。

これまで、スポーツの現場での経験はありましたが、聴覚障害者の帯同は初めてであったため、いろいろと緊張の面持ちで現地入りしました。

ドクターは内科系；羽森先生・外科系；立石との分担でしたが、二人とも内科・外科ともにある程度こなせることを現地でお互いに確認し、できるだけ練習会場・試合会場にどちらかが出向き現場対応ができるような形をとることにしました。交替で出ることにしたため、引継ぎを本部で行い、どちらかは必ず本部で選手が来た時に備えることを基本としました。携帯電話を持たせていただいたので、情報交換もスムーズにできました。

事前に、スポーツ委員会事務局で選手の健康状態アンケートを集めて整理し送ってもらうことができ、内科系担当の羽森先生と交替で確認しました。ドーピングコントロールの問題では、事前の薬の確認や変更したTUE申請において国際医療福祉大学三田病院リハビリテーション科草野修輔先生の迅速かつ適切な判断に非常にお世話になりましたことにこの場を借りて御礼させていただきたいと思います。

現地入り後は、本部ホテルでドクタールーム・トレーナールームを割り振っていただき設営しましたが、ドクタールームとトレーナールームが別の階だったのでもう少し近いほうがよかったかもしれません。しかし（今回はなかったのですが）感染症が蔓延した場合、健常な選手と診察室を分けるといった点では別にしておいてよかったのかもしれませんが、今後の検討課題にさせていただきたく思います。

韓国ということで、時差や暑熱対策などは特に必要はなく選手たちも直前入りの割には体調の異常を訴えることは少なかったです。各チームが選手証を受け取りに来るときに（結局受け取りは遅くなったのですが）、チームスタッフらと受信方法の確認をすることができました。ホテル・競技場がチームごとに離れていたのが数班に分けてホテルや競技場の確認の視察をし、大会に備えました。

行く前からの啓蒙がよかったためか、各チームドーピングに関してはしっかりと薬の制限をされているという印象がありました。チームトレーナーがついているところといないところがあるのは、諸事情ありますが徐々に改善し、トレーナーが各チームにつくようになれば選手たちの健康管理・コンディショニングも含め向上しパフォーマンスにも影響してくるものと思われます。ドクター・トレーナー間のコミュニケーションはメディカルのメーリングリストを本部のメーリングリストと別に作っていただいたため、非常に有用でした。今回は現地入りしてからの利用でしたが、できれば日本にいる間から活用すれば、より良いサポートの可能性があるのでは？と感じました。

5月ではありましたが、25度を超える日が続き、日を追うごとに選手たちの疲労もたまっていったものと思われます。食事・水分摂取など熱中症予防も、非常に有用でした。屋外スポーツでは特にそうで、殊にサッカーの決勝などは29度の炎天下11時にキックオフでした。どのチームも与えられた環境の中で精いっぱい戦っているのが印象的でした。

今回、本部付きのドクターをさせていただいて、非常に貴重な経験をさせていただきました。手話ができないのでまだまだこれからですが、また機会があれば是非サポートさせていただきたく思います。選手の予診や初期電話対応や物品整理に看護

師の宮坂さんにも非常に良くしていただき、メディカル担当の手話通訳の梅本さん・長崎さんには手話のみならず現地でサポートしていただきました。本当にありがとうございました。

今後とも、デフのスポーツ部門の発展を祈りつつ、今後のサポートのために多少手話も勉強したいと思います。

医師 羽森 貫

①担当した内容について

1) 選手やスタッフの健康管理や内科的治療全般

医務室は滞在ホテルの一室を当てられ、簡易ベッド、トレーナーベッドを併設しました。罹患者が医務室ベッドで休養を取れるよう配慮した配置にしましたが、実際には使用されませんでした。トレーナー室は別室を用意していましたが、医務室に併設することで、診療後スムーズに中島トレーナーの対応が可能となり効率的でした。

医務室には薬品や処置道具など、大会本部が事前に用意した物を保管しました。また、各選手団の宿泊場所が本部ホテルと離れていることや、選手の受診の際に移動の手間を省くため、各医師が薬品類を携帯し、開閉会式や試合会場に赴くことで現場での診療を合わせて行いました。夜間や早朝は、医務室での無線ランによるネット接続により、各選手団トレーナーメーリングリストで報告される選手の健康状態の確認や、感染症および熱中症予防の励行につきメールでの連携を図りました。

医療チームマニュアルは、2009年台湾デフリンピック時に使用した形式を基に作成され、医務室開設時間は8:00～10:00、19:00～21:00とし、その他の時間は、メディカルスタッフの宮坂看護師または本部事務局に携帯電話での連絡後に診療を行うこととしました。なお、医療チームマニュアルの内容は事前に各選手団へ通達していたため、受診方法が明確化され、緊急時の対応も可能であったと思われました。

マニュアル内には受診の手続き以外に大会期間中の自己の健康管理についても明記されており、選手およびスタッフの意識付けを行う点で非常に有効でした。各選手の診断書や基本健康調査用紙（コミュニケーションについて）が事前に提出されており、出国前の業務として各選手の既往歴、投薬、診察時に手話による対応の有無などを確認しました。（チームごとのファイルを事務局から配送してもらいました。）

また、医務室での診療の際は、これらのファイルを再確認することができ有益でした。アンチドーピングの管理は草野先生によりドーピング禁止薬は変更可能であれば変更し、変更できない場合は事前にTUE申請されました。現地へ携帯する薬剤・処置材料の選定は、薬剤師の方に選別をお願いし、市販薬品を中心に用意され、十分量でした。

コミュニケーションとして、広くて紙やペンのない大会会場では手話が実用的で、手話通訳者さんのおかげで選手およびスタッフとのコミュニケーションがスムーズに図れ、お互いにストレスを感じずに医療行為を行う事が可能となりました。

2) 現地での業務

大会前までは、選手団宿泊場所の確認や移動手段、大会指定病院の視察を行いました。カルテは2009年台湾デフリンピック時に田口医師が作製されたエクセルファイルのひな形に追加する形で作成しました。

医師は大会中分かれて活動したため、夕食時に医療チームミーティングを行い、医師、看護師、トレーナー、手話通訳者で情報交換を行い共有しました。毎晩21:00より本部スタッ

フと合同ミーティングを行い、当日医療業務と翌日の行動予定の報告を行いました。

3) 治療内容

5月24日～6月2日にかけて、内科総受診数は延べ13名（初診11名、再診2名）でした。

疾患内訳は、急性胃腸炎3名、咽頭炎2名、熱中症1名、片頭痛1名、口内炎1名、虫刺症1名、急性扁桃腺炎1名、生理痛1名でした。

初診の内訳は、選手6名、スタッフ5名でした。スタッフで急性胃腸炎のため、点滴加療を要しましたが、病院搬入の患者はいませんでした。また、選手やスタッフから、現地にて空気中のほこりや乾燥を自覚の方が大勢いたため、うがいや部屋の加湿を励行するよう通達しました。

薬剤以外に、医療用として経口補水液（OS-1）の粉末を用意しましたが、使用頻度も多く重宝しました。

使用薬品は以下の通り。

薬剤名	使用量
レバピミド	22
イブA	24
ボルタレン	8
コンタック	4
S P トローチ	16
ビタノイリン 50	10
ポリトーゼ	3
ゼロシャット	6
バイロン MK	18
ケナログ	1
オイラックス	1
OS-1	10

②今後の派遣で改善が必要な点について（今回の課題点）

競技団体スタッフや選手の滞在ホテルと本部ホテルまでの移動に時間がかかる場合や、練習や試合を優先するため医務室まで受診できない場合は往診での対応や電話での対応を行いました。今回のように各競技団体が複数個所に滞在する場合は、受診が困難になる事も想定し臨機応変に対応することが選手のベストサポートになると考えられました。

③反省・まとめなど

メディカルスタッフにマッサージ希望というような連絡が入ったケースがあり、実際に診察すると、マッサージではなく本来の医療行為が必要となるケースがありました。手話を用いたコミュニケーションでの混乱や曖昧もあり、ろう者と医療者間の認識の違いも見られました。我々は訴えだけで判断するのではなく、実際に診察をさせて頂くことで選手のベストコンディションに協力したいと思います。

日々行動を共にした手話通訳者さんのおかげで、手話に無知な私もスムーズにとけこめました。また、大きな急病や怪我はなく、選手や関係者スタッフの皆様の協力のもと、大会を無事終えられたことに深く感謝します。

アスレティックトレーナー 中島 幸則

今回のアジア大会における日本のメダル数「70」は、とても素晴らしい結果だと思います。日頃からの選手・スタッフの方々の努力の成果だと思います。今回12年ぶりに行われたこの大会に関わったこと、個人的にとっても光栄に思っています。

さて、私の任務として課せられた「日本選手団アスレティックトレーナー」という立場から、所感を述べたいと思います。

私の最初の仕事は、4月8日の事前説明会において、メディカルの役割を各競技団体代表に説明することから始まりました。事前に連盟で作成していただいた「医療に関する連絡事項」「トレーナーの役割」に書かれていること、そして、トレーナーの役割についての補足説明をさせていただきました。2009年デフリンピックもありましたので、その時点で、各競技団体に理解いただけたと思っています。

しかし、デフリンピックに帯同しなかった参加者の中には、私の役割を理解いただけない方もいらっしゃったように感じました。しかし、いただけないいくつかの質問を解決させるためにも、また、現地に行ってからのスムーズな対応のために、「トレーナーメーリングリストの作成」という話が持ち上がりました。冊子の中にも、「チーム付きのトレーナーの連携」、「医師との連携」と書いていただいていたので、私もそのように説明したつもりです。このメーリングリストについては、2009年のデフリンピックでできなかったことですので、これが成功すれば、また一歩前進だという期待を持ちました。

今回、実際にトレーナーを帯同した競技団体は、12競技の内の6競技（説明会の段階では5団体）でした。この数字は、2009年のデフリンピックと比べて、あまり変わりはないものの、前回も帯同せず、また、最もケアが必要と思われる水泳にトレーナーが帯同したということで、必要性が理解されてきた結果であり、大きな前進だと思いました。

さて、本番を迎えて、先に現地入りした、サッカーのトレーナーから、現地の情報がメーリングリストで入りましたが、他のトレーナーの皆さんにとって、とても心強い情報だったのではないのでしょうか。本部トレーナーの私にとっても、とても有益な情報で嬉しく思いました。

しかし、現地に入って待っていたのは、「トレーナーには直接連絡しないで、看護師に連絡すること」という貼り紙でした。

アスレティックトレーナーの役割には、「ドクターとの連携」があります。

その役割が果たせないというのは、アスレティックトレーナーとしての役割が減ってしまうということです。是非、今回は検討いただきたいと思います。

また、今後は各競技団体とも、トレーナーという役割で帯同する場合には、それなりにトレーナーという意識・技術を持った人を登録するような、システム作りも考えていかなければいけないのではないかと考えます。

例えば、JPCの障害者スポーツトレーナーの資格を有する者、またはそれに準ずる者…というような登録制度、または、研修制度も検討していく必要もあるのではないかと考えます。

最後に、今回バックアップいただきましたJPC、聾唖連盟に対して深く感謝いたします。

看護師 宮坂 良子

①担当した内容について

派遣期間は2012年5月23日～6月3日でした。メディカルチームの看護師として競技大会に出場する日本選手団及び役員の健康管理、疾病、怪我などに対する応急処置などの業務を医師、トレーナー、手話通訳者と共に行いました。

1) 本部スタッフと情報交換

事務局部屋（17階）において、1日1回（前半は8時30分～、大会開始後は21時～）本部スタッフ（役員、事務局、メディカルスタッフ）によるミーティングを実施し、大会運営進行状

況や選手の健康状態などの情報交換を行い、当日または翌日の本部スタッフの行動予定を確認し合いました。

2) 事前準備及び診療体制

- ・韓国到着後、本部スタッフや各競技団体のスタッフと顔合わせを随時行い、また各競技団体別メディカルファイルより選手及びスタッフの健康状態の把握に努めました。
- ・メディカルスタッフは携帯電話を持ち、常に報告・連絡・相談ができるようにしました。
- ・本部滞在ホテルの1室（12階）をメディカルルームとし、ドア入口に表示をしました。簡易ベッド1つを追加、内科と外科用に2つのベッドを準備し机とソファで診察室としました。部屋の棚を利用して医薬品や衛生材料などを配置し、冷凍庫の製氷機で氷を準備しました。トレーナーによるケア室が当初は別室としていましたが、効率性からメディカルルームで医師の診察と併用して行われました。
- ・体調不良選手及び受診希望者は、各競技団体スタッフから看護師の携帯電話に連絡を入れる体制を取り、診察時間は基本9:00～21:00としました。
医師への報告と時間を含む診察設定（メディカルルーム）、必要によって往診、診察助、理解確認や次回診察設定及びカルテの準備や整理を行いました。
- ・大会開始前までに、メディカルチームで各競技団体の滞在ホテル（確認可能範囲）と主な競技会場、現地の受診先医療機関の場所や移動方法の確認を行いました。

3) 大会開始後の診療体制

- ・競技大会開始後は複数の競技会場が散在して実施されていたため、メディカルチームは本部滞在ホテル近郊の大会場所と遠方の大会場所と2チームに分かれて現地に赴き、選手の健康や怪我の状態観察を行いました。そこで経過観察の必要な選手は、試合終了後本部滞在ホテルに夜8時頃に来てもらい診察を行いました。本部事務局や他のメディカルチームとは、携帯電話で状況を報告し連絡を取り合いながら競技大会会場を移動しました。

②今後の派遣で改善が必要な点について（今回の課題点）

- ・診療における連絡体制について検討が必要と感じました。携帯電話による連絡方法は、健聴者がいない競技団体には困難さや行き違いが生じる可能性もあります。また、外で電話を受ける場合、雑音で聞き取りづらく困難を感じることもありました。携帯でメールが可能であればと思いました。
- ・本部役員及び事務局スタッフの疲労蓄積が気になりました。連日の本部対応業務においては、休養がとれる交代体制の必要性を感じました。

③反省とまとめなど

1) 反省点

- ・選手の健康面ばかりに気を取られ、身近にいて毎日顔を合わせている本部スタッフの健康管理面に目を向けることが十分に出来ませんでした。大会前の準備段階から多忙な日々を過ごしている事はML（メーリングリスト）から読み取れ、現地では連日の多忙な対応業務を目にしていたのに察知できず反省しています。
- ・診療体制などについて私自身十分把握しきれていないことがあり、メディカルチーム内で共通認識の再確認をしておく必要があったと思います。

2) まとめと感想

今回初めて帯同させていただきました。選手やスタッフの

方々が本大会に向けて取り組んできた成果が、大会で十分に発揮できるように微力ながらお手伝いさせていただきました。大きな怪我や病気がなく大会を終えることができたのは、選手やスタッフの方々の日頃からの自己管理や予防対策がきちんとできていたからだと思います。

私自身、帯同しながら選手の皆さんのスポーツに取り組む姿からたくさんの感動と元気をもらいました。簡単な単語レベルの手話しかできませんでしたので、手話で会話ができればもっともっとたくさんの方が選手やスタッフとできて喜びを分かち合えたのかなととても残念な思いがありました。

最後に、今回初めての帯同にあたり本部スタッフの皆様にはいろいろと助けて頂きありがとうございました。ろう者の競技大会に帯同し、いろんな方からたくさんの事を学ばせていただくと共にとても良いスタッフに恵まれて貴重な12日間を過ごさせていただきました。聴覚障害をもつ方々のスポーツがもっともっと普及・発展し、選手の活躍する場が増えることを願っています。

手話通訳 梅本 悦子、長崎 千佳恵

①担当した内容について

メディカルチーム付きの手話通訳者として、医師、トレーナー、看護師と、受診する選手やチーム関係者のコミュニケーション保障を中心に、2名で担当しました。メディカルチームの受付時間は基本的に9:00～21:00。主な業務内容は次の通りです。

1) 本部会議

大会準備中は8:30と21:00の2回、本格的に競技が開始されてからは夜1回、本部会議が行われました。その際、行動予定の確認、大会組織委員会や各競技の状況報告、メディカルチームの報告等について、手話通訳を担当しました。

2) 大会準備期間

本部役員に通訳1名が同行し、大会組織委員会での準備状況や日程の確認作業等を支援しました。

また、メディカルチームとして、事前に各競技チームの滞在先ホテルおよび主要な競技会場の場所と移動方法を確認しました。

3) 大会開催中

当日の競技開催状況に合わせ、2名の医師それぞれに通訳者が1名ずつ同行しました。本部ホテル内のメディカルルーム、開会式会場、各競技会場での診療時に通訳を担当しました。毎日メディカルチームのミーティングで、当日の競技チームの状況や対応内容を確認し本部会議で報告、翌日の行動を決定しました。

また、必要に応じて、競技会場で本部役員に対する情報保障、コミュニケーション支援を行いました。

②今後の派遣で改善が必要な点について（今回の課題点）

1) スタッフ間での情報伝達

健聴スタッフ全員に携帯電話が配布され、各会場への移動が多い中、メディカルチーム内および事務局との連絡が大変スムーズに行えました。

欲を言えば、日本語入力可能な機種を用いて、聴覚障害者である役員を含め、メールでスタッフ間の即時および複数名への連絡が可能であれば、より円滑に情報伝達できると感じる場面がありました。

2) スタッフ体制について

本部の業務対応が連日長時間にわたり、役員、事務局スタッフの身体的疲労が激しく、業務遂行が困難な時がありました。メディカルチームには大きな健康問題はありましたが、スタッフが交代で休養を取れる体制が必要ではないかと思います。

③反省・まとめなど

1) 反省点

各競技種目、スポーツに関わる症状や身体の一部の名称について、知識が不十分であったため、選手や医師に内容を確認することがありました。事前に受診者の症状を想定することは難しいですが、より深い学習が必要だと感じました。

また、各競技で使用されるスポーツ用語や、ろう者スポーツ組織について事前学習をしたのですが、現場での通訳に生かされませんでした。

2) 良かった点

・本部ホテル

本部およびメディカルルームを設けたホテルは地下鉄駅、バス停に近く、各会場への移動が容易でした。また、スタッフの宿泊室は長期滞在用に設備が整っており、長時間の業務での疲労を解消するため、休息できる環境でした。

・情報

前述のとおり、携帯電話によるスタッフ間の連絡も有効でした。トレーナー間でのMLによる情報交換も、状況の把握に役立ったと思います。

また、手話通訳者も当初からメディカルチームのMLに加えていただいたため、準備状況についても情報を共有できたことは、大変有意義でした。

3) まとめと感想

残念なことに、参加登録の遅かった国が多いとの理由から、大会の準備が順調に進んでいませんでした。そのため、日本本部として大会組織委員会に連日足を運び、進捗状況を確認することに大変な時間が割かれました。そのことが役員および事務局の大きな負担になったと考えられます。今後は、アジア全体で大会の開催が円滑に進むよう協力体制ができることを願います。

今回だけでもありませんが、軍施設のような地図にもナビにも出ない非公開会場を使用する場合は、会場へのアクセスを事前に連絡しておくべきと思いました。選手たちを乗せたタクシー運転手が2時間以上道に迷い、試合開始10分前によく到着したということがありました。

最終的に大きな怪我也病気もなく、選手の皆さんが日頃の練習の成果を発揮し、多くのメダルを獲得されたことを、本当に嬉しく思っています。

合わせて、このような貴重な経験をさせていただき、感謝いたします。

現地語通訳 桑原 絵美

①担当内容

アジア大会開催前、得た情報を全日本ろうあ連盟に情報提供、アジア大会開始後は、現地で発信される競技、及び運営、さまざまな情報を日本語・日本手話⇄韓国語・韓国手話通訳をしました。

毎朝、組織委員会の事務局へ行き、情報収集、または日本本部の役員に帯同し、競技の取材を行いました。

②今後の派遣で改善が必要な点について（今回の課題点）

今回の大会の準備不足から、日本選手が来る数日前に会場変更がなされる、ICカード発行も開会式前日に行われるといった、様々な面で最初の計画が大きく狂っていました。

日本では、考えられない！という声を聞きましたが、世界で競技大会をする上で、日本の普通が、日本から出ると異なることを割り切ってやる必要があると感じました。それは、今後、世界大会に出場する上で心構えとしてやっていくことが大事だと思います。

また、今回の日本の選手団も、競技ごとに自分達で準備をしてくるという状況であり、各競技団体と本部がなかなか一体とできていないように感じました。

お互いが把握できず、競技結果をメールして欲しい、何かあったら連絡をして欲しいという面についても、すべての競技がパソコンを持ってきているわけでもなく、本部に連絡する方法を持っていないという競技団体もあり、各競技への取材で得た情報を本部に持っていくという状況もありました。

情報共有する面で、大会事前に、各競技団体に、必ず現地にパソコンを持っていくことの徹底や、異国での連絡方法を確認する必要があるのではないかと思います。世界大会への派遣という面では、やはりデフリンピックと同じように、一番の柱となる日本本部があって、各競技があるというスタンスがいいと思います。

③反省・まとめ

今回は、各競技団体が自分達でホテルや交通手段を進めていったものの、やはり、現地に住んでいないため、交通の面での不安が多く、事前に交通方法などを確認して、予約したいという要望があれば、事前に予約の協力ができたのではないかと思います。現地に住む日本のろう者の協力をもっと求めてもいいのではないかと思います。

交通面のトラブルでは、バスケットボールの日本VS豪州戦で、タクシーで3時間前にホテル出発したものの、トレーナー1人、選手2人が到着できず、試合15分前に会場に着く事態が発生してしまいました。

初日に本部に来てもらったときに移動手段の確認や、もしものときのために、韓国語で書いたメモを渡すなりをしてあげれば良かったと思います。バスケットボールの会場は特殊な場所（軍事施設）であり、GPSにも検知されず、カーナビにも表示がされないため、普通の人は入れない場所でした。

私自身、韓国生活に慣れてしまい、日本では考えられない事態を予想することが鈍くなってしまったので、反省すべき点だと思います。

今回のアジア大会を通して、選手でない部分を見ることができ、黒子役がどれだけ重要なかを学びました。また、昨年の大震災がきっかけですべての選手が「絆」を大切にし、1つになったのが、70個（野球も含む）ものメダル獲得につながったのではないかと思います、感動しました。

アジアならではの問題点でもある、先進国と後進国の差、宗教的な部分、韓国ならではの問題である南北関係、スポーツの普及の差、などなどを考えさせられる機会にもなりました。

アジア大会は、デフリンピックへの出場権もあり、大切な大会でもあります。それと同時に、アジア全体が共に問題点を考え、アジアでは先進国である日本ができる支援、呼びかけも今後、考えていく必要性を感じました。

第7回 アジア太平洋ろう者競技大会 バドミントン競技 大会結果報告書

日本ろう者バドミントン協会
監督兼スタッフ 佐藤裕介

①競技参加国：13ヶ国

韓国・中国・台湾・香港・マカオ・カザフスタン・タイ・シンガポール・マレーシア・フィリピン・パキスタン・インドネシア・日本

②競技スケジュール

5月29日（火）～6月1日（金）【4日間】

③大会運営などについて

5月28日（月）に、練習日とTD会議が同じ会場で10時から行われました。最初は、トーナメント方式での組み合わせが終わり、抽選結果の発表がありました。

ところが、インドネシアのTDより、見える場所で抽選し直した方がいい、世界ランキング順でシード権を取る方法を間違えているなど指摘がありました。また、タイは団体戦申込をしていたにも関わらず、APDSCが確認できていなかったため、その場で参加承認を行いました。結果、団体戦が6ヶ国から7ヶ国に増えました。

抽選し直しのため、準備等で12時頃一時中断となり、15時から再開し、シード権や組み合わせのやり直しを行った後、正式に決定となり会議が終わったのは16時半頃でした。

選手呼び出しについて、競技期間中は、選手の呼びかけに關して本部から離れた所にいたため、確認が難しかったのですが、大会スタッフが連呼してくれたため、遅れることなく試合に出ることができました。できれば、プロジェクターなどの掲示があればもっと良かったと思います。ただ、残念なのは閉会式できちんと国ごとに整列をしてほしかったです。どこにどのように並ぶのか、どのように授与するのかなど明確に指示がなかったため、並びが整理されていませんでした。

審判は、点数の間違いなど時間がかかりすぎている面もあり、線審もきちんと見ていないなど、何回も線審を交代させられたことが多くみられました。

大会スタッフがバスの案内やタクシーの呼び出しなどに協力的であり、とても助かりました。

④競技規則について

団体戦では、ユニフォームの背面にネームがなくてもいいということを当日知りました。通常なら、個人戦と同様に背面にネームを付けるルールで統一した方が紛らわしくなかったのではないかと思います。

団体戦では特に問題はありませんでした。個人戦では、背面にネームがないために、マジックで名前を書いた選手（中国）もいました。案内書にルールが掲載されているにもかかわらず、罰則が軽かったのは残念でした。きちんとルールを知った上で参加してほしかったです。

また、ダブルスや混合ダブルスの場合は、互いのウェアやパンツに色や形も統一するよう連絡したにもかかわらず、統一していなかった国がありました。その件も厳しく罰し、スポーツマンとしての自覚を持たせる必要があるのではないかと感じました。

⑤派遣日程について

当初は、5月25日～6月2日の予定でしたが、1ヶ月ほど前に日程の変更があり28日が練習日、29日～6月1日の4日間が試合となったため、24日（木）韓国に入学し、現地で環境を慣らして、ランニングや屋外で練習を行いました。

幸い天候に恵まれ、ホテルの近場にオリンピック競技場があったことも縁で練習環境に支障はありませんでした。また、全日本ろうあ連盟スポーツ委員会の本部ホテルも近くにあったため、医療関連は本部に協力を仰ぎました。

入学時、頭痛に見舞われた選手や合宿で痛めた手や腰のケアなど、試合前までになんとか回復していける時間（5日間）があったことは、健康維持につながる良い面であったと思います。偶然ホテルの近くに本部のホテルがあり、ドーピングにひっかからない程度の頭痛薬をメディカルチームで処方してもらい、健康に支障がなく試合に励むことができました。また、選手の体調管理を意識しながら、会場までの交通手段はなるべく負担を小さくするためにタクシーを利用しました。そのおかげで、時間を気にせず試合に集中できる環境を整えることができました。

食事に関しては、選手の苦手な物はなるべく避けて体調管理に努めました。

⑥結果

○団体戦

監督会議（TD会議）で意見が上がり、抽選し直したことに、運に恵まれず、初戦から中国に当たってしまいました。オーダーの組み合わせは、トッププレイヤーで取り組みました。

最初のオーダー	決まったオーダー
1. WD 樋渡 & 品田	1. MD 勝田 & 永石 1-2
2. WS 品田	2. WS 品田 0-2
3. XD 勝田 & 樋渡	3. XD 勝田 & 樋渡 0-2
4. MD 勝田 & 永石	4. MS 永石
5. MS 永石	5. WD 品田 & 樋渡

ストレート負けになってしまいましたが、試合の内容は強敵の中国に接戦したレベルでした。中国は、団体戦で優勝しました。

○男子シングルス

千 田	永 石	勝 田	太 田
ベスト16	ベスト32	4 位	ベスト16

○男子ダブルス

千田 & 太田	永石 & 勝田
ベスト8	ベスト16

○女子シングルス

中 井	樋 渡	中 西	品 田
ベスト16	ベスト8	ベスト16	ベスト16

○女子ダブルス

中井 & 中西	樋渡 & 品田
ベスト8	3 位

○混合ダブルス

千田 & 中井	永石 & 品田	勝田 & 樋渡	太田 & 中西
ベスト8	ベスト16	ベスト8	ベスト16

⑦今後の課題

○ダブルス、混合ダブルス

レベルは世界に通用しています。特に、女子ダブルスはメダル獲得の確率が高いため、さらにダブルスの戦略と互いのパートナーとの信頼を深める時間が必要です。また、サーブの簡易なミスが多く目立ちました。

○シングルス

男子は、アジアのレベルでは最高ベスト4入り。女子は、ベスト8止まりでした。

今後はシングルスプレーヤーのトップを養成し、体力の向上・メンタル力を高める必要性があります。どんな強敵でもいつも以上にプレイできるメンタル力が重要だと思います。

○全体的

技術の面では世界に通用する反面、サーブのミス・アウトが目立ったため、点を稼ぐことができませんでした。体力の向上・メンタル力の向上も必要だと思われます。また、体調管理について徹底的に努めることも課題のひとつであります。

今回は、2013年第22回夏季デフリンピックブルガリア大会が予定されています。この大会に向けて、シングルス、ダブルスの相互に対応できる選手を日本代表候補として選ぶよう考えたいと思います。

第7回 アジア太平洋ろう者競技大会 野球競技 大会結果報告書

日本聴力障害者野球連盟
監督兼選手 坂口健二

①競技参加国：3ヶ国

韓国・台湾・日本

②競技スケジュールと結果

【リーグ戦】

5月30日(水)14時～ ○日本19－8韓国

5月31日(木)14時～ ○韓国24－1台湾

6月1日(金)9時～ ○日本17－9台湾(ピッチャー工藤・2勝)

【リーグ戦結果】

日本 2勝

韓国 1勝1敗

台湾 2敗

【決勝戦】

6月1日(金)13時～ ○日本10－9韓国 日本のサヨナラ勝ち。
ピッチャー室谷・1勝取得

③まとめ

決勝戦は日本vs韓国となりました。互いに点を取りあう苦しい戦いとなりましたが、気を引き締め最後まで諦めずに戦いました。

7回の裏では、日本選手のレフトフライを韓国選手がエラーをしたため、2塁と3塁にいた日本選手が全力疾走でホームに戻り、2点を追加することができました。結果、サヨナラ勝ちで優勝することができました。

日本選手は初出場でしたが、強化合宿や練習試合を行った結果が優勝につながったのだと感じました。

第7回 アジア太平洋ろう者競技大会 バスケットボール競技(男子) 大会結果報告書 (デフリンピックアジア太平洋地区予選含む)

NPO法人日本デフバスケットボール協会
総監督 篠原雅哉

①競技の参加国数と人数

4ヶ国(台湾、オーストラリア、韓国、日本)、選手48名

②競技スケジュール(派遣スケジュール)

2012年5月23日～6月2日

③成績一覧と成績に対する評価

優勝 台湾

準優勝 日本

3位 オーストラリア

4位 韓国

評価：5段階評価とするならば、4。優勝(アジア1位)を目標としていたが、まだ課題が多いため。

④チームスタッフ体制について

総監督 強化委員長(協会理事長) 篠原雅哉

ヘッドコーチ 坂本知加良

アシスタントコーチ 手塚清貴

アシスタントコーチ 山崎敬祐

トレーナー 大塚健吾

計5名

スカウティングや分析、チーム全体のコンディショニング管理などを考えると、もう1名の増員が必要であると感じました。特に選手のケアに回る側のスタッフが必要であると感じ、デフリンピック派遣にはスタッフの増員を決定しました。

⑤大会の競技運営などについての報告(問題点)

会場が軍の施設であり、地下鉄の駅からも遠く、タクシー運転手にとってもなじみのない場所であったため、タクシーも迷子になる事態が発生しました。バスを借りることも検討したが、手配の煩雑さや、予算、会場の情報がなかなか入らなかったことから、タクシーでの移動を選択しました。具体的問題点として、30分で行けるところを、2時間近くかけて会場に到着し、会場入りしたのは試合の5分前という例がありました。他国でもタクシーを使うと同様のケースがあったと聞きました。

会場スタッフはフレンドリーでよくしていただきました。日本の新聞で見られるような反日的な態度や言動はありませんでした。

⑥競技規則についての報告(問題点)

4ヶ国総当たりのリーグ戦を行い、ファイナルではリーグの順位1位対2位、3位対4位の試合となりました。問題点は特にありませんでした。

⑦反省・まとめ

オーストラリア戦で、体格差をどのように埋めるかがポイントとなりました。具体的にはサイズでは差があるものの、インサイドにも選手を配置することで、オーストラリアのディフェンスを収縮させ、シュート時のプレッシャーを最小限に抑える

ことと、スピードを生かしたドライブで相手の的を絞らせない等です。結果、終盤まで競り、相手のファウルを受けながらのシュートを決めたことで1点差の逆転に成功し、そのまま1点差での勝利となりました。

続く台湾戦では、立ち上がりには相手の執拗なディフェンスに日本らしさを出せない状況が続き、相手を追いかける苦しい展開となり、そのまま敗戦となりました。ここで、自らの課題を再確認し、きちんとコミュニケーションをとること、敗戦を引きずらないことなどを話し合い、次の韓国戦では大差をつけて勝利しました。

最終戦は再び全勝の台湾と当たることとなり、前回の敗戦から得た教訓を生かし、最終クォーター残り数分まで1～2点を争う接戦であったが、最後の方で相手のディフェンスに阻まれ決定打を打つ状況が作れず、逆に離されてしまい準優勝という結果となりました。

技術的・戦略的には国内での強化は十分に実を結んだといえますが、接戦となった時の個々のメンタリティのさらなる強化が課題となりました。アジア準優勝となったことで、2013年デフリンピックの出場権を獲得することができ、以降は体格のある欧米選手との競り合いに負けない体づくり、そして組織的バスケットボールの精度を高めていくことを意識したいです。

第7回 アジア太平洋ろう者競技大会 ボウリング競技 大会結果報告書

日本ろう者ボウリング連合
監督 笹木光明

①大会概要

競技日程 平成24年5月23日～6月3日
参加国数 男子25ヶ国 女子25ヶ国
参加者数 選手124人 役員70人 合計194人

②派遣概要 参加人数8人（選手6人 スタッフ2人）

チーム編成 監督 笹木光明（千葉県）
選手 数見 満（和歌山県）、新垣匡史（沖縄県）
馬場新二（愛知県）、後藤盛勝（広島県）
中村洋三（鳥取県）、笹木光明（千葉県）
スタッフ 数見順子（和歌山県）、笹木るみ子（千葉県）

③成績・結果

男子シングルス戦（60人中）
新垣匡史 14位、馬場新二 15位、中村洋三 25位
数見 満 29位、笹木光明 40位、後藤盛勝 41位

男子ダブルス戦（31組中）
新垣・馬場組 4位、笹木・後藤組 10位、
数見・中村組 12位

男子トリオ戦（19組中）
新垣・中村・馬場組 5位、数見・後藤・笹木組 8位

男子団体戦（8ヶ国中）
数見・中村・馬場・後藤・新垣組 6位

総合ゲーム24G（60人中）

馬場新二 14位、新垣匡史 15位、中村洋三 19位
笹木光明 24位、数見 満 25位、後藤盛勝 30位

④試合経過と戦評

12ヶ国のTD会議で行われました。

試合予定時間は9時～16時まででしたが、各国より10時から開始してほしいという希望があり、多数決の結果、10時～16時までが試合時間となりました。試合内容により昼食抜きや休憩がなかったので、少々体力がなくなりましたが、選手たちは良く頑張ってくれました。

⑤競技の総評と反省

今大会でレベルの高い国は韓国と台湾でした。

理由を聞いてみたところ、1ヶ月に50ゲーム以上の投球練習をしていたようです。日本選手達は試合中にうまくスベアを取れなかったため良い成績が残せなかったようでした。今後は投球練習の量や時間を多くして腕を磨き、良い成績を残せるように頑張っていきたいと思います。

⑥今後に向けての取り組み

コーチ・スタッフとも、人数を増やすとともに良いアベレージ選手を多数推薦して一緒に連れて行きたいと思います。

第7回 アジア太平洋ろう者競技大会 自転車競技 大会結果報告書

日本ろう自転車競技協会
ナショナルチーム本部事務局 早瀬憲太郎

①競技の参加国数と人数

5ヶ国13選手
・韓国：3選手
・台湾：3選手
・オーストラリア：1選手
・イラン：2選手
・日本：4選手

②競技スケジュール（派遣スケジュール）

・5月28日（月）10:00～13:00 1,000mスプリント
・5月29日（火）10:00～13:00 35Kmタイムトライアル
・5月30日（水）10:00～13:00 100Kmロードレース
・5月31日（木）10:00～13:00 50Kmポイントレース

③成績一覧と成績に対する評価

【5月28日（月）10:00～13:00 1,000mスプリント】

・今村信也 5位入賞
・箭内秀平 8位入賞

評価

日本では1,000mスプリントや35Kmタイムトライアル、50Kmポイントレースは一般対象にはほとんど行われていないため、日本チームの戦略としては5月30日の100Kmロードレースに標準を置き、練習を積み重ねてきました。

そのため、1,000mスプリントは体力を温存し、大会の雰囲気慣れをすることを大きな目標としました。陸上に例えると100mのような瞬発力が必要とするこの種目で、体力を温存しながらの状態であった今村選手と箭内選手の入賞は予想外であ

り、嬉しい結果でした。しかし、決勝トーナメントでは体体温を優先し、全力を出さないようにチームとして意思統一を図りました。

【5月29日（火）10:00～13:00 35Kmタイムトライアル】
・今村信也 6位入賞（54' 14" 70）

評 価

35kmタイムトライアルも同様で、全員が体力を温存して100Kmロードレースに備え身体を慣らすことを目標としました。その結果、全員が順当な結果となりました。今村選手が6位入賞し、少々体力を消耗してしまったため、レース後半ではペースを落とすようチームとして指示を行いました。

【5月30日（水）10:00～13:00 100Kmロードレース】
・今村信也 4位入賞（2' 43' 30" 85）
・箭内秀平 8位入賞（2' 43' 56" 29）

評 価

100Kmロードレースはチームワークと駆け引きがとても重要な種目となります。台湾とオーストラリアの連合で4名、韓国3名、イラン2名というチーム編成となっていました。そこで日本は4名チームで挑み、今村選手をエースとして全員でエースをアシストし、最後までエースを引っ張っていく戦略で意思統一を図りました。

前半で日本チームの2名が駆け引きにひっかかり脱落してしまい、後半は2名のみとなったのは誤算でしたが、日本チームの残りの1名が99Kmまでしっかりエースをアシストしたため、今村選手が3位とコンマ数秒の差で4位入賞となりました。メダルには届かなかったものの、チーム全体でアシストした結果であり、日本チームの実力を考えると良い結果と言えます。

【5月31日（木）10:00～13:00 50Kmポイントレース】
・今村信也 7位入賞（6ポイント）
・箭内秀平 8位入賞（0ポイント）

評 価

100Kmロードレースで体力を使い果たしてしまったため、50Kmポイントレースは残りの力を振り絞り、全力で走ること意思統一を図りました。50Kmポイントレースは経験が必要で、日本選手はほとんど経験がありませんでしたが、それでも全員が走り切り、2名が入賞という結果になりました。

④ナショナルチーム体制

【選手】

- ・今村信也
- ・箭内秀平
- ・宮田大
- ・一条厚
- ・得利雄介：ドクターストップのため棄権

【スタッフ】

- ・団長：高島良宏
- ・監督：峰武史
- ・事務／メカニック：早瀬憲太郎
- ・医療／マネージャー：早瀬久美
- ・マッサー：加納晶
- ・トレーナー：平田昴大
- ・スタッフ：土井寛子／養原由加利／藤野幹彦

⑤大会の競技運営などについての報告（問題点）

- ・全日本ろうあ連盟本部からの情報及びプログラム掲載の情報（スケジュール、会場など）が混在しており、正しい情報が分かりませんでした。「〇月〇日〇時時点での情報」など注釈があると助かります。
- ・プログラム配布が遅すぎます。

⑥競技規則についての報告（問題点）

- ・1,000mスプリントが200mに変更になっていることを直前まで知りませんでした。選手及び監督として対策を事前に考えているため、大幅なルールの変更は避けてほしいと思いました。

⑦反省・まとめ

今回出場したアジア圏の自転車競技選手はこれまでにデフリンピックや世界選手権などの出場経験がある選手が多く、また2010年バンクーバー冬季オリンピックにスピードスケートで4位入賞した選手も参加していたため、全体的にレベルが高かったです。日本以外の選手はお互いの力や得意とする種目を知っているため、情報交換が盛んでその面でも日本の経験の無さが浮き彫りになりました。

エースの今村選手の実力を考えると、表彰台に立った他国の選手とさほど差はないが、大きく差が出ていたのは2番手以降の選手でした。エースをアシストできる、エースに迫る実力のある2番手以降の選手は他国にはいますが、日本はエースと2番手以降の選手との差が多少あります。

今後日本が表彰台に立つためには、レース出場経験と2番手以降の選手の強化が大きな鍵となるだろうと思います。もともと日本はチームワークと長距離系が得意であるため、100Kmロードレースで表彰台を狙うことは十分可能であります。

自転車競技は乗り物に乗る競技であるため、レースサポートとしては以下の3つが必要不可欠です。

1. メカニック
2. ローラー台を含む現地ショップのサポート
3. 事前のコース情報の把握

今後の世界大会でもきちんとこのサポート体制ができるようにしていきたいと思います。

第7回 アジア太平洋ろう者競技大会 サッカー競技 大会結果報告書 (デフリンピックアジア太平洋地区予選含む)

日本ろう者サッカー協会
事務局長 近藤 寿一郎

①概要

2012年5月26日～6月2日（8日間）に開催された「第7回アジア太平洋ろう者競技大会」は、サッカー、バレー、バスケットボールのみは、2013年の夏季デフリンピック予選を兼ねる非常に重要な位置付けの大会となっています。また、アジア各国の代表チームが、4年に1回、その実力を競う貴重な大会でもあります。今大会は、隣国である韓国のソウルで開催される（開催時期が1年遅れたが）ことになりました。

当サッカー男子日本代表については、柴田監督により「アジアNo.1になる！」という明確な目標を掲げ、チーム強化を今日まで行い、その成果を出す機会となりました。代表となった選手は22名。中には入社したばかりの選手が2名おり、当初

は参加できるのか心配でしたが、勤務先の温かいご理解とご協力により派遣することが可能となりました。通常ならば、なかなかありえないことであり、本当にありがたいことです。最終的に23名中、1名が勤務先の事情によりどうしても参加できず、22名で戦い抜くことになりましたが、逆に、これが行けなくなった選手のためにとチーム全体が奮起し、1つになった要因だと思っています。また、浅香トレーナーが事情により今大会に参加できなくなり、帝京大学の中島先生のご協力を受け、津賀トレーナーが参加することになりました。浅香トレーナーには3年間、サッカー男子日本代表チームを診ていただき、選手に自己管理の徹底を浸透させるなど、チーム育成上、多大な貢献をしていただきました。この場を借りて、幹部を代表して感謝の言葉を述べたいと思います。

今大会では多くの方々のご理解、ご支援、ご協力がなければ、サッカー日本代表が「優勝」することはできなかったであろうと実感しています。チームを派遣する上で、事務局長として、強い「絆」を感じました。今大会で戦うのは選手ですが、戦いに集中できる環境を作ってくださったのは、選手のご家族、勤務先の方々など、多くの方々です。この場を借りて、今大会に関わった全ての方々に厚く御礼を申し上げます。

- 1) 競技日程：2012年5月23日～6月1日
- 2) 参 加 国：韓国、タイ、ウズベキスタン、イラク、サウジアラビア、カザフスタン、マレーシア、香港、イラン、日本（全10ヶ国）
- 3) 大会会場：南楊州総合運動場（京畿道／南楊州市、予選会場）／蚕室（Jamsil）補助競技場（準決勝と決勝のみ）
- 4) 宿泊施設：プロビスタ ホテル&レジデンス（ソウル市 瑞草区（ソチョグ）瑞草1洞（ソチョイルドン）
- 5) サッカー男子日本代表選手団の構成

◆協会役員・スタッフ◆

NO	役職	氏名	所属
1	団長	佐藤 隆	北海道
2	副団長	近藤 寿一郎	神奈川県
3	理事	立川 智隆	広島県
4	理事	佐藤 愛香	神奈川県
5	監督	柴田 英輝	埼玉県
6	コーチ	久住呂 幸一	東京都
7	GKコーチ	長谷川 伸一	東京都
8	トレーナー	津賀 裕喜	茨城県

◆選手◆

No	背番号	ポジション	氏名	所属
1	1	GK	松元 卓巳	福岡県
2	22	GK	千葉 駿介	千葉県
3	23	GK	菱岡 敬彰	北海道
4	2	DF	大熊 浩之	岡山県
5	3	DF	毛塚 史博	東京都
6	5	DF	野呂 啓	愛知県
7	6	DF	細見 尚史	兵庫県
8	13	DF	村田 繁	埼玉県
9	15	DF	水本 博司	兵庫県
10	16	DF	唐橋 翼	大阪府
11	17	DF	桐生 聖明	神奈川県
12	4	MF	伊東 高志	愛知県

13	7	MF	中島 正行	東京都
14	10	MF	塩田 知弘	神奈川県
15	11	MF	古島 啓太	大阪府
16	14	MF	綿貫 俊基	神奈川県
17	20	MF	吉野 勇樹	茨城県
18	21	MF	松本 弘	東京都
19	9	FW	河野 翔	東京都
20	12	FW	古 隆喜	大阪府
21	18	FW	渡邊 亮平	大分県
22	19	FW	野間 三夫	福岡県

6) 大会結果

日本は、Bグループに所属する。

[予選：Aグループ]

	韓国	タイ	ウズベキスタン	イラク	サウジアラビア
韓国		2-1	2-1	2-0	2-5
タイ	1-2		2-2	1-4	0-4
ウズベキスタン	1-2	2-2		1-2	1-0
イラク	0-2	4-1	2-1		0-0
サウジアラビア	5-2	4-0	0-1	0-0	

	勝	負	引分	勝点	得失点	順位
韓国	3	1	0	+9	-1	1
タイ	0	3	1	+1	-8	5
ウズベキスタン	1	2	1	+4	-1	4
イラク	2	1	1	+7	+2	3
サウジアラビア	2	1	1	+7	+8	2

[予選：Bグループ]

	イラン	日本	カザフスタン	マレーシア	香港
イラン		2-2	6-1	11-0	3-0
日本	2-2		6-1	3-0	26-0
カザフスタン	1-6	1-6		4-1	10-0
マレーシア	0-11	0-3	1-4		7-0
香港	0-3	0-26	0-10	0-7	

	勝	負	引分	勝点	得失点	順位
イラン	3	0	1	10	+19	2
日本	3	0	1	10	+34	1
カザフスタン	2	2	0	6	+3	3
マレーシア	1	3	0	3	-6	4
香港	0	4	0	0	-46	5

[順位決定戦]

名称	ホーム	結果	アウェー
9-10 位決定戦	タイ	3-0	香港
7-8 位	マレーシア	3-6	ウズベキスタン
5-6 位	イラク	4-0	カザフスタン

[準決勝／決勝]

名称	ホーム	結果	アウェー
準決勝①	韓国	1-1 延長 (4-5)	イラン
準決勝②	日本	3-1	サウジアラビア
3 位決定戦	韓国	3-3 延長 5-4	サウジアラビア
決定戦	日本	1-0	イラン

[最終成績]

優 勝：日本

準優勝：イラン

- 3 位：韓国
- 4 位：サウジアラビア
- 5 位：イラク
- 6 位：カザフスタン
- 7 位：ウズベキスタン
- 8 位：マレーシア
- 9 位：タイ
- 10 位：香港

②総括

今大会において日本は「初優勝」を果たしました。日本ろう者サッカー協会が設立されてから11年目、国際大会に日本代表を初めて派遣してから29年目の快挙です。協会設立から長い歳月を費やしましたが、ようやく結果が芽吹き、嬉しい限りです。

今大会運営については、当初、(財)全日本ろうあ連盟経由にて、オリンピック公園及びオリンピックスタジアムを中心にコンパクトな大会になると聞いていました。地理的な面や環境などを調査した結果、なかなか良いと思っていましたが、宿泊先情報だけ連絡がなく(当初、大会実行委員会指定の宿泊先を選択することを考えていました。)、期日が迫っていたことと混雑が予測されていたこともあり、旅行会社を通して、早めに大会開催地近くの宿泊先を確保しました。そして、2012年3月17日のTD会議の結果、理由は不明ですが、全競技会場がバラバラになってしまいました。さらに、

- ・宿泊先情報を、2012年3月17日以降に出してきた。
- ・大会実行委員会指定以外のホテルは、送迎は行わないという連絡を1ヶ月位前に正式に通達してきたため、交通手段確保を旅行会社をお願いしたが、想定外の出費が発生した。
- ・サッカー競技の派遣期間が当初19日からの出国であったが、練習会場(当初は、ミサリポートコートだった模様)を確保してないことがわかり、22日からの出国になった。
- ・フットサル競技に関しては、競技実施期間が3日になり、また、1日2試合というありえない競技スケジュールを組んできた。

など、当初1年前に開催されるべき大会であるにもかかわらず、何故、これほどまでに運営及び各国への情報伝達がスムーズでないのか非常に疑問を感じました。国際大会の開催は容易ではないということは理解できますが、現地に行ってみないとはっきりしたことがわからないというのは、非常に残念です。

今回の日本代表チームは、日本国内で最も心技体共にレベルの高いメンバーが揃い、そして、今までと違うのは、「自信」と「絆」が非常に強いことです。柴田監督により、「自分たちはやればできる!アジアNo.1になれる!」という強い意思と自信をもち、そして、大会期間中は国際大会に慣れていない選手を経験豊富なベテラン選手がケア・サポートし、お互いのコミュニケーションを深めるなど、最後まで非常に良い雰囲気であり、戦う集団となっていたと聞いています。

また、特筆すべきは、今大会で重傷者が0名ということでしょう。過去、国際大会に派遣すると、数名が怪我(捻挫、打撲など)や病気(風邪など)をしたという報告を受けますが、今回は0名でした。昨年5月に行われた「第2回世界ろう者サッカー選手権大会」のアジア予選の大会結果とチーム状況の報告を受けて、サッカー技術委員会にて体調管理の重要性を各選手に認識させ、また、浅香トレーナーに様々な教育を行っていただいた成果であると言えます。また、現地で、津賀トレーナーが選手の体調管理について十分に配慮してくださった結果です。ドー

ピング検査については、今回は問題ありませんでした。(受ける機会はなかった。)事前に薬物調査票を提出した結果、3名が禁止物質を含む薬を使用していましたが、直ちに中止させ、禁止物質が含まれていないものを使用するよう指導しました。TUE申請はありませんでした。

食事は、やはり宿泊先で1日3食にすべきであったと反省しています。ホテル側と交渉したところ、朝食は問題ないが、夕食は同じものを2食しか用意できないという状況であったこと、また、試合スケジュールがはっきりしていない状況で、お弁当などを手配することもできず、ホテル周辺には食事ができる場所が沢山あるため各自でまとまって食事をとってもらいました。しかし、やはりスタッフ、選手から不満の声がありました。この点は、次回の国際大会に改善を図りたいと思います。

宿泊先は、非常に快適であったようです。試合後に選手がゆっくりできるように快適性を求めましたが問題はありませんでした。

今大会を総括すると、選手自身が心技体共に充実しており、かつ、チーム運営も良好であったことに加え、今までの反省を生かして、協会側のチームバックアップ体制を強化・改善、選手の周囲の様々な方々の理解と協力があったことが「優勝」という形になったものと考えます。いわば、関係する全ての人の勝利であります。

アジアNo.1となり、次は世界No.1という高い目標ができました。今後は、ますます世界に誇れるサッカー日本代表を派遣できるよう、協会運営を図っていききたいと思います。

第7回アジア太平洋ろう者競技大会 フットサル競技 大会報告書

日本ろう者サッカー協会
フットサル委員会責任者 木根 潤 慶彦
坂田 博美

①概要

2013年8月にブルガリア・ソフィアで開催されるデフリンピックに出場するためのアジア太平洋地区予選が韓国・ソウルで開催されました。なおフットサル競技は当大会初のプレ大会となります。

開催期間は、2012年5月26日(土)～6月2日(土)の8日間(派遣期間は、2012年5月26日(土)～6月3日(日)までの9日間)となり、日本選手団は役員を含め12名で構成し、韓国・ソウルへ派遣しました。このプレ大会におけるアジア諸国からのエントリー国は、イラン・タイ・カザフスタン・モンゴル・イエーメン・日本・韓国の計7ヶ国、134名の選手・スタッフが集まり、アジア太平洋NO.1の金メダルをかけ白熱した戦いを繰り広げました。

- 1) 競技日程：2012年5月30日～5月31日
- 2) 参加国：イラン、サウジアラビア、モンゴル、タイ、韓国、イエーメン、日本
- 3) 大会会場：SK Handball Stadium
- 4) 宿泊施設：プロビスタ ホテル&レジデンス(ソウル市 瑞草区(ソチョグ) 瑞草1洞(ソチョイルドン))
- 5) ろう者フットサル男子日本代表選手団の構成

◆役員◆

NO	役職	氏名	所属
1	監督	川元 剛	大阪府
2	スタッフ	柳澤 亜紀	東京都
3	スタッフ	坂田 博美	東京都

◆選手◆

NO	ポジション	氏名	所属
1	GK	折橋 正紀	東京都
2	FP	木根 潤 慶彦	東京都
3	FP	船越 弘幸	大阪府
4	FP	曾根 靖裕	東京都
5	FP	東海林 直広	北海道
6	FP	植松 隼人	東京都
7	FP	山本 高大	東京都
8	FP	高橋 恭平	東京都
9	FP	野島 康博	大阪府

②日程

1日目：5月26日（土）

9:00頃 日本選手団 8名出発

東京・羽田発 5名 9:25発 KE706便にて空路

大阪・関空発 2名 9:30発 KE722便にて空路

北海道・新千歳発 1名 9:00発 KE796便にて空路

12:00頃 仁川空港着 旅行会社が用意したバスにてホテルへ

16:00～ 開会式 会場 Seoul Olympic Gymnasium

2日目：5月27日（日）

午前1部（10:00～12:00）自主練習→ホテル周辺の公園にて

16:00～ サッカーの試合観戦（日本VSイラン）

3日目：5月28日（月）

午前1部（10:00～12:00）練習→ホテル周辺の教育大学グラウンドにて

午後2部（15:00～17:00）練習→ホテル周辺の教育大学グラウンドにて

4日目：5月29日（火）

9:00頃 日本選手団 2名出発

東京・羽田発 1名 9:25発 KE706便にて空路

大阪・関空発 1名 9:30発 KE722便にて空路

12:00頃 仁川空港着→交通手段を使用してホテルへ

14:00～ テクニカルミーティング→佐藤会長・スタッフ柳澤が出席

※大会は、2012年3月にソウルにて抽選が実施され、予選リーグ／決勝トーナメント・下位トーナメント方式にて以下のスポットに振り分けられました。

予選リーグ	
Aグループ	Bグループ
韓国	イエーメン
モンゴル	カザフスタン
日本	タイ
	イラン

なお、試合のルールについては、20分－10分－20分が採用され、タイムアウトも含む方法となりました。（前後半1回1分ずつあり）

※予選リーグはランニングタイム、トーナメントは公式タイムにて実施。

15:00～16:00 試合会場にて公式練習→選手9名全員揃って練習

5日目：5月30日（水）

9:00～予選A組 第1試合 韓国 VS モンゴル

10:10～予選B組 第1試合 イエーメン VS カザフスタン

11:20～予選B組 第2試合 タイ VS イラン

12:30～予選A組 第2試合 韓国 VS 日本

13:40～予選B組 第3試合 イエーメン VS タイ

14:50～予選B組 第4試合 カザフスタン VS イラン

16:00～予選A組 第3試合 モンゴル VS 日本

17:10～予選B組 第5試合 カザフスタン VS タイ

18:20～予選B組 第6試合 イエーメン VS イラン

6日目：5月31日（木）

10:00～下位決定戦 予選A 3位 VS 予選B 3位

11:10～準決勝 予選A 1位 VS 予選B 2位

12:00～準決勝 予選B 1位 VS 予選A 2位

14:30～3位決定戦

15:40～決勝戦

7日目：6月1日（金）

※私事都合により2名帰国

8日目：6月2日（土）

15:00～ サッカーの決勝観戦（日本VSイラン）

17:00～ 閉会式 会場 Seoul Olympic Gymnasium

9日目：6月3日（日）

※各自到着空港が違うため、仁川空港にて解散

東京・成田組 18:35発→20:55着 KE705便

大阪・関西組 19:15発→20:55着 KE721便

北海道・新千歳組 18:35発→21:20着 KE795便

③試合結果について

予選2組に振り分けられた試合結果は以下の通りとなりました。

予選リーグ結果（総当たりリーグ）

勝ち点方式 勝ち：3点、引き分け：1点、負け：0点

予選A組	韓国	モンゴル	日本
韓国		6－1	0－10
モンゴル	1－6		0－15
日本	10－0	15－0	

予選A組結果

予選リーグ結果（総当たりリーグ）

1位 日本 2勝0敗0分 勝ち点6 得失点 +25

2位 韓国 1勝1敗0分 勝ち点3 得失点 -5

3位 モンゴル 0勝2敗0分 勝ち点0 得失点 -20

予選B組	イエーメン	カザフスタン	タイ	イラン
イエーメン		1－2	0－5	1－9
カザフスタン	2－1		2－6	1－8
タイ	5－0	6－2		2－3
イラン	9－1	8－1	3－2	

予選B組結果

1位 イラン 3勝0敗0分 勝ち点9 得失点 +16

2位 タイ 2勝1敗0分 勝ち点6 得失点 +8

3位 カザフスタン 1勝2敗0分 勝ち点3 得失点 -10

4位 イエーメン 0勝3敗0分 勝ち点0 得失点 -14

4位決定戦

モンゴル（予選A組3位） VS カザフスタン（予選B組3位）

0 - 15

準決勝①

日本（予選A組1位） VS タイ（予選B組2位）

2 - 6

準決勝②

イラン（予選B組1位） VS 韓国（予選A組2位）

13 - 0

3位決定戦

日本 VS 韓国

5 - 1

決勝戦

タイ VS イラン

3 - 7

【日本の得点者】

曾根 靖裕：7点

東海林直広：6点

植松 隼人：5点

野島 康博：5点

船越 弘幸：3点

高橋 恭平：3点

山本 高大：3点

【総合順位】

優勝：イラン

2位：タイ

3位：日本

4位：韓国

5位：カザフスタン

6位：モンゴル

7位：イエーメン

④総括

今回の優勝はイラン、そして、準優勝がタイとなり、2010年10月に行われた第1回アジア太平洋ろう者フットサル選手権と同様の国が上位を占めました。日本は目標であった金メダルを手にすることができませんでした。

去年11月行われた第3回世界ろう者フットサル選手権大会が終了後に、すぐさま今大会へ向けての監督や代表選手の候補を探し、短期間での準備に追われましたが、毎月1回の合宿を実施し、それぞれ選手達が監督の求めるコンセプトを理解し始めるなか今大会を迎えました。

イランやタイは国としての誇りを懸ける戦いに基づき、自国における最強メンバーを送り出す為に、サッカー競技と代表兼任している選手がいました。

今大会の結果を踏まえ、やはり一番の大きな敗因は「経験不足」であることは間違いありません。日本代表として戦う上での実戦経験や海外経験は、不可欠なものであると再確認できました。

今後の大会に向けて、アジア強者であるイランとタイに勝利するほどの代表チーム強化が求められる中、徹底的なろう者フットサル競技人口の増加を図り、代表入りへの競争率アップ、意識改革とその環境整備が急務だと感じました。

今大会を通じて、代表チームを応援、サポートしていただいた方々には、大変感謝しております。我々は常に前進して参りますので、引き続きご支援の程、宜しくお願い致します。

第7回 アジア太平洋ろう者競技大会

柔道 大会結果報告書

日本ろう者武道連合

会長 宮下昭宣

①競技の参加国数と人数

7ヶ国 総選手数24名

日本、韓国、香港、イラン、台湾、カザフスタン、パキスタン

②競技スケジュール（派遣スケジュール）

5/26 ソウル到着、開会式

5/27 練習

5/28 公式練習、TC会議

5/29 試合 -60kg、-66kg、-73kg

5/30 試合 -81kg、-90kg、-100kg

5/31 帰国

③成績一覧と成績に対する評価

-60kg 吉良選手 金メダル

国名

決り技

1回戦 イラン選手

一本勝（背負投）

2回戦 香港選手

一本勝（巴投）

3回戦 韓国選手

一本勝（背負投）

-66kg 東岸選手 銅メダル

国名

決り技

1回戦 イラン選手

技有負（掬投）

2回戦 韓国選手

有効負（背負投）

3回戦 カザフスタン選手

一本勝（大内刈）

-73kg 木ノ下選手 金メダル

国名

決り技

1回戦 パキスタン選手

不戦勝

2回戦 イラン選手

一本勝（背負投）

3回戦 韓国選手

一本勝（背負投）

-81kg 宮下選手 銀メダル

国名

決り技

1回戦 イラン選手

有効負（背負投）

2回戦 韓国選手

一本勝（背負投）

-90kg 日本選手出場なし

-100kg 山田選手 銀メダル

国名

決り技

1回戦 イラン選手

技有負（払い腰）

2回戦 韓国選手

一本勝（背負投）

チーム体制について

監督 宮下昭宣（日本ろう者武道連合会長）

コーチ 江上忠孝（九州電力柔道監督）

スタッフ 大槻由香里（日本ろう者武道連合スタッフ）

選手 吉良暁生（-60kg）

東岸林太郎（-66kg）

木ノ下寿（-73kg）

宮下真也（-81kg）

山田光穂（-100kg）

④競技運営などについての報告（問題点）

今大会は、運営面で多くの問題点がありました。2月に実行

委員会より柔道競技を中止することになったかと思えば、一転し実施することになり、とても混乱しました。

4月になってもスケジュール日程について正式な連絡が来ず、5月によりやくスケジュール日程について正式な連絡が来ました。当初より競技日程が短縮となったため、フライトの航空券の変更料が発生しました。

ソウル入りからTD会議までの競技の具体的な内容については全く情報が入って来ないため、参加者不足により階級が中止されるかもしれないという風評が流れたほどであり、選手達を不安にさせてしまいました。結局、5/28のTD会議にて競技日程内容が明らかになり、スタッフとして胸を撫で下ろしました。競技スケジュール等が分かったのは開会式後であったので、もっと早く明確にしてほしかったと思います。

⑤技規則についての報告（問題点）

柔道競技に参加した選手やスタッフなどがIDJルールに則って実施することを認識しているため、大きな混乱もなく無事に終わることができました。

⑥反省・まとめ

今大会は金メダル2名、銀メダル2名、銅メダル1名と、全ての選手がメダルを獲得することができました。特に5名の内、3名が国際大会初出場にもかかわらず、落ち着いて試合をすることができました。今までの江上コーチの下で厳しい練習をこなしてきたことが大きな成果であると思います。

試合を通して自分の課題をたくさん発見することができ、各選手にとって大変有意義な大会であったらうと感じました。筋肉アップのためのトレーニング、外国人パワー対策、メンタルトレーニングなどを強化合宿で取り入れ、強化を図っていくことがデフリンピックまでの当連合の課題であると改めて認識しました。

5/26～31までの6日間にスタッフ及び選手と共に行動しましたが、トラブルやストレスもなく仲良く過ごすことができて良かったです。試合で勝った選手をお祝いする人もいれば負けた選手を励ます人もいました。大変良いチームでありました。今後も良いチーム作りができるようスタッフとして協力していきたいと思います。

第7回 アジア太平洋ろう者競技大会 水泳競技 大会結果報告書

日本ろう者水泳協会
監督 豊田律

①大会概要

参加国数：12ヶ国

参加者数：選手50名 役員30名 合計80名

日本からは選手13名、スタッフ4名

【スタッフおよび役割】

監督：豊田 律（三重県）…チーム全体の掌握、指揮監督、TD担当

コーチ：澤和信二（千葉県）…監督補佐、選手指導管理

総務マネージャー：平田 純（愛知県）…監督・コーチ補佐、総務、TD担当

トレーナー：玉上小百合（健聴者/千葉県）…選手ケアサポート

②競技スケジュール（渡航スケジュール）

5/25…ソウル到着、豊田・平田本部へ。

5/26…10時～12時、15時半～17時まで練習（韓国体育大学）
（開会式は16時から6名参加、残りの7名が午後練習参加）

5/27…8時～10時まで練習（韓国体育大学）、15時からTD会議、豊田・平田参加（オリンピックパークテル）

5/28…試合 10時～12時予選、15時～17時決勝（ソウル体育高校）

5/29…試合 10時～12時予選、15時～17時決勝（ソウル体育高校）

5/30…試合 10時～12時予選、15時～17時決勝（ソウル体育高校）

5/31…試合 10時～12時予選、15時～17時決勝（ソウル体育高校）
22時 豊田・平田本部へ。

6/1…他競技応援

6/2…16時から閉会式（オリンピックサブスタジアム）

6/3…帰国

③競技運営について

FINA（国際水泳連盟）の規則に則って運営が行われていました。

しかし、電光掲示板の順番及び記録のズレが相次ぎ、スタッフと選手達が混乱していました。計時のミスはなかったものの、計時と電光板掲示との不一致が多かったため、自動計時システムの作動を事前にきちんと確認してほしかったです。ボランティアのろう者への配慮や飲み物の配布のサービス等、大会を盛り上げようとする意気込みは十分伝わってきました。

そのおかげで、競技会場でのトラブルはほとんどなく、安心して過ごすことができました。

④競技規則について

FINA（国際水泳連盟）規則に則っており、日本も同様のなので問題はありませんでした。TD会議にて水着の規則について認識がなかった国が3ヶ国もあることが分かりました。

公認水着を着用しなければ試合に出場することは出来ませんが、実行委員会の素早い対応で、公認水着を手に入れ、試合に参加出来ました。しかしどの国でもしっかりと規則を認識しないといけないと強く感じました。

⑤選手および競技結果

茨 隆太郎（神奈川県・大学1年）

[競技結果]

・50M自由形決勝2位＝銀メダル獲得

・100M自由形決勝2位＝銀メダル獲得

・50M背泳決勝2位＝銀メダル獲得

・100M背泳決勝2位＝銀メダル獲得

・200M背泳決勝2位＝銀メダル獲得

・200M個人メドレー決勝1位（アジア新記録）＝金メダル獲得

・400M個人メドレー決勝1位（アジア新記録）＝金メダル獲得

・400Mメドレーリレー決勝2位（日本新記録）＝銀メダル獲得

・400Mリレー決勝1位（日本新記録）＝金メダル獲得

・800Mリレー決勝1位（アジア新記録）＝金メダル獲得

・100M平泳棄権

金持義和（大阪府・大学1年）

[競技結果]

- ・50M平泳ぎ決勝2位＝銀メダル獲得
- ・50M背泳決勝1位＝金メダル獲得
- ・100M背泳決勝1位＝金メダル獲得
- ・200M背泳決勝1位＝金メダル獲得
- ・400M個人メドレー決勝1位（アジア新記録）
- ・400Mメドレーリレー決勝2位（日本新記録）＝銀メダル獲得
- ・400Mリレー決勝1位（日本新記録）＝金メダル獲得
- ・800Mリレー決勝1位（アジア新記録）＝金メダル獲得

藤原 慧（東京都・高校2年）

[競技結果]

- ・200M自由形決勝1位（アジア新記録）＝金メダル獲得
- ・400M自由形決勝1位（アジア新記録）＝金メダル獲得
- ・1500M自由形決勝1位（世界新記録、アジア新記録）＝金メダル獲得
- ・200Mバタフライ決勝1位（日本新記録）＝銀メダル獲得
- ・400Mメドレーリレー決勝2位（日本新記録）＝銀メダル獲得
- ・400Mリレー決勝1位（日本新記録）＝金メダル獲得
- ・800Mリレー決勝1位（アジア新記録）＝金メダル獲得

山本 駿（東京都・専攻科2年）

[競技結果]

- ・50M自由形決勝5位入賞
- ・100M自由形決勝8位
- ・200M自由形決勝4位入賞
- ・400M自由形決勝3位＝銅メダル獲得
- ・1500M自由形決勝2位＝銀メダル獲得
- ・50Mバタフライ決勝3位＝銅メダル獲得
- ・100Mバタフライ決勝2位＝銀メダル獲得
- ・400Mメドレーリレー決勝2位（日本新記録）＝銀メダル獲得
- ・400Mリレー決勝1位（日本新記録）＝金メダル獲得
- ・800Mリレー決勝1位（アジア新記録）＝金メダル獲得

藤井 陽（名古屋市）

[競技結果]

- ・100M自由形決勝7位
- ・50Mバタフライ決勝6位入賞
- ・100Mバタフライ決勝6位入賞
- ・200M平泳決勝8位
- ・200M自由形棄権
- ・200M個人メドレー失格（泳法違反）

中川 裕介（大阪市）

[競技結果]

- ・50M自由形決勝7位
- ・50M平泳決勝7位
- ・100M平泳決勝7位
- ・200M平泳決勝6位入賞

上田 雄二（大阪市）

[競技結果]

- ・50M背泳決勝8位
- ・50Mバタフライ決勝6位入賞
- ・100Mバタフライ決勝5位入賞

小塩崇文（福岡市・高校1年）

[競技結果]

- ・400M自由形決勝6位入賞
- ・1500M自由形決勝4位入賞
- ・200M個人メドレー決勝4位入賞
- ・400M個人メドレー3位＝銀メダル獲得

今村可奈（大阪府）

[競技結果]

- ・50M自由形決勝2位＝銀メダル獲得
- ・100M自由形決勝1位＝金メダル獲得
- ・200M自由形決勝1位＝金メダル獲得
- ・400M自由形決勝1位＝金メダル獲得
- ・800M自由形（オープン）1位
- ・50M背泳決勝2位＝銀メダル獲得
- ・100M背泳決勝2位＝銀メダル獲得
- ・100Mバタフライ決勝3位＝銅メダル獲得
- ・200Mバタフライ（オープン）2位

藤川彩夏（長野県・高校2年）

[競技結果]

- ・50M背泳決勝3位＝銅メダル獲得
- ・100M背泳決勝1位＝金メダル獲得
- ・200M背泳決勝1位＝金メダル獲得
- ・50Mバタフライ決勝1位＝金メダル獲得
- ・100Mバタフライ決勝2位＝銀メダル獲得
- ・200Mバタフライ（オープン）3位
- ・200M個人メドレー決勝2位＝銀メダル獲得
- ・400M個人メドレー決勝1位＝金メダル獲得

高瀬理恵（東京都）

[競技結果]

- ・50M自由形決勝3位＝銅メダル獲得
- ・50M平泳（オープン）1位（アジア新記録）
- ・100M平泳決勝2位＝銀メダル獲得
- ・200M平泳決勝2位＝銀メダル獲得

久保 南（愛知県・高校1年）

[競技結果]

- ・100M自由形予選4位入賞
- ・200M自由形決勝2位＝銀メダル獲得
- ・400M自由形決勝2位＝銀メダル獲得
- ・50M平泳（オープン）2位
- ・100M平泳決勝1位＝金メダル獲得
- ・200M平泳決勝1位（日本新記録）＝金メダル獲得
- ・200M個人メドレー決勝3位＝銀メダル獲得

久賀愛美（新潟県・専門学校2年）

[競技結果]

- ・50M自由形決勝4位入賞
- ・100M自由形決勝8位
- ・50M背泳決勝5位入賞
- ・100M背泳決勝5位入賞

⑥選手選考の経過及び大会目標と結果

選考は当協会の指定選手を対象に大会1年前にあたる去年の8月から始まりました。日本水泳連盟公認大会、日本マスターズ協会公認大会、そして10月の第6回日本ろう者水泳選手権大会にて選考を行いました。

2011年世界選手権大会の6位相当、APDSCランキング4位を基準記録として、その基準記録を突破した14名の内、13名の選手を代表選手として選出しました。

目標は全員メダル獲得、そしてメダル獲得20個を目標としました。

結果は全員メダル獲得にはならなかったものの、金19個、銀19個、銅7個、計45個のメダルを獲得し、目標のメダル獲得数20個を大きく上回ることができました。またアジア太平洋ろう者競技大会でのメダル獲得数としては過去最多になりました。

⑦現地でのコンディショニング

ソウル市は日本との時差がなく、気候的にはあまり変わらないため、すぐに慣れ、過ごしやすかったです。しかし、朝と夜は気温が急に下がるため、就寝の際はエアコンをOFFにする、飲料摂取の際は水道水を極力避け、ペットボトルのミネラルウォーターを摂るようにするなど各自コンディションの管理をしっかりと行いました。

⑧各種目の試合経過と戦評

【自由形・男子】

短距離は茨選手が持ち前のスプリント力を活かし50Mで銀メダル、100Mで銅メダルを獲得しました。中川選手は調子が上がっており、50Mに期待がかけられましたが、やや力んでいたせいか、後半が伸びず、惜しくも入賞を逃しました。

50Mと100Mの短距離は泳ぎのスピードだけでなくスタートとターン、そしてタッチのスピードがとても重要です。これが伴わなければいくら泳ぎが速くても勝てません。その部分をしっかりと認識し、普段の練習でスタート、ターン、タッチの技術を磨かなければならないと感じました。

中・長距離は高校生の藤原選手が積極的に飛ばし、持ち前のスタミナ力を活かしてペースが落ちないまま最後まで泳ぎ切り、200M、400M、1500Mにていずれも自己ベストでアジア新記録を樹立し、金メダルを獲得しました。特に1500Mはデフ史上初、16分突破の驚異的な世界新記録を果たし、大会全体が興奮のつぼと化しました。山本選手は連続レースで体調が万全でなかったものの、粘りのレースで踏ん張り、400Mで銅メダル、1500Mで銀メダル獲得を果たしました。小塩選手は小柄ながら粘りの泳ぎで400M、1500Mでいずれも自己ベストで4位入賞を果たしました。

藤原選手は普段からよく泳ぎ込んでおり、泳ぎが安定していたことがいい結果につながりました。

山本選手と小塩選手は持久力練習にあまり取り組んでいなかったため、ややペース配分の安定が見られませんでした。今後、持久力をつける泳ぎ込みを重視した練習に取り組むように認識させました。

【自由形・女子】

今村選手が豊富な国際大会の経験を活かし、50Mで銀メダル、100M、200M、400Mで金メダル獲得を果たしました。800Mは1位になったものの、韓国選手が棄権したため、規則(※)によりオープン競技となり、メダル獲得できないことが非常に残念でした。

※レースが成り立つには参加選手たちの国籍が3ヶ国以上であることが条件。

高瀬選手が持ち前のスプリント力を活かし50Mで銅メダルを獲得しました。久保選手は専門外ながら力強い泳ぎで、200

Mと400Mで銀メダル獲得を果たしました。久賀選手は得意の50Mに期待したのですが、タッチの差で4位入賞、惜しくもメダル獲得を逃しました。

今村選手と高瀬選手は国際大会での経験を活かした良いレースができましたが、久保選手と久賀選手は泳ぎには問題がないものの、スタートとターンとタッチがまだまだ未熟でした。普段の練習にてスタートとターンとタッチの技術をあげるように練習の取り組みを認識させました。

【平泳・男子】

中川選手は50、100、200Mとも予選から自己ベストを出しており、決勝で期待がかけられました。しかし、決勝になると、緊張で力んでしまい、後半が伸びず、惜しくも入賞を逃しました。

金持選手は50Mでスタート、浮き上がりがうまくいき、タッチのうまさで銀メダル獲得を果たしました。藤井選手は200Mで後半から追いつけたものの、練習不足がたたき、惜しくも入賞を逃しました。

平泳は4英法の中で一番抵抗が大きく、いかにその低抗を減らすのが重要なポイントです。練習はもちろん、大会の実績の積み重ねが必要です。それにより抵抗を身を感じ取るようになり、さらに自分で工夫して抵抗を減らすことができるようになります。そのことをしっかり選手達に認識させました。

【平泳・女子】

大会前に短水路で日本新を出すなど調子を上げている高瀬選手と新宿で調子を上げている久保選手の2名のメダル獲得へ期待がかけられました。50Mは韓国選手の棄権で規則によりオープン競技でしたが、得意種目の高瀬選手が積極的にスタートから飛ばし、アジア新記録で1位、久保選手も高瀬選手に食いつけて踏ん張り、2位となった。100Mは高瀬選手が積極的に飛ばして先行しましたが、久保選手が後半から凄い追い込みでゴール前に並び、タッチの差で勝ち取り、金メダル獲得を果たしました。高瀬選手も銀メダル獲得を果たしました。

200Mは久保選手が積極的に飛ばし、後半にもスピードが落ちることはなくそのままゴール、自己ベストを大幅に更新する日本新記録で金メダル獲得を果たしました。高瀬選手も後半はややスピードが落ちたものの、最後まで踏ん張り、銀メダル獲得を果たしました。

高瀬選手と久保選手はよく健常者の大会にも参加しており、豊富な実績が良い結果につながりました。

【背泳・男子】

去年の世界大会で2冠を獲得した金持選手と同じく50Mで世界タイ記録を出して優勝した茨選手の2名のメダル獲得へ期待がかけられました。金持選手は、持ち前の後半の強さを発揮し、50、100、200Mでいずれも今季最高記録で金メダル獲得、3冠獲得を果たしました。茨選手は連続レースでやや体調が万全でなかったため、金持選手に追い付くことはできなかったものの、今季最高記録でいずれも銀メダル獲得を果たしました。上田選手は50Mに期待がかけられましたが、泳ぎに伸びが見られず、惜しくも入賞を逃しました。

金持選手と茨選手は今年から大学生になったばかりで、環境変化によりまだ調子が上がっていなかったため多少の不安はあったのですが、よく泳ぎ込んでおり、環境に慣れればますます伸びると感じました。今大会の経験を活かして今後の大会につなげることができると思います。上田選手は練習不足が明らかになっており、その部分を課題にして練習に取り組むよう認

識させました。

【背泳・女子】

ベテランの今村選手、キック力のある藤川選手、去年から成長している久賀選手の3名に期待がかかりましたが、連続レースで体調が万全ではありませんでした。そんな中で、藤川選手はキック力を活かして100Mと200Mで金メダル獲得、50Mで銅メダル獲得を果たしました。今村選手もベテランらしいレース展開を見せ、50、100Mで銀メダル獲得を果たしました。久賀選手は50、100Mで前半から積極的に飛ばしましたが、後半に入って泳ぎのキレがなくなり、惜しくも5位入賞にとどまりました。

今村選手と藤川選手は経験が豊富で泳ぎが安定していたため、良い結果につながりました。

久賀選手は練習不足と技術の未熟さが明らかになっており、その部分を課題にして練習に取り組むよう認識させました。

【バタフライ・男子】

自由形で3冠を獲得し、絶好調の藤原選手に200Mの期待がかかりました。スタートから積極的に飛ばし、後半から先行するアジア王者の中国選手に食いかかり、ラストスパートでほぼ同時に並びましたが、惜しくもタッチの差で2位、自己ベストの日本新記録で銀メダル獲得を果たしました。

藤原選手はまだまだ実績が浅く、実績を積み重ねていけば、大きく伸びる可能性があります。

【バタフライ・女子】

去年の世界大会で100M銀メダリストの藤川選手と200M銀メダリストの今村選手の2名に期待がかかりました。50Mは藤川選手が持ち前のキック力を発揮して金メダル獲得を果たしました。100Mは藤川選手がスタートから先行するアジア王者の中国選手をビタリとマークし、ラストスパートに勝負をかけたものの、中国選手に逃げ切れ、惜しくも銀メダル獲得という結果となりました。今村選手は連続レースで体調が万全でなかったため、前半でイーブン、後半から上げるレース展開で銀メダル獲得を果たしました。200Mは韓国選手の棄権により、オープン競技でしたが、今村選手が王者の中国選手を打倒することが目標であり、スタートから中国選手との駆け引きレースを見せ、ラストスパートで並んだが、タッチの差で惜しくも2位になりました。記録的には水着規制後の自己ベストを出すことができました。藤川選手は前半から積極的に飛ばしましたが、後半に入ってからスピードが落ちてしまい3位入賞という結果となりました。

今村選手と藤川選手の2名にとって得意種目であり、いずれも中国選手に敗れましたが、良い勉強になったと思います。なぜ敗れたのか、自分で課題を出して練習にて解決できるように認識させました。

【個人メドレー・男子】

茨選手が200Mも400Mも安定したレース展開を見せ、2位を大きく引き離して金メダル獲得を果たしました。特に400Mは自己ベストのアジア新記録を果たしました。小塩選手も200、400Mにおいては積極的に飛ばし、いずれも自己ベストを出し200Mで4位入賞、400Mで銀メダル獲得を果たしました。

茨選手にとって得意種目であるためしっかり泳ぎ込んでおり、安定したレースで良い結果につながりました。小塩選手は

まだまだ実績が浅く、実績を積み重ねていけばさらに伸びると感じました。

【個人メドレー・女子】

専門の藤川選手が200Mで銀メダル、400Mで金メダル獲得を果たしたものの、課題が残るレースでした。3番目の平泳と最後のクロールの泳ぎのキレが見られませんでした。藤川選手はバタフライと背泳が強いので、個人メドレーの際は、バタフライと背泳はややイーブンにして平泳と自由形をペースアップしたレース展開にすればかなり良い記録が出ると推測します。久保選手は200Mで積極的に飛ばし自己ベストを出し銅メダル獲得を果たしました。バタフライと背泳を強化していけばさらに伸びると思います。

【リレー・メドレーリレー】

女子の部は参加国籍が2ヶ国しかいなかったため規則によりオープン競技でしたが、韓国チームが参加辞退したため、参加国は日本チームのみとなり、実施しませんでした。デフリンピックの選考にあたっただけに非常に残念でした。

男子の部はリレー、メドレーリレーに茨選手・山本選手・金持選手・藤原選手のメンバーで臨みました。

400Mメドレーリレーは茨選手と山本選手がレース直後であり、思うように力が発揮できず中国に敗れたものの、日本新記録で銀メダル獲得を果たしました。

400Mリレーは、連続レースで体力的にやや不安があったものの、スタートからトップのままで行き、ラストスパートで中国の猛烈な追いつきを振り払って逃げ切り、日本新記録で見事1位を勝ち取りました。こうしてチームワークの強さを実感することができました。

800Mリレーにおいては、前日の400Mリレーで中国に勝ったことが選手達の自信となり、アジア記録突破で優勝に期待がかかりました。

スタートからトップを保ち、2位の中国を大きく引き離して優勝、従来のアジア記録を14秒以上も上回る驚異的なアジア新記録を樹立しました。

国際大会では2009年の台湾デフリンピック大会以来2度目のリレーでしたが、今回のメンバーはトップレベルの実力を持った選手が多く、さらにチームワークも素晴らしかったため良い結果につながりました。このメンバーであれば、来年のデフリンピック大会にも大きな期待を持てます。

⑨競技の総評と反省

競技スケジュールが公表されないままエントリーすることになり、一抹の不安がありました。試合2日前の開会式でようやく競技スケジュールが公表されました。国際大会ではあり得ないことであり、大会実行委員会に対しては不満だけでしたが、それよりも選手達の競技スケジュールの方が気がかりでした。

案の定、ほとんどの選手が1日に2種目以上、多い時は1日5種目もの競技に参加するほどの過密なスケジュールで構成されており、選手達のコンディションが非常に心配でした。

記録よりメダルを獲ることに意識を集中させ、コンディションを調節しながらレースするよう指示しました。

また参加選手13名の中で、初めて国際大会に参加したのは5名で、幸い、時差など環境が日本とあまり変わらなかったため、全員自己ベストを出すことができました。その中で藤原選手は自由形で世界新、あるいはアジア新記録で3冠を獲得できたことを高く評価します。

過密なスケジュールの中、コンディションをうまく調整できなかった選手とできなかった選手が記録に対して大きく明暗を分けました。できなかった選手達は明らかに普段の練習によるものと反省しました。

今大会を通し、3つの課題が浮き彫りになりました。

一番の課題は「回復力」。過密なスケジュールにもかかわらず安定した記録を出した選手は素晴らしい「回復力」を持ち合せていたからです。厳しい練習に耐え続けるからこそ、回復力も上がるのです。疲労の原因となる乳酸を休憩の時にいかに減少させることができるかが大きなポイント。人によってまちまちであるため、練習を通して自分で乳酸のコントロール調節を身に付けなければなりません。この努力が回復力アップにつながります。

二つ目の課題は「100%の力の発揮」。試合になるともちろん100%の力を発揮しなければなりません。しかし、なかなか発揮できない選手が数名いました。原因はひとつだけ。練習で100%の力を発揮できるレーススピードを出せなかったことです。練習で100%発揮できなくても試合になれば、100%発揮できると思い込んでいたようです。そんなことはスーパーマンでない限り不可能です。

試合の結果は全て練習の成果によるものです。

三つ目の課題は「自己管理」。過密なスケジュールのため、疲労や筋肉痛を訴える選手が出てきます。玉上トレーナーがマッサージを施し疲労および筋肉痛が軽減になったのはいいのですが、トレーナーに頼らず自分でストレッチをする、アイシングを使用し筋肉痛を抑えるなど工夫しなければなりません。なぜなら自分の体は誰よりも自分がよく知っているからです。自分で体のケアができるようになれば、24時間いつでも体のケアができるため、先述した「回復力」にもつながり相乗効果がアップします。

以上、3つの課題について選手達にしっかり認識させました。

⑩今後に向けた取組み

今大会を通し、アジアのレベルが上がっているのが分かりました。トップであった中国はややレベルが下がったものの、主力選手はまだ健在、若い選手も出てきたため今後強くなるでしょう。台湾のレベルも去年の世界大会よりレベルが上がってきました。韓国の男子選手のレベルも上がっており、リレーにおいては全てメダルを獲得しています。さらに意外だったのはインドネシアの男子選手2名でした。1名が50mバタフライで優勝をはじめ、銀メダル1個、銀メダル2個を獲得し、もう1名が13才ながら50M平泳で優勝をはじめ、銀メダル2個獲得を果たしました。2名とも若いため、今後の成長が楽しみであると同時に、日本チームにとって強力なライバルとなり、脅威になると感じました。このような動向を踏まえると日本は今大会で満足するのではなく、さらにレベルアップしなければなりません。

今後の取り組みとしては、①合宿には水中でビデオ撮影をして自分の泳法を見せ、改善のポイントを自覚させる。②レースで100%発揮するためにレーススピードを中心とした練習を取り入れる。③技術だけでなく筋力アップもフォーム改善につながるためウェイトトレーニングを取り入れる。④回復力強化および自己管理徹底化。

以上4点を取り組み次回の国際大会につなげていきたいと思っています。

第7回 アジア太平洋ろう者競技大会 卓球競技 大会結果報告書

日本ろうあ者卓球協会
総務 今西伸行

①競技の参加国数と人数

参加国：14ヶ国・地域

参加人数：選手61名（男子41名、女子20名）

オーストラリア、チャイニーズタイペイ、香港、イラン、日本、カザフスタン、大韓民国、キルギス、マカオ、パキスタン、フィリピン、シンガポール、ウズベキスタン、イエメン

②日本代表名簿

○スタッフ

監督：佐藤 真二〔東京都〕協和発酵キリン株式会社卓球部監督

コーチ兼アドバイザー：西村 卓二〔千葉県〕東京富士大学卓球部監督

コーチ：内山 敏彦〔茨城県〕日立化成工業株式会社卓球部監督

コーチ：青山 修〔千葉県〕一般社団法人日本ろうあ者卓球協会理事

社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会

コーチ：須藤 聡美〔埼玉県〕一般社団法人日本ろうあ者卓球協会強化本部付

総務：伊藤 真紀〔秋田県〕一般社団法人日本ろうあ者卓球協会理事

一般社団法人秋田県聴力障害者協会

総務：今西 伸行〔大阪府〕一般社団法人日本ろうあ者卓球協会理事

社団法人大阪聴力障害者協会

手話通訳：井出 敬子〔神奈川県〕

手話通訳：豊島 絵美子〔東京都〕

○男子選手

梅村 正樹〔北海道〕社団法人北海道ろうあ連盟

望月 翔太〔神奈川県〕神奈川県聴覚障害者連盟

有馬 欽生〔神奈川県〕神奈川県聴覚障害者連盟

上江洲光彦〔沖縄県〕一般社団法人沖縄県聴覚障害者協会

○女子選手

上田 萌〔茨城県〕社団法人茨城県聴覚障害者協会

佐藤 理穂〔東京都〕社団法人東京都聴覚障害者連盟

有馬千寿子〔神奈川県〕神奈川県聴覚障害者連盟

牧山 洋子〔群馬県〕一般社団法人群馬県聴覚障害者連盟

③競技スケジュール（派遣スケジュール）

5月25日（金）

総務2名（伊藤、今西）ソウル到着。夕方に日本チーム本部へ行って挨拶と確認

5月26日（土）

総務2名は開会式・試合会場下見

日本卓球チームソウル到着。夕方、ホテルにて日本卓球チームと合流

開会式出席

5月27日（日）

昼から公式練習、TD会議出席（須藤、伊藤、今西）

夕方、ホテルにてミーティング

5月28日（月）

試合：男子団体戦予選リーグ、女子団体戦総当たりリーグ
（男子団体予選1位通過、女子団体2位以上確定）

5月29日（火）

試合：男子団体戦決勝トーナメント（銅メダル）
女子団体戦総当たりリーグ（金メダル）
混合ダブルス
予選リーグ、決勝トーナメント（銀メダル、銅メダル）
男女団体戦、混合ダブルス表彰式

5月30日（水）

試合：男子ダブルス
予選リーグ、決勝トーナメント（銅メダル）
女子ダブルス
予選リーグ、決勝トーナメント（金メダル）
男子シングルス 予選リーグ
女子シングルス 予選リーグ

5月31日（木）

試合：男子シングルス
予選リーグ、決勝トーナメント
女子シングルス
予選リーグ、決勝トーナメント
（金メダル、銀メダル）
男女ダブルス、男女シングルス表彰式

6月1日（金） 佐藤監督、西村コーチ、内山コーチ、須藤コー
チが帰国

6月2日（土） 午後 閉会式出席

6月3日（日） 帰国

④日本代表の戦績

金3個（女子団体、女子ダブルス、女子シングルス）

銀2個（混合ダブルス、女子シングルス）

銅3個（男子団体、混合ダブルス、男子ダブルス）

○団体戦

男子…銅メダル

女子…金メダル

○男子ダブルス

梅村・有馬組…銅メダル（予選リーグ1位）

望月・上江洲組…ベスト8（予選リーグ1位）

○女子ダブルス

上田・佐藤組…金メダル（予選リーグ1位）

有馬・牧山組…4位（予選リーグ1位）

○混合ダブルス

梅村・上田組…銀メダル（予選リーグ2位）

望月・佐藤組…銅メダル（予選リーグ1位）

有馬・有馬組…4位（予選リーグ1位）

上江洲・牧山組…ベスト8（予選リーグ2位）

○男子シングルス

梅村選手…ベスト8（予選リーグ1位）

有馬選手…ベスト8（予選リーグ1位）

望月選手…ベスト16（予選リーグ1位）

上江洲選手…ベスト16（予選リーグ2位）

○女子シングルス

上田選手…金メダル（予選リーグ1位）

佐藤選手…銀メダル（予選リーグ1位）

有馬選手…ベスト8（予選リーグ2位）

牧山選手…ベスト8（予選リーグ1位）

⑤大会記録

○男子団体戦

1位 チャイニーズタイペイ

2位 大韓民国

3位 日本

4位 カザフスタン

5位 オーストラリア

6位 香港

7位 ウズベキスタン

8位 イエメン

9位 マカオ

10位 パキスタン

○女子団体戦

1位 日本

2位 大韓民国

3位 イラン

4位 カザフスタン

5位 キルギス

○男子ダブルス

1位 LEE / PARK（KOR 大韓民国）

2位 WEN / YANG（TPE チャイニーズタイペイ）

3位 梅村 / 有馬（JPN 日本）

4位 WANG / KUO（TPE チャイニーズタイペイ）

望月 / 上江洲…ベスト8

○女子ダブルス

1位 上田 / 佐藤（JPN 日本）

2位 KIM / JUNG（KOR 大韓民国）

3位 LEE / MO（KOR 大韓民国）

4位 有馬 / 牧山（JPN 日本）

○混合ダブルス

1位 LEE/JRNG（KOR 大韓民国）

2位 梅村/上田（JPN 日本）

3位 望月/佐藤（JPN 日本）

4位 有馬/有馬（JPN 日本）

上江洲/牧山…決勝トーナメント1回戦敗退

○男子シングルス

1位 LEE（KOR 大韓民国）

2位 WEN（TPE チャイニーズタイペイ）

3位 WANG（TPE チャイニーズタイペイ）

4位 PARK（KOR 大韓民国）

梅村…ベスト8

有馬…ベスト8

望月…ベスト16

上江洲…ベスト16

○女子シングルス

1位 上田（JPN 日本）

2位 佐藤（JPN 日本）

3位 LEE（KOR 大韓民国）

4位 KIM（KOR 大韓民国）

有馬…ベスト8

牧山…ベスト8

⑥日本代表詳細結果

○男子団体戦

・予選リーグ（グループC）

日本 3-0 KAZ カザフスタン

日本 3-0 MAC マカオ

日本 3-0 UZB ウズベキスタン
 予選リーグ1位(3勝)
 ・決勝トーナメント
 [準々決勝戦]
 日本 3-1 HGK 香港
 [準決勝戦]
 日本 0-3 TPE チャイニーズタイペイ
 [三位決定戦]
 日本 3-0 KAZ カザフスタン
 ○女子団体戦(総当たりリーグ戦)
 日本 3-0 KAZ カザフスタン
 日本 3-0 KGZ キルギス
 日本 3-0 IRI イラン
 日本 3-1 KOR 大韓民国
 ○男子ダブルス
 ・予選リーグ
 [Cグループ] 梅村/有馬 予選1位:2勝0敗
 梅村/有馬 3-0 MA/NG (MAC マカオ)
 梅村/有馬 3-0 NG/WAN (HGK 香港)
 [Dグループ] 望月/上江洲 予選1位:3勝0敗
 望月/上江洲 3-2 OH/HWANG (KOR 大韓民国)
 望月/上江洲 3-1 KANT/DANIYAR (KAZ カザフスタン)
 望月/上江洲 3-0 JUNAID/KHAN (PAK パキスタン)
 ・決勝トーナメント
 [準々決勝戦(ベスト8)]
 梅村/有馬 4-0 AL/AHMED (YEM イエメン)
 望月/上江洲 0-4 LEE/PARK (KOR 大韓民国)
 [準決勝戦]
 梅村/有馬 0-4 WEN/YANG (TPE チャイニーズタイペイ)
 [三位決定戦]
 梅村/有馬 4-3 WANG/KUO (TPE チャイニーズタイペイ)
 ○女子ダブルス
 ・予選リーグ
 [Bグループ] 上田/佐藤 予選1位:2勝0敗
 上田/佐藤 3-0 KIM/JUNG (KOR 大韓民国)
 上田/佐藤 3-0 AZARSINA/BAHMANI (IRI イラン)
 [Cグループ] 有馬/牧山 予選1位:2勝0敗
 有馬/牧山 3-0 TOKBAEVA/BEKTEMIROVA (KGZ キルギス)
 有馬/牧山 3-0 MADINA/KULZHAMILA (KAZ カザフスタン)
 ・決勝トーナメント
 [準々決勝戦(ベスト8)]
 有馬/牧山 4-0 HABIBI&FALAH (IRI イラン)
 [準決勝戦]
 上田/佐藤 4-0 有馬/牧山
 [三位決定戦]
 有馬/牧山 0-4 LEE/MO (KOR 大韓民国)
 [決勝戦]
 上田/佐藤 4-1 KIM/JUNG (KOR 大韓民国)
 ○混合ダブルス
 ・予選リーグ
 [Aグループ] 上江洲/牧山 予選2位:1勝1敗
 上江洲/牧山 0-3 PARK/LEE (KOR 大韓民国)
 上江洲/牧山 3-0 AALIEV/TOKBAEVA (KGZ キルギス)
 [Bグループ] 有馬/有馬 予選1位:2勝0敗
 有馬/有馬 3-0 HWANG/KIM (KOR 大韓民国)
 有馬/有馬 3-0 DANIYAR/MARINA (KAZ カザフスタン)

[Cグループ] 望月/佐藤 予選1位:2勝0敗
 望月/佐藤 3-0 KANAT/NATALYA (KAZ カザフスタン)
 望月/佐藤 3-0 OH/MO (KOR 大韓民国)
 [Dグループ] 梅村/上田 予選2位:1勝1敗
 梅村/上 1-3 LEE/JRNG (KOR 大韓民国)
 梅村/上田 3-0 YERLAN/KULZHAMILA (KAZ カザフスタン)
 ・決勝トーナメント
 [準々決勝戦(ベスト8)]
 梅村/上田 4-0 PARK/LEE (KOR 大韓民国)
 望月/佐藤 4-0 HWANG/KIM (KOR 大韓民国)
 有馬/有馬 4-0 OH/MO (KOR 大韓民国)
 上江洲/牧山 1-4 LEE/JRNG (KOR 大韓民国)
 [準決勝戦]
 梅村/上田 4-0 望月/佐藤
 有馬/有馬 0-4 LEE/JRNG (KOR 大韓民国)
 [三位決定戦]
 望月/佐藤 4-0 有馬/有馬
 [決勝戦]
 梅村/上田 1-4 LEE/JRNG (KOR 大韓民国)
 ○男子シングルス
 ・予選リーグ
 [3グループ] 梅村 予選1位:2勝
 梅村 3-0 WAN (HGK 香港)
 梅村 3-0 KHAN (PAK パキスタン)
 [6グループ] 望月 予選1位:2勝
 望月 3-1 OH (KOR 大韓民国)
 望月 3-0 KONG (HGK 香港)
 [10グループ] 上江洲 予選2位:2勝1敗
 上江洲 3-0 KANAT (KAZ カザフスタン)
 上江洲 0-3 LEE (KOR 大韓民国)
 上江洲 3-0 NG (HGK 香港)
 [12グループ] 有馬 予選1位:3勝0敗
 有馬 3-1 ISMATULLAEV (UZB ウズベキスタン)
 有馬 3-0 JUNAID (PAK パキスタン)
 有馬 3-0 AL (YEM イエメン)
 ・決勝トーナメント
 [1回戦]
 上江洲 4-0 WAN (HGK 香港)
 [2回戦]
 梅村 4-1 WAN (AUS オーストラリア)
 有馬 4-3 GHORBANIVALIKCHALI (IRI イラン)
 望月 0-4 WANG (TPE チャイニーズタイペイ)
 上江洲 1-4 PARK (KOR 大韓民国)
 [準々決勝戦(ベスト8)]
 梅村 0-4 WANG (TPE チャイニーズタイペイ)
 有馬 0-4 WEN (TPE チャイニーズタイペイ)
 ○女子シングルス
 ・予選リーグ
 [Aグループ] 上田 予選1位:3勝0敗
 上田 3-0 IMANALIEVA (KGZ キルギス)
 上田 3-0 FALAH (IRI イラン)
 上田 3-0 MARINA (KAZ カザフスタン)
 [Bグループ] 佐藤 予選1位:3勝0敗
 佐藤 3-0 AZARSINA (IRI イラン)
 佐藤 3-0 NATALYA (KAZ カザフスタン)
 佐藤 3-0 JUNG (KOR 大韓民国)
 [Cグループ] 有馬 予選2位:2勝1敗

有 馬 3－0 TOKBAEVA (KGZ キルギス)
有 馬 3－0 BAHMANI (IRI イラン)
有 馬 1－3 KIM (KOR 大韓民国)
[Eグループ] 牧山 予選1位：3勝0敗
牧 山 3－0 HABIBIB (IRI イラン)
牧 山 3－0 MADINA (KAZ カザフスタン)
牧 山 3－0 MO (KOR 大韓民国)

・決勝トーナメント

[準々決勝戦 (ベスト8)]

上 田 4－0 MO (大韓民国)
佐 藤 4－0 JUNG (KOR 大韓民国)
有 馬 0－4 LEE (KOR 大韓民国)
牧 山 0－4 KIM (KOR 大韓民国)

[準決勝戦]

上 田 4－1 LEE (KOR 大韓民国)
佐 藤 4－1 KIM (KOR 大韓民国)

[決勝戦]

上 田 4－0 佐藤

⑦大会の競技運営などについての報告 (問題点など)

○試合前日の公式練習の時間が明確ではありませんでした。

朝早く会場へ行きましたが、会場の準備ができておらず、ようやく練習を始められたのは12時半からでした。

また、それぞれの国の練習時間も自由でした。東京での世界卓球選手権同様、前日からそれぞれの国の練習時間、コート番号を指定する方法が望ましいです。

○ドロー (組み合わせ) は、通常であれば世界ランキングポイントでシード権を与えることになっていますが、開催地である大韓民国が第一シードに入るという話になりました。異議を唱えると、他の競技も同様とのことでした。多数決を取り、男女団体戦は大韓民国が第一シードに入ることになりました。さらに個人戦 (ダブルス、シングルス) の抽選に入ると、個人戦も大韓民国が第一シードに入るという説明があり、絶対におかしいと訴えました。再び多数決を取り、結局世界ランキングポイント順でのシード権制度となりました。後に他の競技に尋ねたところ、開催地の大韓民国が第一シードに入る話はないことが判明しました。

特に男子団体では、世界ランキングポイント1位がチャイニーズタイペイ、2位が日本、3位が大韓民国であり、日本は順調に行けば、決勝戦でチャイニーズタイペイとあたるはずでしたが、第一シードが大韓民国だったため、準決勝戦であたるはめになりました。

以上のように結果に直結することから、次回以降競技要項の不備の指摘及びAPDSCへの抗議方法も確認しておきたいものです。

○試合進行については大会実行委員会の頑張りでタイムテーブルどおりにスムーズに進められたことは高く評価したいと思います。

○世界卓球選手権の時には、予選リーグを経て決勝トーナメントを実施するのは団体戦とシングルスのみでしたが、今大会はすべての種目で予選リーグを経て決勝トーナメントという試合方式でした。密なスケジュールでしたが、多くの試合ができるというメリットもあります。

○団体戦の細かいスコアの掲示がなかったことが残念でした。公式ホームページを探しても細かいスコアがアップされていません。

○アジア大会が中止続きの中、12年ぶりに開催した大韓民国

を評価したいと思います。

⑧大会の競技運営などについての報告 (問題点など)

競技ルールは国際卓球ルールに基づいて競技を進めるのが本来ですが、男子ダブルス三位決定戦時、対戦相手であるチャイニーズタイペイ選手のラケットを見ると、ラバーがラケットより小さくなっており、ルール違反でした。スベアラケットと交換してすぐ試合を進めるのが本来ですが、ラバーの貼り替えを行っていました。10分を経過しても帰ってこないと棄権扱いになるはずでしたが、そのまま待機していました。審判長、審判に抗議すると最終的にはTDの判断となり、棄権扱いはいらないという判決になってしまいました。結局、30分以上待たされた上での試合となりました。

その後、別室でTD、実行委員、コーチ、総務4名で話し合いを持ち、国際卓球ルールのことをきっちり説明した結果、ようやくミスと認めました。TDは今年から任務についたばかりということがあるかもしれませんが、TDには基本的な国際ルールを身につけてもらいたいと思いました。また、アジア大会は世界の公認大会であることの自覚が不足していると感じました。(シード制の取り扱いなど。)

第7回 アジア太平洋ろう者競技大会 テニス競技 大会結果報告書

日本ろう者テニス協会
監督 森本 尚樹

①競技の参加国数と人数

参加国6ヶ国

(男子選手12名、女子選手10名)

- ・日本 (男子4名、女子4名)
- ・中華台北 (男子2名、女子4名)
- ・中華人民共和国 (男子1名、女子1名)
- ・東ティモール (男子1名、女子1名)
- ・オーストラリア (男子2名)
- ・大韓民国2名 (男子2名)

②競技スケジュール

5月25日 (金) 羽田空港出発→ホテル到着

5月26日 (土) 午前中練習→午後TD会議

5月27日 (日) 試合

5月28日 (月) 試合

5月29日 (火) OFF

5月30日 (水) 帰国

③成績一覧 (別紙参照)

(成績に対する評価)

試合の結果を見ても分かるように、アジアのトップと日本の実力は迫ってきているように思います。実質スコア以上の内容だった試合も多く見ることができたのは、今までの練習の成果が出ている結果です。

テニスに基本と応用があると仮定すると、今までは基本が多かったです。つなぐレベルが基本的に劣っていた現状があるからです。

しかし、試合で勝つ、接戦をものにする、少し上の実力の持ち主に勝つには基本にプラスして応用が重要になってくること

は間違いありません。

その応用力を鍛えるためには、選手それぞれの意識改革が重要となります。簡単に言えば、「絶対自分が勝てる。最後は自分が勝つ」と信じる心から始まるのです。

今まで合宿で対戦した大学や高校等の学生の実力より上回っていたとは到底思えません。そのレベルに比べれば、絶対に大丈夫な戦いであると自信を持って勝負に挑むことはできたはずです。

まだまだレベルの差を感じる部分はあるものの、100%負けるといふレベルの差ではありませんでした。その感覚を予め選手が持ち合わせた上で戦いに臨んでほしかったのですが、その思いは叶わず、「本当に勝てるとは思っていない。」という考えが多少なりとも選手の心の中にあったことが、今回の接戦を勝ち取れなかった大きな敗因です。

④チーム体制について

(監督) 森本 尚樹

日本出国～帰国引率全体責任

日本代表本部と連携報告、相談、会議

練習と試合の指示 (コーチ同行)

選手達の体調管理、試合結果記録、ビデオ収録

(コーチ) 内藤 公広

監督会議・練習と試合の指示

試合において選手へアドバイス

試合結果記録、報告

(トレーナー) 石水 政之

選手における負傷、メンタルサポート

(マネージャー) 有川 真理子

選手へサポート、事務局業務

試合結果記録、報告、写真撮影

(男子代表主将) 松下 哲也

(女子代表主将) 辻岡 瑞恵

(男子選手) 松下 哲也

高濱 哲郎

芦野 正樹

梶野 耕佑

(女子選手) 辻岡 瑞恵

飯塚 由美子

尾形 滋子

豊田 恵子

⑤大会の競技運営などについての報告

- 1) 競技期間の正式決定が遅すぎました。開催1ヶ月前になってテニス競技の開催日程が早まったり、4日間の試合日程が2日間に急遽変更となるなど、出場選手の事前コンディションに影響が出てしまいました。大会実行委員会の判断について、国際大会であることの自覚が足りないと思います。また、チームの移動が大変であったため、開会式当日に練習とTD会議を組みこむことは避けてほしかったです。
- 2) 各会場での水や水の用意、ドクターの待機などの情報だけでもあれば助かります。デフリンピック同様、事前に下見をする際にいろいろ調べ、情報を得ることが、選手やスタッフのストレス負担減になると思います。

⑥競技規則についての報告

テニス競技日程で当初の予定であった4日間から2日間に変

更になり、一日目はシングルスを実施しました。

男女ダブルス、混合ダブルスと選手ひとりにつき最低4試合も組み込まれ、体力的にも厳しかったです。試合の間の休憩も20分しか取れず、選手にとっては過酷でした。

結局、試合終了時間が19時以降で、翌朝も早くホテルを出なければならず、全員十分な睡眠を取れませんでした。

また、トップレフリーがその日の朝に決定した試合のオーダープレイ表を急遽変更し、試合進行に混乱を招きました。

審判団が、試合期間中は晴天続きだろうと安易に考えてしまったせいか、突然の雨天時による屋内コート設備変更の対応が遅すぎました。

⑦反省・まとめ

韓国へ先に入国し、大会本部や試合会場の視察、ホテルから試合会場へのアクセスについて事前把握ができたため、時間通りに選手を送り出せたことは良かったです。

競技日程の2日間は過酷なスケジュールであり、また韓国審判団が試合のオーダープレイを順守していなかったため、出場選手は体調コントロールを維持することが難しく、体力的に厳しかったです。

そんな状況の中で、熱戦を繰り広げ、非常に頑張ってくれました。その結果、金メダル1、銀メダル1、銅メダル3を獲得することができ、選手達から感動をもらいました。

また、来年開催されるブルガリアのデフリンピックでもアジアパシフィック競技大会の成果を活かし、複数のメダル獲得できるよう、今後も選手育成、強化をしてまいります。

これまでご支援をいただいた関係者の皆様に感謝を申し上げますとともに応援を今後ともよろしくお願い申し上げます。

【本部スタッフ】

①今後の派遣で改善が必要な点について (今回の課題点)・反省とまとめ

(コーチ) 内藤 公広

成績評価より、いかに接戦で勝利を取るのかという部分と、自分よりもレベルの高い選手から勝利を得るにはどうすればいいのかという部分を徹底して指導する必要があると考えました。

女子のシングル3つ・男子のシングル1つは、獲得できる可能性がありました。

男子のダブルス1つ・女子ダブルス1つ、ミックスでいえば、1つは獲得できるレベルでした。

次回大会では、個々で勝利に向けての様々な考えを持った上でプレーし、勝てる可能性が少しでもあるのあれば、必死で勝ち取るような選手になるために練習を組んでいきたいと思います。

(トレーナー) 石水 政之

当初は5日間程の試合期間でしたが、主催者の都合で2日間の試合期間となり、シングル・ダブルス・ミックスダブルスの3種目を2日間で行うという過密なスケジュールとなりました。わずか2日間の中で全種目を消化する過密なスケジュールであり、ケガや痙攣を心配しながら、行いました。

その中、一人の女子選手が、長時間試合の中、痙攣を起こしてしまい、棄権したことは残念でした。幸い、中島先生が駆けつけて下さり、対策・指示を仰ぎました。次の試合も抱えていたため、すぐケアをし、軽度の痙攣で済んだことは幸いでした。

トレーナー同士のMLは良い方法であるが、渡航3日前に知り、海外での通信状況が私の携帯はあまり思わしくなく、なかなか通信できなかったのは残念でしたが、出発する前の日本滞

在時に、先に現地入りした監督からの情報は、役に立ちました。
しかし各会場の状況は現地入りをしないと分からないことが多く、これは今後の課題であります。
(マネージャー) 有川 真理子

大会期間の5日間、選手一人ひとりの体調管理や会計管理、大会進行による情報も兼ねて現地報告をしました。選手が重圧に押しつぶされることなく戦える環境に対し精細なフォロー、万全の体制作りを整えるためには、マネージャーとしての役割が重要だと改めて思いました。戦術面、体力面、精神面においてベストパフォーマンスが出せた選手と、緊張感で本領発揮できなかった選手もいたことと察します。

2日間で試合をこなすことは過酷であり、体力が消耗して気力と精神力のみにて戦わざるを得なかったスケジュールでした。

余裕の持てるタイムスケジュールの改革を求めます。審判に関しては厳格な審判員もいれば適当に済ませてしまう甘い審判員もあり、混乱した場面もありましたが、運営実行委員の的確な判断により無事に対応することができました。

今回のアジア大会では、今回の教訓を生かして更により大会を開催できると期待しています。

第7回 アジア太平洋ろう者競技大会 バレー競技（女子）大会結果報告書 (デフリンピックアジア太平洋地区予選含む)

一般社団法人日本デフバレーボール協会
副理事長・強化部長・女子GM 大川 裕二

①競技の参加国数と人数

参加国3ヶ国 選手数36人 役員数40人 合計76人
日本・イラン・ウズベキスタン

②日本からの派遣

参加人数 18名（選手 12名 スタッフ 6名）

【スタッフ】

監督：狩野美雪 コーチ兼任GM：大川裕二
トレーナー：高橋小夜利 手話通訳：飯塚佳代
マネージャー：大川愛子 アナリスト：森内康博

【選手】

柳川奈美子、菅谷美穂、安積梨絵、西内瑛里、高良美樹、工門千紘、河尻奈美、安積千夏、宇賀耶早紀、畠奈々子、長澤みゆき、島尻真鈴

③競技スケジュールと結果

月日	対戦国	winner	スコア	1 set	2 set	3 set
5月29日	イラン対ウズベキスタン	ウズベキスタン	3-0	25-10	25-10	25-6
5月30日	イラン対日本	日本	3-0	25-10	25-10	25-6
5月31日	日本対ウズベキスタン	日本	3-0	25-17	25-16	25-19

成績	国名	勝敗
優勝	日本	2勝0敗
2位	ウズベキスタン	1勝1敗
3位	イラン	0勝2敗

④選手選考の経過と大会対策

平成21年8月から、延べ46名の候補選手を集め、強化合宿13回、強化試合（公式戦）2回、海外遠征1回を実施してきました。チームは世代交代時期にあり、候補選手の年齢は、16～22歳までが80%を占め、デフリンピック経験者は4名

です。今回は、候補選手の中から、大会優勝＝デフリンピックの出場権を獲得できる選手12名を強化合宿で選考しました。

チームは2013年デフリンピックを最終目標とし、2012年8月（ブルガリア）世界選手権で戦法の確立を目指しています。今大会は、その過程であるが、最終目標となるデフリンピックの出場を獲得する予選を兼ねていることから、新しいメンバーでスピードのあるバックアタックを絡めたコンビバレーという新戦術で完全優勝することです。

⑤現地でコンディション

メンバーの職場での休暇取得の問題や学生選手の試験が重なり大会の2日前に成田出発（関東在住）、関西空港（関西在住）の2組に分かれて現地入りしました。トレーナーが、朝晩の体重チェックと問診を行い、記録し体調管理を行いました。超音波マッサージ器具を日本から持ち込み選手の身体ケアに努めました。毎日の昼、夕食は18名分の確保について、衛生・栄養面等を考慮して確保したが、辛い料理が苦手なメンバーもいたため、特に海外での試合には事前に現地をリサーチする必要があります。

⑥試合経過と戦評

試合方法は、3チームによる総当たりとなりました。1日目は試合がなく、イランとウズベキスタン戦を観戦して相手チームの分析を行いました。2日目はイランと戦いました。イランは国際大会に初参戦で、実力的に見劣りする相手です。しかし日本チームは集中力が散漫で、動きも硬く、本来のコンビバレーができませんでした。結果的にはワンサイドゲームであったが、スパイク決定率が40%程度では、強豪相手と戦えません。3日目は1勝同士のウズベキスタンと優勝決定戦となりました。イラン戦で見られた硬さが抜けませんでした。ストレートで勝利したが、勝負どころでスパイクを決められず、ラリーが続くとフェイントを決められて、突き放すことができませんでした。

⑦競技の総評と反省

狩野監督が就任して8ヶ月目、5回の合宿を経て臨んだ国際大会。自ら考えるバレー、自立したバレーを目指しています。監督交代に伴い戦術や守備フォーメーションを見直したが、十分に選手に浸透していない部分が見受けられました。

チームの全体の課題としては、スパイク決定率を20%以上アップすることです。強打でコートに叩きつけるスパイクでも、ハーフスイングでブロックアウトやフェイントを入れても、同じ1点です。低身長の日本のスパイカーが高いブロックに真正面からぶつかっていくのは、スパイクスキルと状況判断力が備わっていないといえることができます。国内大会では当たり前のようにつながるスパイクが国際大会では決まらない場面が多く、スタッフのアドバイスを理解し、相手を分析して、自らのプレーを調整する能力が必要です。

⑧今後に向けた取り組み

対戦相手や状況に応じて、どんな攻撃方法を選択するか、ベンチから与えた指示や情報を基に瞬時に判断できるよう各々の能力を高めていく必要があります。

日本チームはサーブレシーブ、ディグの成功率を70%以上維持できるため、スパイク決定率を50%に高めることで、ブレイクを確実に取り、ゲームを有利に展開できるようにしていきます。

資料

International Committee of Sports for the Deaf
Recognized by the International Olympic Committee

528 Trail Avenue
Frederick, Maryland 21701
UNITED STATES
Fax: +1 301 520 2990
Email: controls@icss.org

OFFICIAL AUDIOGRAM DATA SHEET

Founded in 1924

PLEASE PRINT OR USE TYPEWRITER and send to your National Deaf Sports Federation for review

***Required Fields**

Name: Family Name (Last Name) Given Name (First Name) Other Names (Middle Name)

***Nation:**

***Date of Birth:** (day / month / year)

***Gender:** ☐ Male ☐ Female

***Sport:** ☐ Regional Championships ☐ World Championships ☐ Deaflympics

***Which event?**

Audiometer: ☐ ANSI 1969 ☐ ISO 1964 ☐ Other: _____

Examiner Name: _____

Date of Examination: (day / month / year)

AIR CONDUCTION & BONE CONDUCTION

FREQUENCY in hertz (Hz)

125 250 500 1000 2000 4000 8000

HEARING THRESHOLD LEVEL in decibels (dB)

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 110 120

"IMPEDANCE TYMPANOMETRY"

Ear Canal Peak Vol. Comp. Gradient Peak

RIGHT

LEFT

"REFLEXOMETRY"

Side Equals Probe Ear

RIGHT Stim 500 1000 2000 4000

Ipsi

Contra

LEFT Stim 500 1000 2000 4000

Ipsi

Contra

PURE TONE AVERAGE
(500-1000-2000 Hz)

Ear Air Bone

RIGHT

LEFT

KEY TO SYMBOLS

Ear	Air	Air-masked	Bone	Bone-masked
RIGHT (red)	O	△	+	!
LEFT (blue)	X	□	×	!
		No Response	NR	

TYPE OF HEARING LOSS
(Check one for each ear with an "X")

Ear	Sensori-neural	Conductive	Mixed	Cochlear Implant
RIGHT				
LEFT				

ICSD HOME OFFICE USE ONLY

ID: _____

Data Entered By: _____

ICSD Audiologist: _____

COMMENTS: (In English)

Audiogram Form
Revised 6/2017

www.deaflympics.com/forms/audiogram.pdf

*** This field is required and audiogram form must be completed three (3) months before the event.**

Notes for the audiologist:

Thank you for using the ICSD audiogram form. Our athletes need to complete this form fully to receive an Identification number to participate in upcoming Championship or Deaflympics events.

In compliance with ICSD audiogram regulations, here is a guideline for you to complete the ICSD audiogram form, as listed below:

- Official ICSD Audiogram form must be used. The form can be downloaded from www.deaflympics.com/forms/audiogram.pdf
- All four (4) types of audiogram testing below must be filled out entirely for **EACH** ear including:
 - Air Conduction** - Please test on 500, 1000, and 2000Hz.
 - Bone Conduction** - Please test on 500, 1000, and 2000Hz.
 - Tympanograms (Tympanometry)** - Please write numbers
 - Acoustic Reflexes (Reflexometry)** - Please write numbers or NR if there are no responses. Do not use dash mark (-) or zero (0).
- Below yellow box with numbers indicates required fields for you to enter:

- Audiometer** - Identify the name of the audiometer.
- Examiner Name** - Name of the audiologist who performs the test.
- Calibration** - Indicate the name of the calibration used.
- Date of Examination** - Enter examination date.
- Air Conduction** - Record air testing results. See 2.1 above. If there are no responses in Air Conduction, please write NR as noted in "Key to Symbols".
- Bone Conduction** - Record bone testing results. See 2.2 above. If there are no responses in Bone Conduction, please write NR as noted in "Key to Symbols".
- Tympanometry** - Record Tympanometry test results. See 2.3 above.
- Reflexometry** - Record Reflexometry test results. See 2.4 above.
- Pure Tone Average** - Add 500, 1000, 2000Hz and divided by three (3) for both air and bone testing results.
- Type of Hearing Loss** - Identify the type of hearing loss by placing "X" accordingly as shown on the form for respective ear.
- Comments** - Please write comments as needed about this athlete. If there are no Tympanogram or reflex equipments to test, please write comments in English.
- This is for ICSD official uses only, do not write.

AUDIOGRAM

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

Failure to observe the requirements will result in delayed approval.

Thank you in advance for your cooperation,
ICSD Staff

As of: May 2011

聴覚検査士のみなさまへ：

ICSDのオーディオグラム用紙をご利用ください、ありがとうございます。われわれの選手は、選手権大会、デフリンピック等の大会に出場するため、この書類を完全に記入し、ID番号を得る必要があります。

以下は、ICSDオーディオグラム規則に則った、ICSDオーディオグラム用紙の記入ガイドラインです。

- ICSD公式オーディオグラム用紙の記入が必須です。用紙は以下のサイトからダウンロードできます。
www.deaflympics.com/forms/audiogram.pdf
- 以下の4種類のオーディオグラム検査は、**両耳**について、完全に記載しなければなりません。
 - 気導** - 500、1000、および2000Hzの検査を行ってください。
 - 骨導** - 500、1000、および2000Hzの検査を行ってください。
 - ティンパノグラム** (ティンパノメトリー) - 数を記載してください。
 - 耳小骨筋反射** (アブミ骨筋反射) - 数、もしくは、反応がない場合はNRと記載してください。ダッシュ (-) もしくはゼロ(0)を使って記入しないでください。
- 以下の黄色い四角で囲んだ番号は、必須記載項目です。

- オーディオメーター** - オーディオメーターの名称を明記してください。
- 検査者氏名** - 検査を行った、聴覚検査士の名前を記入してください。
- キャリブレーション** - 使用したキャリブレーションの名称を明記してください。
- 検査日** - 検査を行った日を記入してください。
- 気導** - 気導検査の結果を記録してください。上記2.1を参照のこと。気導検査の応答がない場合、「記号凡例 (Key to Symbols)」に従って、NRと記入してください。
- 骨導** - 骨導検査の結果を記録してください。上記2.2を参照のこと。骨導検査の応答がない場合、「記号凡例」に従って、NRと記入してください。
- ティンパノメトリー** - ティンパノメトリーの検査結果を記録してください。上記2.3を参照のこと。
- 耳小骨筋反射** - 耳小骨筋反射の検査結果を記録してください。上記2.4を参照のこと。
- 標準純音** - 500、1000、2000Hzの項目を追加し、気導と骨導両方の検査結果を、それぞれ記入してください。
- 失聴のタイプ** - 失聴の種類を確認し、それぞれの耳について、該当する欄に「X」を記入してください。
- コメント** - 必要に応じて、当該選手についてコメントを記入してください。ティンパノグラム、もしくは耳小骨筋反射の検査器具がない場合、コメントを英語で記載してください。
- この欄は記入しないでください。ICSD事務局のみが使用します。

International Committee of Sports for the Deaf
Recognized by the International Olympic Committee

528 Trail Avenue
Frederick, Maryland 21701
UNITED STATES
Fax: +1 301 520 2990
Email: info@icss.org

OFFICIAL AUDIOGRAM DATA SHEET

Founded in 1924

PLEASE PRINT OR USE TYPEWRITER and send to your National Deaf Sports Federation for review

Name: Family Name (Last Name) Given Name (First Name) Other Names (Middle Name)

Nation: JAPAN

Date of Birth: 28 / 2 / 1976

Sport: Lacrosse

Gender: Male

Audiometer: RION AA-76

Examiner Name: Kenane YUZA

Calibration: ANSI 1969 ISO 1964 JSD 397-7 (1996)

Date of Examination: 7 / 5 / 2009

AIR CONDUCTION & BONE CONDUCTION

FREQUENCY in hertz (Hz)

125 250 500 1000 2000 4000 8000

HEARING THRESHOLD LEVEL in decibels (dB)

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100 110 120

"IMPEDANCE TYMPANOMETRY"

Ear Canal Peak Vol. Comp. Gradient Peak

RIGHT 2.15 1.02 0.62 54

LEFT 2.6 1.35 0.35 54

"REFLEXOMETRY"

Side Equals Probe Ear

RIGHT Stim 500 1000 2000 4000

Ipsi 100 100 100 95

Contra 100 100 100 100

LEFT Stim 500 1000 2000 4000

Ipsi 100 100 100 95

Contra 100 100 100 100

PURE TONE AVERAGE
(500-1000-2000 Hz)

Ear Air Bone

RIGHT 10.6 25.8 70.8

LEFT 11.2 5.8 70.8

KEY TO SYMBOLS

Ear	Air	Air-masked	Bone	Bone-masked
RIGHT (red)	O	△	+	!
LEFT (blue)	X	□	×	!
		No Response	NR	

TYPE OF HEARING LOSS
(Check one for each ear with an "X")

Ear	Sensori-neural	Conductive	Mixed	Cochlear Implant
RIGHT	X			
LEFT	X			

ICSD HOME OFFICE USE ONLY

ID: _____

Data Entered By: _____

ICSD Audiologist: _____

COMMENTS: (In English)

Constitutional profound bilateral sensori-neural hearing loss. URA ENT CLINIC 2-6-1 Furukawa, Nakai City, Chiba Pref. Masaharu URA M.D.

Tel 098-871-9276
Fax 098-885-0411

必須事項の確認もれば、承認の遅れという結果を招きます。

ご協力ありがとうございます。
ICSDスタッフ

2011年5月現在

第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会
参加競技団体各位
参加選手各位

(財) 全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会委員長 山根昭治

第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会参加に伴う 基本健康調査用紙および診断書の提出について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会に出場する選手は、最寄りのクリニックや病院にて基本健康調査用紙および診断書の作成をお願いいたします。誠に申し訳ございませんが、今回、作成するにあたって、費用は自己負担となりますことをご承くださいますようお願いいたします。また、記載漏れは一切認められません。この資料は、現地において選手の安全、健康管理上重要な書類であることをご理解ください。
なお、帯同医師による内容チェックの結果、担当の医師より指導が入る場合がありますことをご承知頂きますようお願いいたします。

- 提出書類
 - 様式 1 基本健康調査用紙 (本人が記入) ※ 選手対象
 - 様式 2 医師診断書 1・2 (医師が記入) ※ 選手対象
様式 1 を用いて診断を受け、医師が記入したものを提出してください。
様式 1 の記載漏れは認められません。
 - 様式 3 コミュニケーション状況調査用紙 ※ 選手対象
- 提出方法
上記すべてを各競技チームがとりまとめ、下記に提出下さい。
- 提出先

財団法人全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会事務局
〒162-0801
東京都新宿区山吹町130 SKビル8F
財団法人全日本ろうあ連盟本部事務所内
TEL 03-3268-8847 FAX 03-3267-3445
E-mail: jdf-sc@jfd.or.jp
担当: 内藤・加茂下

- 提出期限 2012 年 4 月 6 日 (金) 朝 9 時必着

以 上

第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会
参加役員・スタッフ各位

(財) 全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会委員長 山根昭治

第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会参加に伴う 基本健康調査用紙および診断書の提出について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会に出場する役員・スタッフは、最寄りのクリニックや病院にて健康診断書の作成をお願いいたします。誠に申し訳ございませんが、今回、作成するにあたっての費用は自己負担となりますことをご承くださいますようお願いいたします。この資料は現地において選手団の安全、健康管理上重要な書類であることをご理解ください。
なお、帯同医師の内容チェックの結果、医師より指導が入る場合がありますことをご承知頂きますようお願いいたします。

- 提出書類
 - 健康診断書
2011 年 9 月 1 日以降に受けた健康診断書 (職場等で実施したもの可) のコピーを提出してください。9 月 1 日以降に健康診断を受けていない場合は、新たに保健所などで健康診断を受けてください。
診断項目は通常受けている物で問題ありません。(決まった様式はありません)
- 提出方法
上記 1) を各競技チームがとりまとめ、下記に提出下さい。
- 提出先

財団法人全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会事務局
〒162-0801
東京都新宿区山吹町130 SKビル8F
財団法人全日本ろうあ連盟本部事務所内
TEL 03-3268-8847 FAX 03-3267-3445
E-mail: jdf-sc@jfd.or.jp
担当: 内藤・加茂下

- 提出期限 2012 年 4 月 6 日 (金) 朝 9 時必着

以 上

【様式 1-1】 選手記入

(2009/10/4)

基本健康調査用紙

選手の皆様をお願いします。
皆様の健康を守るための調査用紙なので、できる限り正確に記載して下さい。
医師の診察を受ける前に、Q1～Q11までの質問にお答え下さい。わからない場合は診察の時に、医師が問い合わせますので、記入しなくて結構です。

医師にお願い致します。
選手が記入するこの表紙より Q1～Q11までの回答状況をチェックし、必要があれば詳しく聞いて記載して下さい。

選手氏名: _____ 性別: 男・女
生年月日: 昭和・平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 年齢: _____ 歳
所 属: _____ 学年: _____ 年生
住 所: _____
電 話: _____ () _____ Fax: _____ () _____
E-mail: _____
競技名: _____ 競技歴: _____ 年
クラス分け: _____ 種目 (階級・ポジション): _____
障害名: 《該当する障害名に○をつけて下さい。また具体的な手帳の障害内容がわかれば () 内に記載して下さい》
① 肢体不自由 ()
② 視覚障害 ()
③ 聴覚障害 ()
④ 知的障害 ()
⑤ 内部障害 (心臓, じん臓, 呼吸器, ぼうこう・直腸, 小腸, 免疫機能障害)
障害の原因となった傷病名: _____
障害の原因となった傷病の発病 (受傷) 日: _____ 年 _____ 月 _____ 日
障害の原因となった傷病の発病 (受傷) 時年齢: _____ 歳
障害の原因となった傷病に関する手術歴: (有、無)
有の場合 → _____ 歳: [手術名…]
_____ 歳: [手術名…]
_____ 歳: [手術名…]

* 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会作成の団体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改造して使用しております。

【様式1-2】
選手記入

Q1. 障害の原因となった傷病以外のこれまでの主な病気・ケガについての質問

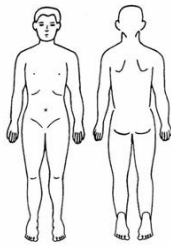
Q1-1：これまでに以下の病気をしたことがありますか。

“ない”場合には()内に×印、“ある”場合には()内に○印を付け、そのケガをした時の年齢を____部に記入、身体図にケガの場所に○を付けて下さい。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1) 貧血 () ____歳 | 2) 喘息 () ____歳 |
| 3) 高血圧 () ____歳 | 4) 心臓病 () ____歳 |
| 5) 川崎病 () ____歳 | 6) 腎 炎 () ____歳 |
| 7) 肝炎 () ____歳 | 8) 胃十二指腸潰瘍 () ____歳 |
| 9) てんかん () ____歳 | |
| 10) その他 () ____歳 | [病名_____] |
| その他 () ____歳 | [病名_____] |
| 11) 手 術 () ____歳 | [病名_____] |
| () ____歳 | [病名_____] |
| () ____歳 | [病名_____] |
| () ____歳 | [病名_____] |
| 12) 輸 血 () ____歳 | [病名_____] |
| 13) 薬物アレルギー | [薬物名_____] |
| | [薬物名_____] |
| 14) 食物アレルギー | [食品名_____] |
| | [食品名_____] |

Q1-2：これまでに2週間以上競技や練習の
支障となる“ケガ”をしたことがありますか。
ない・ある (____歳)

“ある”場合には、右の身体図にケガの場所に
○を付けて下さい。



Q1-3：これまでに練習中や試合中に意識を
失ったことがありますか。
ない・ある (____歳)

* 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改変して使用しております。

【様式1-3】
選手記入

Q2. 現在の病気やケガについての質問

Q2-1：現在、治療していたり、検査を受けている病気やケガ、障害がありますか。

ない・ある [病名・障害名_____]
[病名・障害名_____]
[病名・障害名_____]

Q2-2：普段使用している薬がありますか。

ない
ある：＜①常用（毎日使用）、②頓用（時々使用）、③常用＋頓用＞
※ “ある”場合は、『様式1 8. 使用薬物についての調査書』に記載して下さい

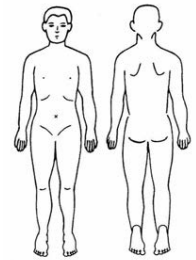
Q2-3：普段使用している健康食品、栄養剤、ビタミン剤、滋養強壮剤（ドリンク剤）
などがありますか。

ない
ある（“ある”の場合は、下記に記入して下さい）

品 名	メーカー名	使用頻度	使用量/日
_____	_____	(毎日・時々)	_____
_____	_____	(毎日・時々)	_____
_____	_____	(毎日・時々)	_____

Q2-4：現在、競技や練習の支障となる“ケガ”をしていますか。

ない・ある
※（“ある”の場合は、右の身体図にケガの場所が
わかるように○で印を付けて下さい。また
具体的なケガの内容がわかれば病名の記載も
お願いします）



* 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改変して使用しております。

【様式1-4】
選手記入

Q3：自覚症状についての質問

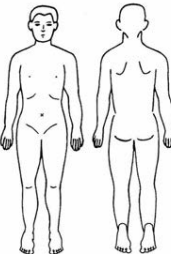
()内に“ない”場合には×印、“ある”場合には○印、わからない場合には？印を付けて下さい。

1. 全般

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1) 記憶が低下してきた () | 2) 練習についていけない () |
| 3) 練習がこなせない () | 4) 案にできた練習がきつくなった () |
| 5) 練習意欲がわかない () | 6) 疲れやすい () |
| 7) 疲労がたまっている () | 8) 体がだるい () |
| 9) 力が入らない () | 10) たちくらみがひどい () |
| 11) 風邪をひきやすい () | 12) 体重の変動が大きい () |
| 13) 体重が減少している () | 14) 体重が増加している () |
| 15) 寝付きがわるい () | 16) 熟睡できない () |
| 17) 早く目が覚める () | 18) 朝起きるのがつらい () |

2. 皮膚 (右の身体図に問題のある場所に○印を付けて下さい)

- | |
|-----------------|
| 1) 褥創 () |
| 2) アトピー性皮膚炎 () |
| 3) みずむし () |
| 4) じんましん () |
| 5) その他 () |



3. 頭部

- | |
|------------|
| 1) 外傷 () |
| 2) 頭痛 () |
| 3) その他 () |

4. 眼

- | | | |
|-------------|-----------------|-------------|
| 1) 近視 () | 2) 乱視 () | 3) 視野異常 () |
| 4) 眼鏡 () | 5) コンタクトレンズ () | 6) 痛み () |
| 7) かゆみ () | 8) めやに () | 9) 異物感 () |
| 10) かすみ () | | |
| 11) その他 | 内容：_____ | |

* 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改変して使用しております。

【様式1-5】
選手記入

5. 耳

- | | | |
|------------|-------------|------------|
| 1) 痛み () | 2) 耳だれ () | 3) 耳鳴り () |
| 4) めまい () | 5) 聴力障害 () | () |
| 6) その他 () | 内容：_____ | |

6. 鼻

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| 1) 鼻水 () | 2) 鼻づまり () | 3) 鼻血 () |
| 4) その他 () | 内容：_____ | |

7. のど

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| 1) へんとう腺炎 () | 2) のどの痛み () | 3) しわがれ声 () |
| 4) その他 () | 内容：_____ | |

8. 口腔

- | | | |
|------------|-----------|---------------|
| 1) 虫歯 () | 2) 歯痛 () | 3) 歯ぐきの出血 () |
| 4) その他 () | 内容：_____ | |

9. 頸部

- | | | |
|--------------|---------------|------------|
| 1) リンパ節炎 () | 2) 甲状腺の腫れ () | 3) その他 () |
| 4) その他 () | 内容：_____ | |

10. 呼吸器

- | | | |
|---------------|------------|-------------|
| 1) せき () | 2) たん () | 3) ぜんそく () |
| 4) 呼吸困難 () | 5) 息切れ () | 6) 喀血 () |
| 7) 過換気症候群 () | | |
| 8) その他 | 内容：_____ | |

11. 循環器

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1) どうき () | 2) 胸痛 () | 3) むくみ () |
| 4) 心雑音 () | 5) 不整脈 () | 6) 高血圧 () |
| 7) その他 | 内容：_____ | |

* 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改変して使用しております。

【様式1-6】
選手記入

12. 血管系

- 1) 静脈瘤 () 2) 静脈炎 () 3) 血行障害 ()
4) その他 内容: _____

13. 消化器系

- 1) 吐き気 () 2) 嘔吐 () 3) 胸やけ ()
4) 消化不良 () 5) 食欲不振 () 6) 下痢 ()
7) 便秘 () 8) 腹痛 () 9) 黄だん ()
10) 痔 ()
11) その他 内容: _____

14. 泌尿器

- 1) 頻尿 () 2) 排尿痛 () 3) 血尿 ()
4) 尿が濁りやすい () 5) 結石 () 6) 蛋白尿 ()
7) 糖尿 ()
8) その他 内容: _____

15. 血液

- 1) 貧血 () 2) 出血傾向 ()
3) その他 内容: _____

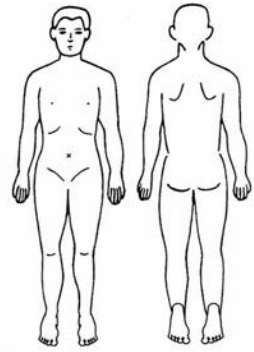
16. 神経系

- 1) けいれん () 2) てんかん () 3) めまい ()
4) 知覚障害 () 5) 失神 () 6) 意識障害 ()
7) 運動障害 () 8) 記憶障害 ()
9) その他 内容: _____

* 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改造して使用しております。

【様式1-7】
選手記入

17. 運動器 (右の身体図に問題のある場所に○印を付け、対応する問題と線で結んで下さい)



- 1) 痙性 ()
2) 不随運動 ()
3) 拘縮・変形 ()
4) 切断 ()
5) 筋肉痛 ()
6) 関節痛 ()
7) 骨折 ()
8) 脱臼 ()
9) 捻挫 ()
10) 肉離れ ()
11) その他 ()

Q4. 現在のコンディションについての質問

Q4-1: 以下、いずれかに○印を付けて下さい。

練習意欲 : 1=旺盛 2=普通 3=なし 4=全くなし

睡眠 : 1=良好 2=普通 3=不良

食欲 : 1=旺盛 2=普通 3=低下

便通 : 1=良い 2=便秘 (1回/日) 3=下痢 (回/1日)

全般的体調 : 1=極めて良い 2=良い 3=普通 4=悪い 5=最悪

選手のメモ: コンディションが悪い場合には、最近のトレーニング量が非常に多い、
風邪をひいているなど思い当たる理由を記して下さい

* 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改造して使用しております。

【様式1-8】
選手記入

Q5. 家族の病気にに関する質問

Q5-1: 両親兄弟・姉妹に、以下のような病気がありますか、一つ一つチェックして下さい。

□内に“ない”場合には×印、“ある”場合には○印と〔 〕内に誰であるかを記入して下さい。

- 1) 高血圧□ [] 2) 心臓病□ [] 3) 脳卒中□ []
4) 糖尿病□ [] 5) 痛風□ [] 6) 結核□ []
7) 肝炎□ []
8) その他□ 病名: _____

Q5-2: 両親兄弟・姉妹が以下のような病気で死亡していますか、一つ一つチェックして下さい。

□内に“ない”場合には×印、“ある”場合には○印と〔 〕内に誰が何歳の時に死亡されたのかを記入して下さい。

- 1) 突然死□ []、歳 2) 高血圧□ []、歳
3) 心臓病□ []、歳 4) 脳卒中□ []、歳
5) 糖尿病□ []、歳 6) 痛風□ []、歳
7) 結核□ []、歳 8) 肝炎□ []、歳
9) その他□ []、歳 内容: _____

備考: 突然死とは、原因不明に急に(たとえば24時間以内)死亡すること。

痛風とは、血液中の尿酸値が高く、足の親指などの全身の関節が痛くなる病気で。

Q6. 体重減量についての質問

Q6-1: 競技に際して体重減量はありますか:

1=なし 2=あり 減量前体重_____kg、目標体重_____kg

Q6-2: 上の質問で“あり”の場合

スムーズに減量できますか: 1=はい 2=いいえ

選手のメモ: サウナ、食事量を極端に減らすなど、その具体的減量方法を記入して下さい

* 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改造して使用しております。

【様式1-9】
選手記入

Q7. 女性の選手におたずねします

Q7-1: 初潮はありましたか:

1=なし 2=あり _____歳_____ヶ月、あるいは小学校_____年生_____月ごろ
中学校_____年生_____月ごろ
高校_____年生_____月ごろ

Q7-2: 最終月経はいつでしたか:

1. 平成_____年_____月_____日ごろ
2. 既に閉経 (_____歳頃)

Q7-3: 以下のいずれかに○印をして下さい(閉経されている方以外)

月経周期は: 1=規則的 2=不規則 3=無月経 (_____年 _____月以来なし)

月経出血量は: 1=多い 2=普通 3=少ない

月経の痛みは: 1=ほとんどない 2=痛みはあるが、日常生活に支障なし

3=日常生活に支障あるが、薬は使用しない

4=日常生活に著しく支障あり、薬を使用する

(薬剤名: _____)

5=寝込む

Dr. メモ: どのように処置しているか、具体的に記入してください

* 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会作成の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改造して使用しております。

【様式1-10】
選手記入

Q8. 心理面について（競技活動では、こころとからだが連動して実力を発揮します）

Q8-1：競技の場面で心理的問題（課題）を感じたことがありますか。

1：ない 2：ある

Q8-2：“ある”場合に○をつけた方は、下記の事項にお答え下さい。

1. 「その時に専門家が身近にいましたか？」 → 「いた」「いない」
2. 「その時に専門家に相談しましたか？」 → 「した」「しない」

Q8-3：“ある”場合はどのような内容であるかを具体的に答えて下さい。また、その時にどのように解決したのかも書いて下さい。

※例えば、競技場面であがってしまい本来の実力がだせなかった など

Q8-4：最近（この半年間）の生活で、「そうだな」と思い当たる項目の番号に○印をして下さい。

1. 落ち着かない
2. 集中できない
3. ゆううつだ
4. イライラする
5. やる気がでない
6. 何に対しても興味がもてない

＊ 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改良して使用しております。

【様式1-11】
選手記入

Q8-5：最近（この半年間）の生活で、「そうだな」と思い当たる項目の番号に○印をして下さい。

1. 眠れない
2. 食欲がない
3. 頭が痛い
4. 肩がこる
5. 疲れがとれない
6. からだがだるい
7. めまいがする
8. おなかが張る

Q8-6：これまで競技を継続していた中で、専門家による心理サポートや相談が必要と感じたことがありますか。

1：ない 2：ある

Q8-7：“ある”場合はどのようなサポートが必要であったかを具体的にお答え下さい。

※例えば、①競技力向上につながるメンタルトレーニングの指導

②競技と仕事や学業の両立の事で問題を感じ、他の人にアドバイスを
して欲しかった事など

＊ 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改良して使用しております。

【様式1-12】
選手記入

Q9. 練習頻度について

Q9-1：過去6ヶ月間の平均練習頻度についてお答え下さい。

1：週3回以上 2：週1～2回程度 3：月1～2回程度 4：月1回未満

Q10. 移動能力について

Q10-1：現在の移動能力についてお答え下さい。

- 1：屋外歩行自立
 - 1a：歩行補助具（杖、装具、義足など）の使用なし
 - 1b：歩行補助具（杖、装具、義足など）を使用
- 2：屋内歩行自立
 - 2a：歩行補助具（杖、装具、義足など）の使用なし
 - 2b：歩行補助具（杖、装具、義足など）を使用
- 3：介助歩行
 - 3a：屋外介助歩行
 - 3b：屋内介助歩行
- 4：車いす使用
 - 4a：普通型車いす駆動自立
 - 4b：車椅子移動介助
 - 4c：電動車いす
- 5：その他（ ）

Q11. 排尿方法について

Q11-1：現在の排尿方法についてお答え下さい。

- 1：自排尿可能
 - 1a：排尿障害なく、正常排尿
 - 1b：自排尿可能であるが、一部症状あり薬物使用中
- 2：排尿障害あり、何らかの補助的排尿方法を用いている
 - 2a：収尿器使用
 - 2b：カテーテル使用
 - 2b-1：留置カテーテル（膀胱瘻も含め）
 - 2b-2：自己導尿
 - 2c：集尿器、自己導尿の組み合わせ
 - 2d：その他（内容： ）

＊ 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改良して使用しております。

【様式1-13】
選手記入

Q12. 排便方法について

Q12-1：現在の排便方法についてお答え下さい。

- 1：自己排便可能
 - 1a：障害なし。
 - 1b：自己排便可能であるが、内服薬物使用
 - 1c：自己排便可能であるが、座薬使用
 - 1d：特殊な器具などが必要
(必要なもの：)
 - 1d：特殊な設備や便器などが必要
(必要なもの：)
- 2：排便障害があり、何らかの介助が必要
 - 2a：介助者は誰でも良い。
 - 2b：規定の介助者が必要
 - 2c：医療関係者の介助が必要
 - 2d：その他（ ）

＊ 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改良して使用しております。

このページは医師が記入します

氏名：； 生年月日：昭・平 年 月 日

診断書（1）

<現症>

身長：_____cm 体重：_____Kg 体温：_____℃ 脈拍：_____拍／分

血圧：_____／_____mmHg

理学的所見（必要に応じて右の身体図を利用して下さい）

異常所見の有無 異常所見の内容

顔面 なし あり_____

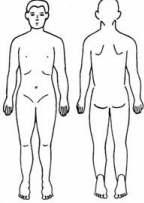
口腔 なし あり_____

頸部 なし あり_____

胸部 なし あり_____

腹部 なし あり_____

四肢 なし あり_____



<臨床検査所見>

心電図検査	所見：_____	精査の必要（無・有）
胸部X線	所見：_____	精査の必要（無・有）
尿検査	蛋白（_____） 糖（_____） 潜血（_____）	
血液検査	赤血球（_____） ヘモグロビン（_____） ヘマトクリット（_____）	
	白血球（_____）	
生化学検査	血清鉄（_____） AST（GOT）（_____） ALT（GPT）（_____）	
	CK（_____） 総蛋白（_____） 総コレステロール（_____）	
	HDLコレステロール（_____） 尿素窒素（_____） クレアチニン（_____）	
	尿酸値（_____） 血糖値（_____）	
	その他先生が重要と考えられる検査所見（_____）	

※ 血液・生化学検査における異常値について、貴施設での正常値より低値の場合は↓、高値の場合は↑を付記して下さい。【例：AST（68↑）】

コメント備考欄

_____年 _____月 _____日 医療機関名・住所・電話番号

医師名：_____ 印

※ 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改造して使用しております。

このページは医師が記入します

氏名：； 生年月日：昭・平 年 月 日

診断書（2）

※ その他、選手の障害内容や合併症などに応じて前頁検査項目以外の検査を施行されましたら、その結果の記載をお願い致します。

ご診断に基づき、以下の2点について適否のご意見をお願いいたします。ただし、最終決定については協会の医学委員会が行い、その責任を負います。率直なご意見を御願いたします。

① 選手の海外渡航について 適 ・ 不適（いずれかに○）

② スポーツ選手としての大会参加 適 ・ 不適（いずれかに○）

上記についてのコメント

（上記①②について、ご判断された理由等をご記入ください）

_____年 _____月 _____日 医療機関名・住所・電話番号

医師名：_____ 印

※ 本調査用紙・診断書は、財団法人日本体育協会の国体参加選手のメディカルチェック用診断用紙の一部を障害用に改造して使用しております。

【別紙1】
選手記入

基本健康調査用紙*別紙：コミュニケーションについて

※この用紙は「基本健康調査用紙」と一緒に「全日本ろうあ連盟スポーツ委員会」へ提出してください。

選手氏名：_____ 性別：男・女

生年月日：昭和・平成 _____年 _____月 _____日 年齢：_____歳

(1)あなたは普段、聞こえる人に自分の話したい内容をどんな方法で伝えますか。

手話 筆談 音声 複数の方法（ と ）

その他の方法（ _____ ）

(2)あなたは普段、（手話のできない）聞こえる人から話しかけられる内容を、どんな方法で理解していますか

筆談 口の形 音声 複数の方法（ と ）

その他の方法（ _____ ）

(3)あなたは病院で診療を受けるときに、手話通訳を利用していますか。

いつも利用する 状況によっては利用する 利用しない

(4)あなたは「自分の病気」や「体調」について医師と話するとき、手話通訳に居てほしいですか。

いて欲しい どちらでもいい 状況による いてほしくない

(5)あなたは医師が話す重要な点については紙にメモして欲しいですか。

メモを渡してほしい メモは必要ない 自分でメモをしたい

(6)あなたは、診療を受けるときに、手話通訳や筆談の他に、どのような配慮を希望しますか。自由に書いてください。

例）マスクを外してほしい（口を見せてほしい）、途中で確認を入れてほしいなど

(6)あなたは高熱や嘔吐、めまいなどで具合がとても悪いときに、どんな方法で話しかけて欲しいですか。

手話 筆談 音声 複数の方法（ と ）

その他の方法（ _____ ）

※ この質問用紙は「第7回アジア太平洋ろう者競技大会」にあたり、財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会が作成しました。

第7回アジア太平洋ろう者競技大会
帯同ドクター診療記録用紙

初診日 _____月 _____日 _____時

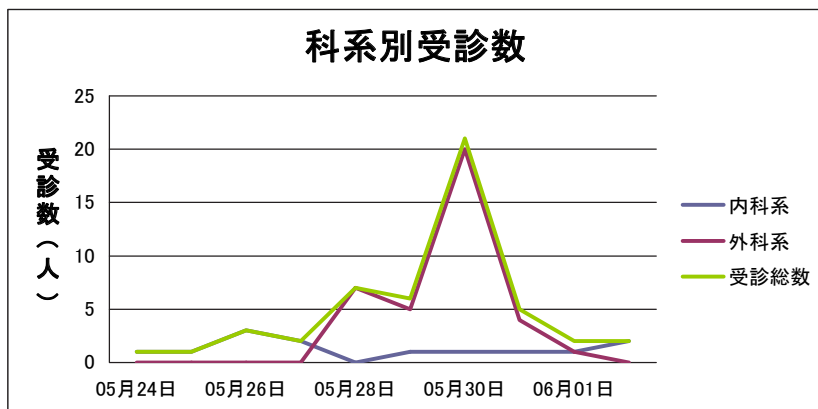
名前	_____	生年月日 _____年 _____月 _____日
性別	男 ・ 女	年齢 _____歳
「選手」	「役員」	競技種目 _____
主訴	_____	
現病歴・既往歴・アレルギー 身体所見	_____	
診断	_____	
治療 （投薬・指示・処置・紹介など含む）	_____	
日付	経過	処置 薬剤
/	_____	_____
/	_____	_____
/	_____	_____
/	_____	_____
/	_____	_____
/	_____	_____

診療した帯同ドクター氏名 立石／羽森

- 48 -

【第7回アジア太平洋ろう者競技大会 内科・外科 受診状況】

受診日	内科		内科系合計	外科		外科系合計	受診合計
	選手	スタッフ		選手	スタッフ		
5月24日	1	0	1	0	0	0	1
5月25日	1	0	1	0	0	0	1
5月26日	2	1	3	0	0	0	3
5月27日	1	1	2	0	0	0	2
5月28日	0	0	0	6	1	7	7
5月29日	1	0	1	5	0	5	6
5月30日	1	0	1	20	0	20	21
5月31日	0	1	1	4	0	4	5
6月1日	0	1	1	1	0	1	2
6月2日	0	2	2	0	0	0	2
合計	7	6	13	36	1	37	50



第7回アジア太平洋ろう者競技大会 トレーナールーム利用表

								天気	No.	
	時間	種目	氏名	レベル	部位	傷害名	処置	トレーナー		
1	記入例	00:00	○×△□	B	右足関節	捻挫	Icing、固定	○×		
2	日付、曜日	00:00	△□○×	C	左下腿部	筋痙攣(クランプ)	Ma、St	△□		
	合計数									
レベル=A:重症 B:中等度 C:軽症								処置:略語可 (Ma:マッサージ、St:ストレッチ)		
【利用者処置表】										
	月日	時間	種目	男女	氏 名	レベル	部位	傷害名	処置	トレーナー
1	5月28日			女		C	右手関節	腱鞘炎	テーピング指導、トレーニング指導	中島
2	5月28日			女		C	腰部	筋筋膜性腰痛	低周波、ストレッチ指導	中島
3	5月29日			男		C	右肩	脱臼	テーピング指導	中島
4	5月29日			男		C	大腿部	筋疲労	ストレッチ指導	中島
5	5月29日			男		C	腰部	筋疲労	ストレッチ指導	中島
6	5月29日			女		C	腰部	筋疲労	ストレッチ指導	中島
7	5月29日			女		C	右肘	筋炎	ストレッチ指導	中島
8	5月30日			男		C	右肩	脱臼	テーピング指導	中島
9	5月30日			男		C	右足関節	打撲(本日)	アイシング、圧迫	中島
10	5月30日			男		C	右足関節	捻挫(3月)	テーピング指導	中島
11	5月30日			男		C	右上腕部	筋疲労	ストレッチ指導	中島
12	5月30日			男		C	右肘	関節炎	ストレッチ指導	中島
13	5月31日			女		C	右肘	筋炎	テーピング、アイシング	中島
14	5月31日			男		C	腰部	筋疲労	ストレッチ	中島
15	5月31日			男		C	右肘	関節炎	アイシング、圧迫	中島
16	6月1日			女		C	右手関節	腱鞘炎	テーピング指導、トレーニング指導	中島
17	6月1日			男		C	腰部	筋疲労	ストレッチ指導	中島
18		:								
19		:								
20		:								
【備考】										

第7回アジア太平洋ろう者競技大会 in ソウル
速報 No. 1

日本選手団のメダル獲得数

金	個	銀	個	銅	個	総計	個
発行日	2012年5月27日(日)						
発行所	第7回アジア太平洋ろう者競技大会 in ソウル日本チーム本部						
発行責任者	日本チーム本部長 山根 昭治						

5月25日(金)・26日(土) APDSC評議員会

アジア太平洋地域から21ヶ国(オーストラリア、パレン、中国、台湾、香港、インドネシア、イラン、カザフスタン、韓国、マカオ、マレーシア、フィリピン、サウジアラビア、シンガポール、タイ、アラブ首長、ウズベキスタン、イラク、カザフタン、イエメン、日本)が出席し、第9回アジア太平洋ろう者スポーツ連合会評議員会が開催されました。今回の競技大会は2000年台湾で開催されて以来、12年ぶりの開催となります。その間、事情により2回中止されましたが、韓国のご尽力によりスポーツ競技が開催されることができ、評議員一同で喜びに満ち溢れていました。韓国の献身的な活動が大きく心から敬意を表します。

今度の第8回の開催地は、2015年10月17～26日台湾・桃園市で開催されることを正式に決定されました。競技は17種目を予定されています。

2012年～2015年のAPDSC執行委員選挙が行われ、次の通り選出されました。

会 長	ビョン・スニル(韓国)
事務局長	デニス・タン(シンガポール)
財務担当役員	リム・トゥック・ヘン(マレーシア)
執行委員	デイビット・ピーターズ(オーストラリア)、もう一人の新しい執行委員候補者はサウジアラビアの方とタイの方が挙げられていましたが、後日、執行委員会が協議の上決定されます。

(新会長に選ばれたビョン・スニル(左写真)のコメント)

「このような国際的な場で会長に選ばれて嬉しい。特に貧しい国は、福祉が遅れているため、スポーツ参加する機会も十分与えられていない状況に置かれているので、その国の行政をはじめ、関係者に健聴者と対等に並べるよう社会資



源を改善できるよう強く支援していきたい。30年前に日本に来て、日本の進んでいる福祉制度を学び韓国において改善に活かすことができた。日本の支援に感謝している。6月第60回全国ろうあ者大会においてお祝いと感謝を述べたい。」



左の写真をご覧ください。真ん中の女性の方、見覚えありませんか？10年前、アジアろう者友好基金でタイのろう児達を全国ろうあ者大会 in 沖縄に招聘して、舞台の上で日本の支援に対して感謝を述べられた方です。現在、タイろうスポーツ協会のスタッフとして立派に活躍されています。彼女より日本に対して感謝のことがよせられました。「これまでの皆様のご支援にお礼申し上げます。私もずいぶんと成長したかと思いますが、これまで同様に”かわいいタル”と覚えてくださいね」 chatnapha boonwattna より

5月26日(土) 開会式 盛大に開催！

蚕室総合運動場の室内体育館で16：30～18：30開会式が盛大に開催されました。入場された国は25ヶ国、選手・スタッフは1100名でした。日本選手団は、台北デフリンピック・水泳競技で金メダルを獲得したホープの茨隆太郎選手(東京)の騎手を先頭に、堂々とう入場しました。



明日からいよいよ熱戦を繰り広げる競技が12年ぶりに開催されます。

【試合の結果】

5月22日サッカー予選
日本6－1カザフスタン

【5月27日試合予定】

- ・テニス 男女シングルス 男女ダブルス
- ・サッカー 日本対イラン

【5月28日試合予定】

- ・ボウリング ・自転車 ・サッカー 日本対香港 ・水泳 ・卓球 ・テニス

※7th Asia Pacific Deaf Games Seoul 2012 オフィシャルサイト <http://www.seoul.com/>

第7回アジア太平洋ろう者競技大会 in ソウル
速報 No. 2

日本のメダル獲得数

金	7個	銀	8個	銅	6個	総計	21個
発行日	2012年5月29日(火)						
発行所	第7回アジア太平洋ろう者競技大会 in ソウル日本チーム本部						
発行責任者	日本チーム本部長 山根 昭治						

各競技の試合結果(5月27日・28日)

＼(＾▽＾)／(＊＾＾＊)／ おめでとう！

金メダル男子第1号 茨 隆太郎 選手(東京) 400m個人メドレー
金メダル女子第1号 藤川 彩夏 選手(長野) 50mバタフライ



藤川彩夏選手(長野県松本ろう学校高校2年)のコメント

「中学2年は台北デフリンピック、昨年は世界選手権に出場しました。国際的な雰囲気慣れてきたこともあり、金メダルを獲得できて嬉しいです！他の種目も金メダルを一個でも多く取れるよう頑張ります。応援よろしくお願います。」

サッカー

日本 vs イラン (2対2)引き分け 通算1勝1引分

戦評…イランは優勝候補と言われているが、引き分けの結果となり日本が成長したことがうかがえる。日本が2点失点したのは、2本ともペナルティエリアPKで痛かった。実力的にはイランを上回っているので、決勝トーナメントでイランに勝ち金メダル獲得も大いに期待したい。(全日本ろうあ連盟スポーツ委員会国際事業部長太田)

日本 vs 香港 (2対0)勝利 通算2勝1引分
※明日マレーシアに勝てば、Bグループ1位で決勝トーナメントベスト4進出となります。

テニス

男子シングルス
松下哲也選手(大阪)

男子ダブルス
芦野正樹選手(神奈川)・梶野耕祐選手(大阪)

銀メダル獲得

女子ダブルス
飯塚由美子選手(東京)・尾形滋子選手(大阪)

銅メダル獲得

辻岡瑞恵選手(大阪)・豊田恵子選手(大阪)

銅メダル獲得

混合ダブルス
高濱哲郎選手(大阪)・辻岡瑞恵選手(大阪)

銅メダル獲得

松下哲也選手(大阪)・豊田恵子選手(大阪)

金メダル獲得

自転車
1000mスプリント
今村信也選手(大阪)

5位入賞

水 泳
茨隆太郎選手(東京) 400m個人メドレー
100m背泳
100m自由形
小塩崇文選手(福岡) 400m個人メドレー
1500m自由形
金持義和選手(佐賀) 100m背泳
山本 駿選手(東京) 1500m自由形
藤原 慧選手(東京) 1500mクロール
藤川彩夏選手(長野) 50mバタフライ
50m背泳
今村可奈選手(大阪) 200m自由形
50m背泳
久保 南選手(愛知) 200m自由形
200m平泳
高瀬理恵選手(東京) 200m平泳
金持・茨・山本・藤原 400mメドレーリレー

金メダル、☆アジア新
銀メダル獲得
銀メダル獲得
銅メダル
4位入賞
金メダル獲得
銀メダル獲得
金メダル獲得、☆世界新、アジア新
金メダル
銅メダル獲得
金メダル獲得
銀メダル獲得
銀メダル獲得
金メダル獲得、☆日本新
銀メダル獲得
銀メダル獲得、☆日本新



日本で有名な「ゆずり薬」映画監督の早瀬憲太郎さん(左側)は、自転車スタッフとしてソウルにきています。

「1000mスプリントでは、日本選手は2名ベスト8に進出することができた。今回のレースは公道を使用されていることで感激している。韓国国民への啓発普及の効果が大きい。韓国組織委員会の尽力に心より敬意を表したい。」と早瀬さんからコメントをいただきました。

第7回アジア太平洋ろう者競技大会 in ソウル

速報 No. 3

日本のメダル獲得数（5月30日 14時現在）

金16個 銀11個 銅10個 総計37個

発行日

2012年5月30日（水）

発行所

第7回アジア太平洋ろう者競技大会 in ソウル日本チーム本部

発行責任者

日本チーム本部長 山根 昭治

お見事！男子バスケット オーストラリアに残り 2.20 秒で逆転勝ち！！



最後まで諦めないで頑張っていたし、チームとしてもよくまとまっていた。選手たちを褒めてあげたい。



5月29日、男子バスケットは予選リーグ第1戦、日本 vs オーストラリアの試合があった。
台北デフリンピック6位の實力を持つオーストラリアと互角な戦いを繰り広げ、残りわずか 2.20 秒、辻間大選手（三重）が見事にバスケットカウントシュートを決め、89 対 88 接戦を制した。大柄なオーストラリア選手に対し、チームワークのとれたワンツーマンで徹し、最後まで走り抜いたのが光っていた。
【坂本知加良監督談（北海道）】

卓球

女子団体戦（上田、佐藤、有馬、牧山）

金メダル獲得

男子団体戦（梅村、望月、有馬、上江州）

銅メダル獲得

混合

梅村正樹選手（北海道）・上田萌（東京）

銀メダル獲得

混合

望月翔太選手（神奈川県）・佐藤理穂選手（東京）

銅メダル獲得

第7回アジア太平洋ろう者競技大会 in ソウル

速報 No. 4

日本のメダル獲得数（5月31日 13時現在）

金20個 銀15個 銅12個 総計47個

発行日

2012年5月31日（木）

発行所

第7回アジア太平洋ろう者競技大会 in ソウル日本チーム本部

発行責任者

日本チーム本部長 山根 昭治

水泳メダルラッシュ！藤原慧選手、藤川彩夏選手4冠獲得！

女子400m個人メドレー 藤川彩夏選手（長野）

金メダル獲得

女子100m背泳 藤川彩夏選手（長野）

金メダル獲得

今村可奈選手（大阪）

銀メダル獲得

女子100m自由形 今村可奈選手（大阪）

金メダル獲得

久保 南選手（愛知）

4位入賞 ※中学生

男子 50mバタフライ 山本 駿選手（東京）

銅メダル獲得

藤井 陽選手（愛知）

6位入賞

上田雄二選手（大阪）

6位入賞

男子200m自由形 藤原 慧選手（東京）

獲得金メダル アジア新

山本 駿選手（東京）

4位入賞

男子200m平泳 中川裕介選手（大阪）

6位入賞

男子 50m背泳 金持義和選手（佐賀）

金メダル獲得

茨隆太郎選手（東京）

銀メダル獲得

男子400mリレー

（茨、金持、山本、藤原）

金メダル獲得 日本新

※中国を破って初優勝。前日の挽回を果たす。

男子400m自由形 藤原 慧選手（東京）

金メダル獲得 アジア新 4冠獲得

山本 駿選手（東京）

銅メダル獲得

小塩崇文選手（福岡）

4位入賞 ※中学生

女子200m背泳 藤川彩夏選手（長野）

金メダル獲得 4冠獲得

男子200m個人メドレー 茨隆太郎選手（東京）

金メダル獲得

小塩崇文選手（福岡）

4位入賞

女子 50m自由形 今村可奈選手（大阪）

銀メダル獲得

高瀬理恵選手（東京）

銅メダル獲得

久保 南選手（愛知）

4位入賞

男子100mバタフライ 山本 駿選手（東京）

銀メダル獲得

柔道

～60kg 吉良暁生選手（千葉）

金メダル獲得

～66kg 東岸林太郎選手（高知）

銅メダル獲得

～73kg 木ノ下寿選手（京都）

金メダル獲得

一本勝ちガッツポーズ 吉良選手→

＝柔道監督江上忠義氏のコメント＝
各国の聴覚障害の選手が集まって競技できることは非常に興味深い。会場のボランティアの方をはじめ多くの関係者の協力で、一般の大会と変わらない大会運営されているのでとても素晴らしい。
今日、選手はベストコンディションで試合に臨み、美しい一本勝ちで試合に勝つことができた。日本の良き伝統が受け継がれており、普段の練習の成果が表れている。今大会をはじめデフリンピック、パラリンピックの素晴らしいさを国内で広めて発展してほしいと願っている。

＝山田光穂選手（滋賀）の抱負＝
5月30日～100kg 出場
日本代表としての自覚を持って、皆メダルを取って帰国したい。そしてデフリンピックでの自信

サッカー

日本 3対0 マレーシア 通算3勝1引分 Bグループ1位 準決勝進出決定

水泳

メダルラッシュ中！詳細は確認中。
（1500m自由形で世界新記録達成した藤原慧選手（日本大学豊山高校2年）のコメント）
国際大会は初出場で緊張したが、いつもの試合と変わらずに臨むことができた。世界新記録達成した時、最初は信じられなかったが、後になって良かったと思った。
これからも自己更新ができるよう頑張っていきたい。

自転車

35km 今村信也選手（大阪） 6位入賞

ボウリング

男子ダブルス 新垣匡史選手（沖縄）・馬場新二選手（愛知） 4位入賞

につなげるよう頑張っていきたい。

サッカー

日本 3対0 マレーシア 通算3勝1引分 Bグループ1位 準決勝進出決定

水泳

メダルラッシュ中！詳細は確認中。
（1500m自由形で世界新記録達成した藤原慧選手（日本大学豊山高校2年）のコメント）
国際大会は初出場で緊張したが、いつもの試合と変わらずに臨むことができた。世界新記録達成した時、最初は信じられなかったが、後になって良かったと思った。
これからも自己更新ができるよう頑張っていきたい。

自転車

35km 今村信也選手（大阪） 6位入賞

ボウリング

男子ダブルス 新垣匡史選手（沖縄）・馬場新二選手（愛知） 4位入賞

柔道

～81kg 宮下真弥選手（愛知） 銀メダル獲得

～100kg 山田光穂選手（滋賀） 銀メダル獲得

※5名の日本柔道選手は、全員メダルを獲得することができました。
おめでとうございます。柔道団は本日、帰国しました。

女子バレーボール

日本 3対0 イラン 本日15時～vsウズベキスタンを破ると金メダル！
（狩野美雪監督談）
ろうの国際的競技と関わるのは初めてで、どういう状況なのかなかなかつかめない。しかし、自分たちの力を発揮できるように、そして金メダルを獲得して日本へ持ち帰りたい。

卓球

男子ダブルス 梅村正樹選手（北海道）・望月翔太選手（神奈川県） 銅メダル獲得

女子ダブルス 上田萌選手（東京）・佐藤理穂選手（東京） 金メダル獲得

フットサル

第1試合 日本 10対0 韓国 第2試合 日本 15対0 モンゴル
本日16時～ vsタイを破ると金メダル！

自転車

100km 今村信也選手（大阪） 4位入賞

（今村選手のコメント）
1周5キロを20周という100キロロードに4名出場して必死に頑張ったが、3位とほんのわずかの差で4位となり非常に悔しい思いをした。しかし4位になれたのも他の日本選手の力のおかげと思っている。また、次に最後の50キロもあるので、今度こそメダルを！と頑張ります！

男子バスケット

日本 50対78 台湾 通算1勝1敗

本日、日本が韓国に勝って台湾がオーストラリアに勝つと、明日の決勝戦進出決定！
「日本は台湾にリベンジしたいので、（台湾を）応援したいと思います。」
（バスケットスタッフ篠原談）

硬式野球

日本 6060007 19

韓国 1201301 8

本日 台湾 vs 韓国 明日 日本 vs 台湾

6月1日 決勝戦

（本部スタッフです）

桑原絵美さん（左端）・ろう者 現地語（韓国語）通訳者

「それまでデフスポーツに関わる組織がわからなかったが、選手参加を支えるOC・APDS C・ICSD等の部分を見ることができ勉強になっている。バスケのオーストラリア戦でのバスケカウントシュートに感激した。日本の水泳では若い選手が増えてきているが、他の競技も若手の育成を図っていく必要があると感じた。」

羽森貴さん（真ん中）・健聴者・医者「デフアスリートとコミュニケーションをとりながら、選手の健康状況を把握して、ベストなコンディションで試合に臨めるよう協力させていただいている。今大会では、お互いに目を見ながら真剣にスポーツをしている姿に感激している。」

梅本悦子さん（右端）・医者付き手話通訳者「通訳者として医療・スポーツに関わる専門用語をはじめ、デフスポーツとの関係組織について勉強不足であることを痛感している。また英語力も必要であった。デフアスリートが全力を尽くして試合にかける姿がとても素晴らしい。」

（トピックス）

女子バレーボール競技の会場で、左の写真のとおり、イランの選手たちは、一般的なユニフォームに加え、イスラム教の伝統に従い、頭から首を覆うスカーフ、ヒジャブをまとうてピッチに立っていた。

イランの女性アスリートは空手、バレーボールのようなスポーツでは国際的な舞台で活躍しているが、水泳と体操のようなスポーツでは不在が目立っている。なおFIFA（国際サッカー連盟）には、「自分や他の選手に危険を及ぼす装備を使用してはならない」という服装規定があるため、サッカーの参加が認められていない。

卓球

女子シングル 上田 萌選手（東京） **金メダル獲得**

同 佐藤理徳選手（東京） **銀メダル獲得**

男子フットサル

準決勝 日本 2対6 タイ

3・4位決定戦 日本 5対1 韓国

銅メダル獲得

※1位イラン 2位タイ 3位日本

水泳

女子400m自由形 今村可奈選手（大阪） **金メダル獲得**

久保 南選手（愛知） **銀メダル獲得**

久保 南選手（愛知） **金メダル獲得**

高瀬理恵選手（東京） **銀メダル獲得**

女子200m個人メドレー 藤川彩夏選手（長野） **銀メダル獲得**

久保 南選手（愛知） **銅メダル獲得**

女子100mバタフライ 藤川彩夏選手（長野） **銀メダル獲得**

今村可奈選手（大阪） **銅メダル獲得**

男子200mバタフライ 藤原 慧選手（東京） **銀メダル獲得 日本新**

男子200m背泳 金持義和選手（佐賀） **金メダル獲得**

茨隆太郎選手（東京） **銀メダル獲得**

男子50m自由形 茨隆太郎選手（東京） **銀メダル獲得**

山本 駿選手（東京） **5位入賞**

男子800mリレー（茨、金持、山本、藤原） **金メダル獲得 アジア新**

日本水泳団は金20個、銀19個、銅7個計46個を獲得した

4日間の過密なスケジュールの中で選手たちはよく頑張ってくれた。しかし韓国の女子選手の棄権が相次いだため規則により3種目がオープン参加（メダルなし）になったことは非常に残念だった。次の来年のデフリンピック開催が決まったら、アジア大会以上のレベルアップを上げメダル獲得に向けて頑張りたいと思う。これからも応援よろしくお願ひします。ありがとうございます。（豊田監督・日本ろう者水泳協会ホームページより）

※お詫びと訂正 速報No. 4の1ページ目に、久保南選手（愛知）と小塩崇文選手（福岡）は中学生と載っていますが、高校1年の誤りです。ここに訂正してお詫びします。

第7回アジア太平洋ろう者競技大会 in ソウル

速報 No. 5

日本のメダル獲得数（6月1日14時現在）

金26個 銀24個 銅15個 総計65個

発行日 2012年6月1日（金）

発行所 第7回アジア太平洋ろう者競技大会 in ソウル日本チーム本部

発行責任者 日本チーム本部長 山根 昭治

日本男子サッカー サウジアラビアを倒し、初決勝戦進出！！

5月31日（木）17時から日本 vs サウジアラビアの準決勝戦が行われた。

前半は、お互いに譲らない状態が続き0対0で終了。

後半は、20分過ぎ相手が疲れ始めた頃、日本が得意とする組織的なプレーで積極的に攻撃し、ペナルティエリア PK が与えられ1点が入った。その後も続けて2点入り、3対1で快勝した。

明日（6月2日）11時から、決勝戦に初めて進出する。待望の金メダル獲得も目前となった。

決勝戦の相手は、予選リーグ選で引き分けたイランと再戦する。もう一方行われていた韓国 vs イランは1対1延長引分、PK4：5で韓国が惜敗した。

女子バレーボール

1位 日本 **金メダル獲得**

2位 ウズベキスタン

3位 イラン

（狩野実雪監督談）

今回アジア太平洋大会で優勝できたことは大変嬉しく思う。選手皆もケガもなくよく頑張ってきた。しかし、まだ世界選手権大会、デフリンピックで金メダルをとるには力不足で、今後ももっと磨いてパワーアップしていきたい。

男子バスケ

日本 12対31 韓国 台湾 66対65 オーストラリア

予選リーグの結果 1位台湾 2位日本 3位オーストラリア 4位韓国

本日17時から 決勝 日本 vs 台湾

ボウリング

今全員少しずつ成績をあげて頑張っている。特に韓国、台湾が強いが負けずに逆転するよう最後まで頑張りたい。（笹木監督談）

バドミントン

目標は団体戦でメダルと取ることだったが、TD会議で抽選をやり直して中国といきなり対戦することになり運が悪かった。個人戦競技は内容的にはよかったが、他のアジアの国がレベルアップしている。日本チームとしてメンタル面と技術面の両方をもっと磨いていかなければならないと思っている。（佐藤裕介監督談）

【本部スタッフです】

立石智彦さん（右から2番目）・医者

「初めてデフのスポーツ大会に付添いさせていただいた。選手とコミュニケーションがうまくいかない難しさがあったが、選手たちは真剣にスポーツに取り組んでいる姿を見てとても感動している。少し手伝えなかったが、今後も機会があったら付き添いさせていただきたい。これからもますます活躍されることを期待している。」

中島幸則さん（右から3番目）・アスレティックトレーナー

「今回はアスレティックトレーナーとしての自分を活かすことができ良かった。強い選手が集まって、台北デフリンピックよりも多くメダルをとることができていて、とても嬉しい。次のデフリンピックでは全ての競技にアスレティックトレーナーを置くことができるようにと思っている。また、私の娘を卓球選手として、私と一緒にデフリンピックへ出場できることを祈っている。」

宮坂良子さん（右端）・看護師「今回のような大会は初めて。選手たちが自分の力を発揮できるように少しでも役に立てればと思い参加した。試合を観戦していると感激すると共に選手たちから元気をもらっている。今後も頑張ってもらっていい体験をさせてもらって感謝している。」

長崎千佳恵さん（左端）・手話通訳者「デフ・スポーツに付き添ったのは、2001 ローマ・デフリンピック以来で2回目。今回、頑張っている選手たちを見てローマのことを思い出してきた。また、ドクターチーム付きの手話通訳は初めてであるが、怪我をしたり体調を崩したりする選手もいるが、それらを最小限に抑えた上で試合に臨んでいる姿を見て感動した。次のデフリンピックを目指して体調を整えて自分の力を発揮できるよう祈っている。」

- 52 -

第7回アジア太平洋ろう者競技大会 in ソウル 速 報 No. 6 (最終号)

日本のメダル獲得数 (6月3日現在)

金 28 個 銀 25 個 銅 17 個 総計 70 個※

※デモ競技 (野球・金) 含む

発行日 2012 年 6 月 6 日 (水)
発行所 第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会 in ソウル日本チーム本部
発行責任者 日本チーム本部長 山根 昭治

日本男子サッカー 初栄冠！ おめでとう！



6 月 1 日 (土) 11 : 40 ~ 総合運動場のサブグラウンドで、イランとの決勝戦が行われた。強豪のイランと手に汗をにぎる一進一退の試合が続き、前半は 0 対 0 で終了。後半 12 分、ついに均衡が破れた。副主将の細見選手 (兵庫) がフリーキックで、壁を作っていた選手がジャンプすることを見込んで、低めの 25 メートル弾丸フリーキックを放ちゴール！日本の先制点が決まった。その後イランも必死で反撃をするものの、GK 松元選手 (福岡) の好防御をはじめ、日本選手が一団となってことごとく防ぐ。ついに 1 対 0 で初優勝を成し遂げた！
1 位日本、2 位イラン、3 位韓国

主将野呂選手 (愛知) 談

「19 歳の国際大会に初出場して以来 18 年間かかって、やっと 1 位になりました。苦しかったけど感無量で、とても嬉しいです！応援ありがとうございました！」

日本ろう者サッカー協会高橋孝司 (埼玉) 前会長談

「日本が国際大会に初参戦したのは 1983 年に台湾での 4ヶ国対抗親善大会。翌年に第 1 回アジア太平洋大会が香港で行われ、関東を中心としたチームが参加し、ロスでのデフリンピックには 85 年に北海道チームが参戦したが、すべて無惨な結果に終わった。日本ろう者サッカー協会を設立後、長年にわたる強化に励み、初めて国際大会参戦して以来、29 年目で初の栄冠を獲得し感無量である。ご声援ありがとうございました。」

日本野球 韓国との決勝戦でサヨナラ逆転勝ち！金メダル獲得！

5 月 31 日 (金) デモンストレーションの野球競技で、韓国と決勝戦が行われた。7 回の最終回、1 死後、日本は連続ヒットを重ね、韓国のエラー等の隙に一気にサヨナラ！逆転勝ちとなった。
1 位日本、2 位韓国、3 位台湾



韓国 0 2 0 0 5 2 0 9
日本 2 1 0 0 4 0 3 × 10

日本男子バスケッ ト 決勝戦で惜しくも台湾に負ける！銀メダル獲得！

5 月 31 日 (金) 台湾との決勝戦が行われた。予選リーグでは 28 点差で台湾に負けていた日本は、リベンジに燃える。出だが良く、ミドルシュートや連攻が決まり台湾と互角に戦っていた。一時は台湾を 7 点リードしたがあったが、残り 3 分に同点となった。その後はスタミナの差が現れ、日

本のシュートが決まらず、72 対 65 で惜敗した。1 位台湾、2 位日本、3 位オーストラリア



女子バドミントン ダブルスで有望のメダルを獲得！

バドミントンは、ローマデフリンピック以来、国際大会でメダルを獲得してきたが、今大会では無冠になる心配があった。日本としての最後のゲームとなる女子ダブルス 3・4 位決定戦では、品田選手 (茨城) ・樋渡選手 (福岡) が見事に勝ち、有望の銅メダルを獲得した。男子シングル 3・4 位決定戦に挑んだ勝田選手 (佐賀) は惜敗し 4 位に入賞した。

【各国からのコメント】

- ・韓国では絶対見られない素晴らしいバスケの決勝戦であった。両国ともプロのように技術も高く感動でした。(韓国入・メディアチームカメラマン)
- ・同じろう者なのかと思うぐらい、見ていて楽しいバスケ試合でした。日本は負けたいけどもハーフタイムの時、選手が床を叩いたり集まったりしている姿をみていいチームだと思いました。(韓国入・国際手話通訳者)
- ・この大会には国際手話、韓国語英語の通訳を配置しました。予算の関係でボランティアを減らさなければならず、そこは残念ですが、通訳を通して世界のろう者と交流して世界が広がったことがやりがいを感じる時です。(韓国入・手話通訳チーム長)
- ・卓球試合をみていろんなことを学びました。いつか僕も代表になってこの舞台に立ちたいです。(卓球をやっている韓国の男の子)
- ・アジア太平洋の大会を始めて見ました。勝利と友情を熱く感じることができました。これらを通して練習に力を入れることができると思います。若い選手が活躍してくれてとても幸せです。

(日本人・20 世紀デフリンピックの幾島政幸さん)

※上記は、現地韓国通訳者の桑原絵美さんに取材していただきました。ありがとうございました。

競技別メダル獲得数

	金	銀	銅	計
水 泳	1 9	1 9	7	4 5
卓 球	3	2	3	8
柔 道	2	2	1	5
テ ニ ス	1	1	4	6
男子サッカー	1			1
女子バレーボール	1			1
男子バスケッ ト		1		1
バドミントン			1	1
男子フットサル			1	1
計	2 7	2 5	1 7	6 9
デモ競技 野 球	1			7 0

【編集後記】

日本選手たちの頑張っている様子を皆さんへ届けたく、何とか No. 6 の最終号を発行することができホッとしています。結果的には選手たちの予想以上の活躍でデモ競技を含め 70 個のメダルを土産に無事に帰国することができました。日本の各競技団体は、東日本大震災の復興に寄せる想いがあり、チームワークがとても素晴らしく他の国からでも高く評価されています。それが私にとって大きな喜びであります。

今回、J P C (日本パラリンピック委員会) の取り計らいで、14 名のメディカルを中心とする本部員を派遣していただきました。本部委員もチームワークの大切さを念頭に置きながら、選手達の症状・怪我を最小限に抑えることに努め、試合に臨ませることができました。

今後も選手たちが安心して試合に臨め、そのための相談できる体制や選手自身の健康管理への自覚をより一層強化できるよう取り組んでいきたいと思います。

最後になりますが、70 個のメダルを獲得したのも皆様のご声援のおかげであり、深くお礼を申し上げます。今後もデフスポーツの発展にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本部長 (全日本ろうあ連盟スポーツ委員会委員長)
山根 昭治

平成 24 年度指定強化選手・競技団体国内外強化活動費助成事業
第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会 本部報告書

発 行 日：2013 年 1 月 31 日

発 行：財団法人全日本ろうあ連盟

〒162-0801 東京都新宿区山吹町130 SKビル8階

TEL 03-3268-8847 FAX 03-3267-3445

ホームページ <http://www.jfd.or.jp/>

Eメール jfd-sc@jfd.or.jp

編 集：財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会

印 刷：日本印刷株式会社

この事業は、公益財団法人日本障害者スポーツ協会・国庫補助金にて
行ったものです。



大会エンブレム